

2024 年 12 月

# 食料安全保障月報 (第 42 号)



令和 6 年 12 月 27 日

**農林水産省**

# 食料安全保障月報について

## 1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

## 2 対象者

本月報は、2021年6月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみなさま、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

## 3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報(生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等)について重点的に記載しています。

## 4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

# 2024年12月食料安全保障月報（第42号）

## 目次

### 概要編

|     |                               |   |
|-----|-------------------------------|---|
| I   | 2024年12月の主な動き                 | 1 |
| II  | 2024年12月の穀物等の国際価格の動向          | 4 |
| III | 2024/25年度の穀物需給（予測）のポイント       | 4 |
| IV  | 2024/25年度の油糧種子需給（予測）のポイント     | 4 |
| V   | 今月の注目情報「アルゼンチンの主要穀物等の生産・輸出動向」 | 5 |

### （資料）

|       |                              |    |
|-------|------------------------------|----|
| 1-1～3 | 穀物等の主要輸出国の生産量（過去10年平均との増減比較） | 10 |
| 1-4   | 穀物等の国際価格の動向                  | 13 |
| 2     | 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移          | 14 |
| 3     | 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、品目別）       | 15 |
| 4     | 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の状況      | 17 |
| 5     | 食品小売価格の動向                    | 21 |
| 6     | 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）          | 22 |
| 7     | FAO食料価格指数                    | 24 |

### 今月のコラム

|                            |    |
|----------------------------|----|
| 「米国便り：米国産とうもろこし、大豆の輸送インフラ」 | 25 |
|----------------------------|----|

### 品目別需給編

|         |  |   |
|---------|--|---|
| I       | 穀物   |   |
| 1       | 小麦   | 1 |
| <米国>    | 2024/25年度の輸出量は前月から上方修正され23.1百万トンの見込み           |   |
| <カナダ>   | 2024/25年度の生産量は前月から上方修正され35.0百万トンの見込み（AAFC）     |   |
| <豪州>    | 2024/25年度の生産量は前回予測から上方修正され31.9百万トンの見込み（ABARES） |   |
| <EU27>  | 2024/25年度の生産量は前月から下方修正され119.5百万トンの見込み（EC）      |   |
| <ロシア>   | 2024/25年度の輸出量は前月から下方修正され47.0百万トンの見込み           |   |
| <ウクライナ> | 2024/25年度の輸出量は前月から上方修正され16.5百万トンの見込み           |   |
| <中国>    | 2024/25年度の輸入量は前月から下方修正され11.0百万トンの見込み           |   |

|    |  |    |
|----|--|----|
| 2  | とうもろこし                                       | 9  |
|    | ＜米国＞ 2024/25年度の生産量は史上最高の前年度から1.3%減少する見込み     |    |
|    | ＜ブラジル＞ 2024/25年度の生産量は前年度から4.1%増加する見込み        |    |
|    | ＜アルゼンチン＞ 2024/25年度の生産量は、前年度から2.0%増加する見込み     |    |
|    | ＜ウクライナ＞2024/25年度の生産量は、前年度より18.5%減少する見込み      |    |
|    | ＜中国＞ 2024/25年度の生産量は、前年度から1.1%増加する見込み         |    |
| 3  | コメ   | 15 |
|    | ＜タイ＞ 2024/25年度の生産量は、前年度に比べ0.5%増加する見込み        |    |
|    | ＜米国＞ 2024/25年度の生産量は、前年度に比べ0.7%増加する見込み        |    |
|    | ＜中国＞ 2024/25年度の生産量は、前年度に比べ1.0%増加する見込み        |    |
|    | ＜インド＞ 2024/25年度の生産量は、前年度に比べ5.2%増加する見込み       |    |
|    | ＜ベトナム＞ 2024/25年度の生産量は、前年度に比べ0.8%増加する見込み      |    |
| II | 油糧種子   |    |
|    | 大豆   | 21 |
|    | ＜米国＞ 2024/25年度の生産量は前年度から7.2%増加する見込み          |    |
|    | ＜ブラジル＞ 2024/25年度の生産量は前年度から10.5%増加する見込み       |    |
|    | ＜カナダ＞ 2024/25年度の生産量は前年度から8.4%増加する見込み (AAFC)  |    |
|    | ＜中国＞ 2024/25年度の生産量は、史上最高の前年度から0.7%減少する見込み    |    |
|    | ＜アルゼンチン＞ 2024/25年度の生産量は、前年度から7.9%増加する見込み     |    |
|    | (参考1) 本レポートに使用されている各国の穀物年度について(2024/25年度)... | 27 |
|    | (参考2) 単位換算表                                  | 27 |
|    | (参考3) 各国のクロップカレンダー一覧(主要品目毎)                  | 28 |

【利用上の注意】

表紙写真：米国ネブラスカ州のとうもろこし畑。フィル・ヒンリックス氏の圃場では収穫終了後、圃場を strip till という株を残す方法で耕し、11月からアンハイドロス（無水アンモニア）の施肥を行っている。（ネブラスカ州 2024年12月11日）撮影者：フィル・ヒンリックス氏

(概要編)

## I 2024年12月の主な動き

### 主要穀物等の需給・相場等について

主要穀物等の2024/25年度の作況について、北半球での収穫がほぼ終了した一方、南半球では大豆等の作物が作付期から生育初期を迎えている。

2024/25年度の状況について、品目別にみると、12月の米国農務省（USDA）の需給報告によれば、小麦については、EU、ロシア、英国で単収・収穫面積ともに前年度より減少するものの、豪州、米国、中国、インドで単収・収穫面積ともに増加、カザフスタン、カナダで単収が増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。ロシアのウクライナ侵攻に関連し、2022年3月に史上最高を更新した小麦の国際相場は侵攻時の水準を下回ったものの、ウクライナ産穀物の輸出再開に関する4者合意（黒海穀物イニシアティブ）については2023年7月にロシアが離脱し停止。現在、黒海の臨時回廊からの輸出が順調に機能しているものの、EU向け輸出の動向も含め注視が必要。

とうもろこしについては、ブラジル、南アフリカで単収・収穫面積ともに前年度より増加、中国で収穫面積が増加するものの、ウクライナで単収・収穫面積ともに減少、米国で収穫面積が減少、ロシア、EUで単収が減少すること等から、世界全体の生産量は前年度を下回る見通し。

大豆については、ブラジル、米国、アルゼンチンで単収・収穫面積ともに増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。

いずれの品目も、旺盛な消費需要により期末在庫は依然としてタイトな状況であり、引き続き注視が必要。

FAO（国連食糧農業機関）が公表している食料価格指数については、主に乳製品、植物油の価格の上昇等により、10月の126.9から、11月(最新値)は127.5に上昇(参考:2023年11月120.6、2022年11月134.7、2021年11月135.3、2020年11月105.6)。海上運賃については、バルチック海運指数（穀物輸送等に使用される外航ばら積み船の運賃指数）が、直近5カ年の平均値の約6割の水準で推移。

### 早期注意段階の継続について

緊急事態食料安全保障指針に基づく「早期注意段階」については、2021年7月に、主要輸入農産物の国際価格や海上運賃の上昇、国際的な物流の遅れ等の当時の状況を踏まえて適用。2024年12月も引き続き適用した一方で、主要穀物等の国際相場や海上運賃についてはここ最近下落傾向で推移しており、引き続きその動向に留意。

【参考】早期注意段階について（農林水産省HP）

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/soukichuui.html>



## ウクライナの生産・輸出動向

USDA の 12 月需給報告によれば、2024/25 年度の小麦の生産量は、収穫面積は増加するものの単収が減少することから、前年度より 0.4%減少し 2,290 万トンとなる見込み。また、とうもろこしの生産量は、収穫面積・単収ともに減少することから、前年度より 18%減少し 2,650 万トンとなる見込み。2024/25 年度の小麦の輸出量は、生産量及び期首在庫の減少を受け、前年度より 11%減少し 1,650 万トンとなる見込み。とうもろこしの輸出量も前年度より 22%減少し 2,300 万トンとなる見込み。

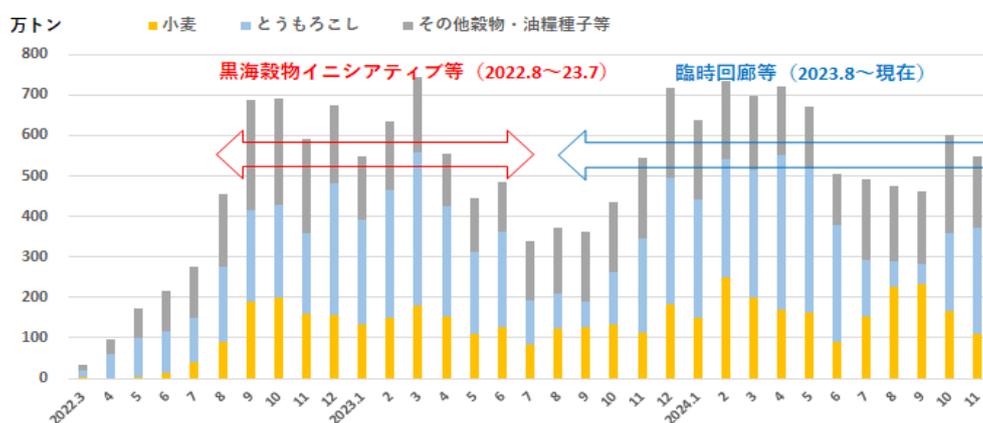
ウクライナ農業政策食料省によれば、11 月 29 日現在、2024/25 年度の小麦の収穫作業は終了し、とうもろこしの収穫進捗率は 96%である。また、12 月 2 日現在、2025/26 年度の冬小麦の作付進捗率は 98%である。ウクライナ気象センターによれば、11 月末現在、冬小麦は最南部の一部地域を除き、大部分の圃場で越冬状態に入ったとみられる。作付けが遅れた圃場の中には、乾燥により播種後も一向に出芽せず、10 月下旬の降雨によりようやく出芽したものもある。その場合、分げつ期前の未熟な状態で越冬することになり、枯死率の上昇が懸念される。

## 臨時回廊からの輸出状況

2022年7月22日の国連、ウクライナ、ロシア及びトルコの4者によるウクライナ産穀物の黒海経由での輸出再開に関する合意（黒海穀物イニシアティブ）により、同年8月以降、オデーサ港等3港（オデーサ港、チョルノモルシク港、ピブジェヌイ港）からの輸出が再開したが、2023年7月17日にロシアが同イニシアティブからの離脱を表明し、輸出が停止した。ウクライナ農業政策食料省によれば、同イニシアティブ履行期間中の輸出実績（2022年8月～23年7月）は、穀物・油糧種子等6,846万トン（うち、小麦1,728万トン、とうもろこし2,949万トン）。

ウクライナは、ルーマニア・ブルガリアの黒海沿岸を通過する新ルート「臨時回廊」を国際海事機関（IMO）に通報し、2023年8月以降、運用が開始された。現在、臨時回廊や、運河等を利用し、ルーマニアのコンスタンツァ港などを経由した輸出が行われている。輸出ルートのうち、EU域内を經由した輸出（鉄道又はトラック）は減少傾向にある一方、臨時回廊からの輸出量が大半を占めている。

### （参考）ウクライナの輸出量の推移（月毎）（2022年3月～2024年11月）



出典：農業政策食料省のデータをもとに農林水産省で作成

注：データは港湾、鉄道、陸路などすべての輸出の計。

## 1 EU：小麦の生産量が前月から下方修正

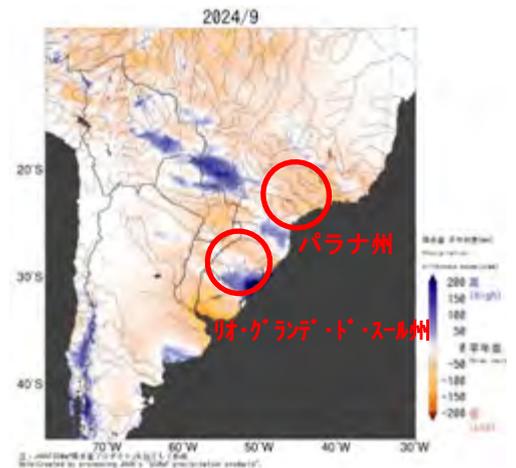
USDAによれば、2024/25年度のEUの小麦生産量は1億2,130万トンと、前月予測から130万トン下方修正され、前年度及び過去5年平均を10%下回る見込み。収穫面積は2,280万ヘクタールと、前月予測から6.6万ヘクタール下方修正され、前年度から6%減少し、過去5年平均を5%下回る見込み。単収は5.31トン/ヘクタールと、前月予測(5.35トン/ヘクタール)から下方修正され、前年度から4%減少する見込み。なお、EUは世界第2位の小麦生産国であり世界の小麦生産量の15%を占める。

2024/25年度の小麦生産量は、2012/13年度以来の低水準となった。今月の下方修正は、主としてベルギー、スウェーデン、デンマーク、オランダ、イタリアで下方修正されたことによる。EU最大の生産国であるフランスは、生育期間を通じて継続的な降雨過多に見舞われ、生産量は2,660万トンと同様の条件により収穫量と作物の品質が大幅に低下した2016/17年度を下回り、1983/84年度以来の低水準となった。

## 2 ブラジル：パラナ州で干ばつにより小麦の生産量が減少

USDAによれば、2024/25年度のブラジルの小麦生産量は810万トンと、前月予測から5%下方修正され、前年度からほぼ変更なく、過去5年平均を7%上回る見込み。収穫面積は300万ヘクタールと、前月予測から変更なく、前年度から14%減少するも、過去5年平均を10%上回る見込み。単収は2.70トン/ヘクタールと、前月予測から5%下方修正され、過去5年平均を2%下回るも、前年度からは16%増加する見込み。これは、ブラジル最大の小麦生産州であるリオ・グランデ・ド・スール州で、前年度にエルニーニョ現象による降雨過多により大きく下落した単収が回復することによる。一方、ブラジル第2位の小麦生産州であるパラナ州では、乾燥により単収が大幅に減少する見込み。同州農業機関によれば、単収は前年度から23%減少、生産量は37%減少する見込み。

図：ブラジルの降雨量（平年対差）  
(2024.9)



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMA1）

## 3 フィリピン：台風が多発しコメの生産量が減少

USDAによれば、2024/25年度のフィリピンのコメ生産量は1,200万精米トンと、前月予測から2%下方修正され、前年度から3%増加する見込み。収穫面積は4,600万ヘクタールと、前月予測から2%下方修正され、前年度より3%減少する見込み。単収は4.14 粍トン/ヘクタールと、前月予測から1%下方修正されるも、前年度からわずかに増加する見込み。

台風が多発する11月に6つの台風がフィリピンを襲い、第4四半期（10～12月）のコメ生産に悪影響を及ぼした。台風の多くは上陸しなかったが、強風と集中豪雨により、特にイロコス、カガヤン溪谷、ルソン島中部のコメ生産地域に大きな被害が生じた。これら3つの地域の合計生産量は、同国の第4四半期のコメ生産量の約半分を占める。現地報告によれば、地域全体で広範囲に及ぶ洪水が発生し水田が浸水した。なお、フィリピンのコメは年間を通じて栽培されており、四半期毎に報告される。コメの生産量が大きい時期は第4四半期及び第1四半期で、それぞれ総生産量の38%、23%を占める。

## II 2024年12月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、11月末、190ドル/トン台半ばで推移。12月に入り、ロシア産冬小麦の作柄懸念等を受けて200ドル/トン台前半まで上昇したものの、ドル高や低調な米国産輸出を受けて下落し、12月中旬現在、190ドル/トン台半ばで推移。

とうもろこしは、11月末、160ドル/トン台後半で推移。12月に入り、米国産の輸出検証高が市場予想を上回ったこと及び米国農務省需給報告での米国産の期末在庫量引下げ等を受けて170ドル/トン台前半まで上昇したものの、米国産の週間輸出成約高が市場予想を下回ったこと等を受け12月中旬現在、160ドル/トン台後半で推移。

コメは、11月末、530ドル/トン台前半で推移。12月に入り、アジア及びアフリカからの強い需要等を受け、12月中旬現在、540ドル/トン台前半で推移。

大豆は、11月末、360ドル/トン台前半で推移。12月に入り、大豆油の上昇による連れ高や米国産の中国向け輸出の回復基調等を受けて360ドル/トン台半ばまで上昇したものの、ブラジル産の豊作見込み等を受けて下落し、12月中旬現在、360ドル/トン台前半で推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場（期近物）、コメはタイ国家貿易委員会価格

## III 2024/25年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前年度より0.2%増の28.26億トン。消費量は、前年度より1.4%増の28.56億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

期末在庫量は前年度より減少し、期末在庫率も前年度を下回り26.7%となる見込み（資料2参照）。

生産量は、前年度より、とうもろこしで減少も、小麦、コメで増加し、穀物全体で増加となり、28.26億トンの見込み。

消費量は、前年度より、小麦、とうもろこし、コメで増加し、穀物全体で増加となり、28.56億トンの見込み。

貿易量は、前年度より、コメ、とうもろこしで増加も、小麦で減少し、穀物全体で減少し、5.04億トンの見込み。

期末在庫量は、7.64億トンと前年度より減少、期末在庫率も、前年度より減少する見込み。

(注：数値は12月のUSDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による)

## IV 2024/25年度の油糧種子需給（予測）のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り6.83億トン。消費量は前年度を上回り6.63億トンとなり、前年度に引き続き、生産量が消費量を上回る見込み。

期末在庫量は、前年度より増加し、期末在庫率は前年度を上回る22.2%となる見込み。

(注：数値は12月のUSDA「Oilseeds: World Markets and Trade」等による)

## V 今月の注目情報：アルゼンチンの主要穀物等の生産・輸出動向

12月現在、アルゼンチンの2024/25年度の小麦は、収穫の最盛期を迎えており、とうもろこし及び大豆は作付作業が進展している。

アルゼンチンは、2022/23年度、ラニーニャ現象の影響により60年に一度といわれる干ばつに見舞われ、作物は軒並み大幅な減産となった。一転、2023/24年度は前年度に比べ大幅な増産を達成する見込みであり、2年連続で増産が見込まれる2024/25年度の生産・輸出見通しをまとめた。

注：文中の「2024/25年度」等は市場年度で、アルゼンチンの小麦は2024年12月から2025年11月、とうもろこしは2025年3月から2026年2月、大豆は2024年10月から2025年9月。（品目別需給編P.27参照）。

### 1 小麦の生産・輸出動向

#### (1) 生産動向

アルゼンチンは世界第12位の小麦生産国であり（図1）、世界の小麦生産量に占めるアルゼンチンの割合は2.2%となっている。

USDAによれば、2023/24年度の小麦の生産量は1,585万トンと前年度（1,255万トン）と比べ26%増となる見込み（図2）。これは、2021年終盤からのラニーニャ現象の影響を受け60年に一度といわれる干ばつに見舞われた前年度から収穫面積、単収ともに増加したことによる。

2024/25年度の見込み生産量は1,750万トンと、前年度と比べ10%増、過去10年平均（1,696万トン）と比べても3%増となる見込み。これは、収穫面積、単収ともに前年度より増加したことによる。ただし、北部産地では単収が減少し、南部及び東部産地では単収は平年並みと、地域によって単収にばらつきが出る結果となった。

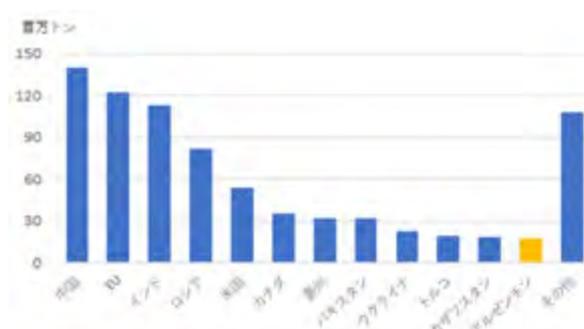
現在、収穫作業は最盛期を迎えており、アルゼンチン農牧漁業省週報（MAGyP）（2024.12.12）によれば、12月12日現在、収穫進捗率は59%となっており、前年同期（57%）を上回っている。

#### (2) 輸出動向

アルゼンチンは世界第7位の小麦輸出国である（図3）。世界の小麦輸出量に占めるアルゼンチンの割合は5.4%で、主要輸出先はブラジル向けが大半を占めている（図4）。

USDAによれば、2023/24年度の見込み輸出量は820万トンと、干ばつによる大幅減産に伴い輸出量

図1 小麦の国別生産量（2024/25年度）



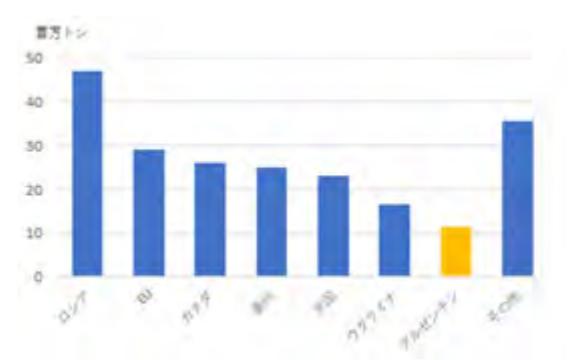
出典：USDA「PS&D」（2024.12）をもとに農林水産省で作成

図2 アルゼンチンの小麦生産量の推移



出典：USDA「PS&D」（2024.12）をもとに農林水産省で作成

図3 小麦の国別輸出量（2024/25年度）



出典：USDA「PS&D」（2024.12）をもとに農林水産省で作成

が大きく減少した前年度（366 万トン）に比べ 124%増となる見込み（図 5）。

2024/25 年度の輸出量は 1,150 万トンと、2023/24 年度に引き続き生産量が回復することから、前年度に比べ 40%増加し、過去 10 年平均（1,058 万トン）と比べても 9 %増となる見込み。

## 2 とうもろこしの生産・輸出動向

### (1) 生産動向

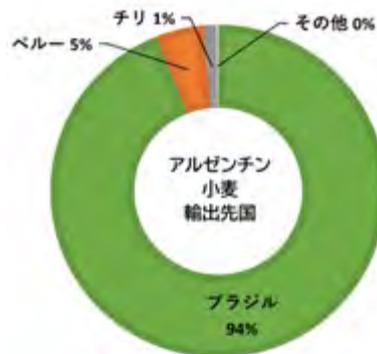
アルゼンチンはブラジル、EU に次ぐ世界第 5 位のとうもろこし生産国であり（図 6）、世界のとうもろこし生産量に占めるアルゼンチンの割合は 4.2%となっている。

USDA によれば、2023/24 年度のとうもろこしの生産量は 5,000 万トンと、前年度（3,700 万トン）と比べ 35%増となる見込み（図 7）。干ばつに見舞われた前年度から生産量は大幅に増加した。ただし、アルゼンチンのとうもろこしの作付けは一期作（3～4 月収穫）と二期作（7～8 月収穫）があり、2024 年に入り、高温乾燥の影響から北部地域を中心に病害虫のヨコバイが大量発生し、1 月以降に作付けを行う二期作とうもろこしの作柄が大幅に悪化した。

2024/25 年度の実績は 5,100 万トンと、前年度に比べ 2.0%増、過去 10 年平均（4,503 万トン）と比べても 13%増となる見込み。これは、前年度のヨコバイによる被害が生産者の作付け意欲に負の影響を及ぼしているほか、とうもろこし価格の下落に伴い、収益が見込める大豆に作付けをシフトすることにより、収穫面積は減少するものの、前年度に比べ単収が増加すると見込まれることによる。

2024/25 年度の作付作業は、8 月下旬からサンタフェ州とエントレリオス州から開始されたものの、産地の大部分では乾燥型の天候により作業の進展が妨げられた。その後、10 月初旬の降雨により作付作業は順調に進展し、MAGyP 週報（2024.12.12）によれば、12 月 12 日現在、作付進捗率は 68%となっており、前年同期（64%）を上回っている。

図 4 アルゼンチンの小麦輸出先国の割合（2023 年）



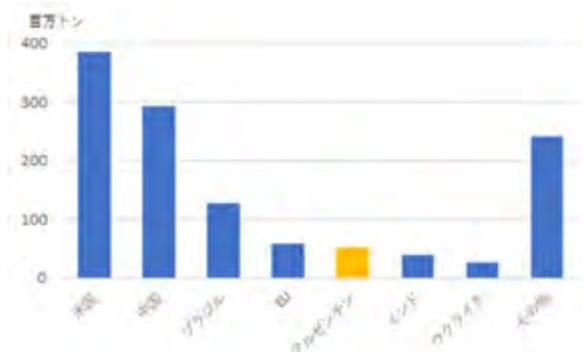
出典：S&P Global Market Intelligence をもとに農林水産省で作成

図 5 アルゼンチンの小麦輸出量の推移



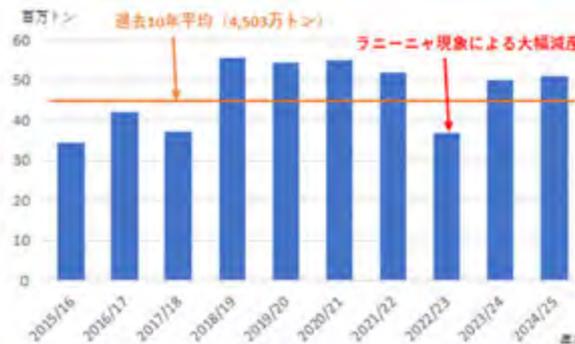
出典：USDA 「PS&D」 (2024.12) をもとに農林水産省で作成

図 6 とうもろこしの国別生産量（2024/25 年度）



出典：USDA 「PS&D」 (2024.12) をもとに農林水産省で作成

図 7 アルゼンチンのとうもろこし生産量の推移



出典：USDA 「PS&D」 (2024.12) をもとに農林水産省で作成

## (2) 輸出動向

アルゼンチンは米国、ブラジルに次ぐ世界第3位のとうもろこし輸出国である(図8)。世界のとうもろこし輸出量に占めるアルゼンチンの割合は19%で、主要輸出先は、ベトナム、マレーシア、韓国等のアジア諸国、ペルー、チリ等の中南米諸国、アルジェリア、エジプト等のアフリカ諸国、サウジアラビア等の中東諸国等、多岐にわたっている(図9)。

USDAによれば、2023/24年度のとうもろこしの輸出量は3,300万トンと、干ばつに見舞われた前年度(2,524万トン)から回復し31%増となる見込み(図10)。

2024/25年度の輸出量は3,600万トンと、2023/24年度に引き続き生産量の回復が見込まれることから、前年度に比べ9.1%増、過去10年平均(2,965万トン)と比べても21%増となる見込み。

## 3 大豆の生産・輸出動向

### (1) 生産動向

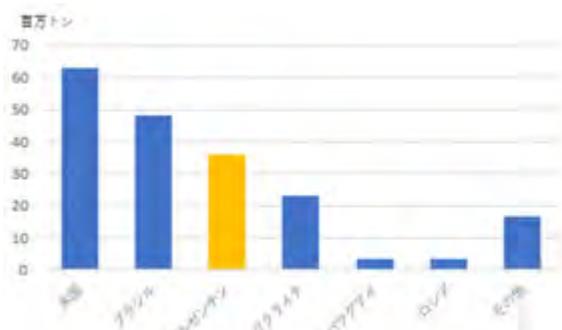
アルゼンチンはブラジル、米国に次ぎ世界第3位の大豆生産国であり(図11)、世界の大豆生産量に占めるアルゼンチンの割合は12%となっている。

USDAによれば、2023/24年度の大豆の生産量は4,821万トンと干ばつに見舞われた前年度に比べ93%増と大幅増となる見込み(図12)。

2024/25年度の大豆生産量は5,200万トンと、前年度に比べ7.9%増、過去10年平均(4,805万トン)と比べても8.2%増となる見込み。これは、前述のとおり、ヨコバイによるとうもろこしの被害を懸念する生産者が、とうもろこしより収益が見込める大豆に作付けをシフトすると見込まれることによる。

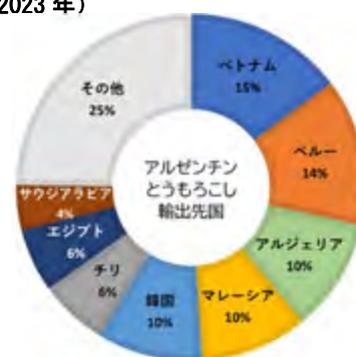
2024/25年度の作付作業は、10月下旬から開始された。良好な土壌水分量に恵まれ作付作業は順調に進展している。MAGyP週報(2024.12.12)によれば、12月12日現在、作付進捗率は66%となっており、前年同期(65%)を上回っている。

図8 とうもろこしの国別輸出量(2024/25年度)



出典: USDA「PS&D」(2024.12)をもとに農林水産省で作成

図9 アルゼンチンのとうもろこし輸出先国の割合(2023年)



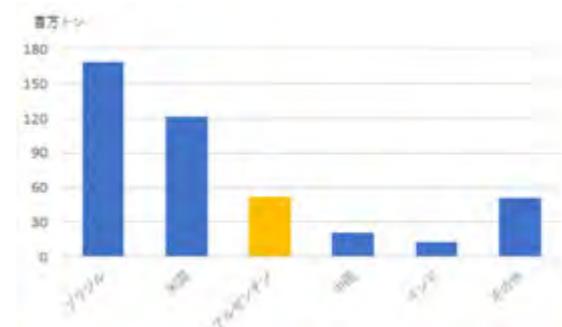
出典: S&P Global Market Intelligenceをもとに農林水産省で作成

図10 アルゼンチンのとうもろこし輸出量の推移



出典: USDA「PS&D」(2024.12)をもとに農林水産省で作成

図11 大豆の国別生産量(2024/25年度)



出典: USDA「PS&D」(2024.12)をもとに農林水産省で作成

## (2) 輸出動向

アルゼンチンはブラジル、米国、パラグアイ、カナダに次ぎ世界第5位の大豆輸出国である(図13)。世界の大豆輸出货量に占めるアルゼンチンの割合は2.5%で、主要輸出先は中国が大半を占める(図14)。

アルゼンチンでは、付加価値のついた大豆油や大豆粕の輸出が主流となっており、世界最大の大豆油及び大豆粕の輸出国である。世界の大豆油輸出货量に占めるアルゼンチンの割合は46%、大豆粕については37%と、双方ともに大きな割合を占めている。

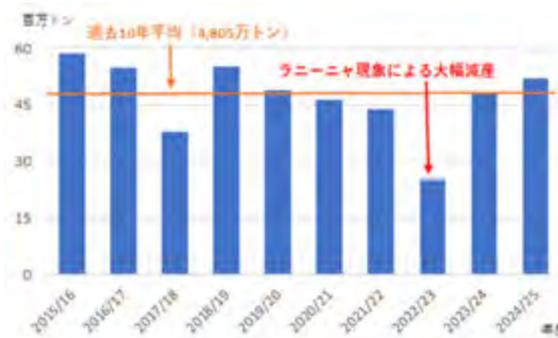
USDAによれば、2023/24年度の大豆の輸出货量は511万トンと、前年度(419万トン)に比べ22%増となる見込み(図15)。

2024/25年度の見込み輸出货量は450万トンと、前年度に比べ12%減、過去10年平均(661万トン)と比べても32%減となる見込み。これは、搾油用需要の増加に対応するため、輸出分を搾油用に振り分けたことによるとみられる(図15)。アルゼンチンは、推定6,700万トンの搾油能力を有する世界最大の大豆油及び大豆粕の輸出国であり、輸出向け搾油需要を満たすため、自国の大豆だけでは足りず、パラグアイ等から大豆を調達している。2022/23年度の干ばつによる大減産をきっかけに大豆の輸入量が大幅に増加しており、2024/25年度も輸入量が輸出货量を上回る傾向が続いている。

### 【アルゼンチンの輸出税】

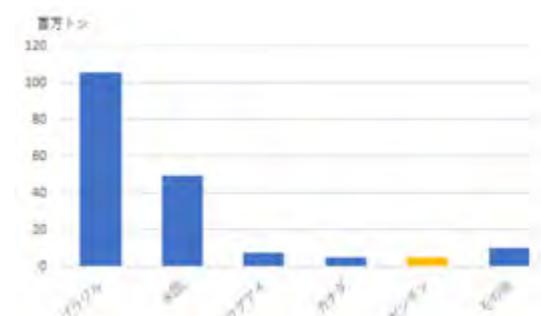
アルゼンチンの農業セクターは国家政策の影響を強く受けている。アルゼンチン政府は財政赤字の補填等のため農産物に対して輸出税を課しており、2024年12月現在、小麦・とうもろこしは12%、大豆は33%、大豆油・大豆粕は31%となっている。これらの税負担がアルゼンチンの輸出競争力に負の影響を与えており、生産量や輸出货量の抑制要因となっていると指摘されている。

図12 アルゼンチンの大豆生産量の推移



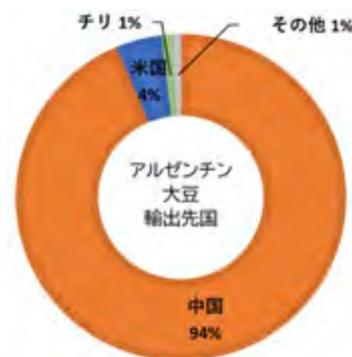
出典：USDA「PS&D」(2024.12)をもとに農林水産省で作成

図13 大豆の国別輸出货量 (2024/25年度)



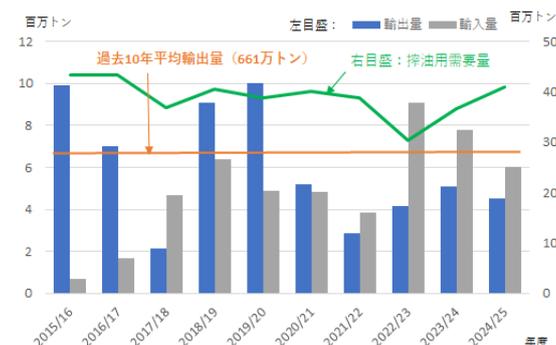
出典：USDA「PS&D」(2024.12)をもとに農林水産省で作成

図14 アルゼンチンの大豆輸出先国の割合 (2023年)



出典：S&P Global Market Intelligenceをもとに農林水産省で作成

図15 アルゼンチンの大豆輸出货量・輸入量・搾油用需要量の推移



出典：USDA「PS&D」(2024.12)をもとに農林水産省で作成

#### 4 穀物輸出の輸送状況

アルゼンチン最大の穀物輸出拠点、サンタフェ州のロサリオ港ターミナルとなっている。ロサリオ港ターミナルは、アルゼンチンの農業地域の中心であるロサリオに位置し、物流拠点として高速道路、鉄道網と連結されている。多目的ターミナル「TPR」を擁し、1.6キロメートルの接岸面を有する。ロサリオ北部のティンブエスから南部のアロヨ・セコまで、パラナ川沿いの約70キロメートルに及ぶ大ロサリオ地域にはUp-River（Up River Parana Ports）と呼ばれる32の港湾ターミナルが点在し、アルゼンチン全体の農産物輸出の3分の2がここから出荷されている。

また、300キロメートル圏内でアルゼンチンの穀物等の約50%が生産されており、ターミナルが効率的な物流に大きな役割を果たしている。

なお、2021年には、パラナ川の水量が過去70年で最低となり、水位低下によりはしけ（河川等の内陸水路及び港湾内輸送用の小型船舶）の貨物の量に制限がかかり、追加コストの発生等の問題が生じた。

#### 5 まとめ

2024/25年度のアグゼンチンの小麦は収穫最盛期を迎えており、生産量は前年度に比べ10%増加する見込み。とうもろこしと大豆は作付作業が進捗しており、現時点では良好な天候に恵まれ作物は順調に生長している。ただし、世界気象機関の12月11日の予報によれば、今後3か月以内にラニーニャ現象が発生する可能性は50%以上と予測している。今回のラニーニャ現象は、発生したとしても比較的弱く短期間であると予測されているが、発生した場合、アルゼンチンでは降雨量が平年を下回る傾向が見られることから、今後の発生状況とアルゼンチンの穀物等に及ぼす影響について注視していきたい。

また、アルゼンチンの主要産業である農業は、政府の財政維持のために利用されやすく、時として政策により農業の発展が阻害される場合もある。2023年12月にミレイ政権が誕生し、小麦及びとうもろこしの輸出上限数量を撤廃するなど、輸出規制が緩和された一方で、穀物等には依然として高い輸出税が課されており、アルゼンチン産穀物等の輸出競争力に負の影響を与えている。報道情報によれば、ミレイ政権は政府の財政が黒字となった場合、農業セクターに対する輸出税を撤廃する意向を示しており、現政権の政策についても引き続き注視していきたい。

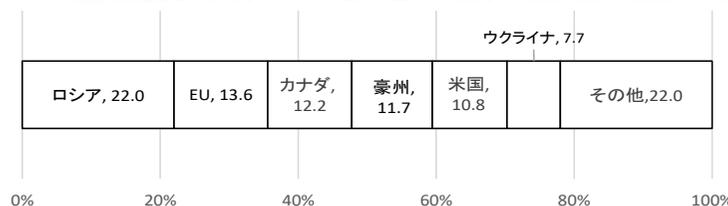
写真 ロサリオ港ターミナル



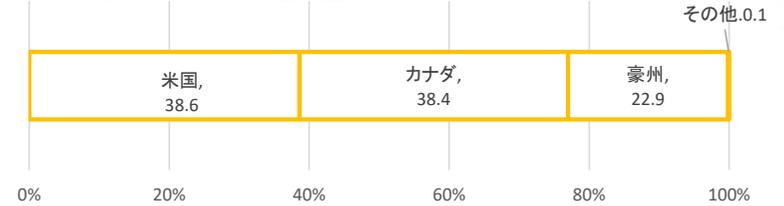
# 資料1-1 小麦の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2024/25年度(12月版)



2024/25年度の世界の小麦輸出量(213.7百万トン) (単位:%)



2023年の日本の小麦輸入量(5.0百万トン) (単位:%)



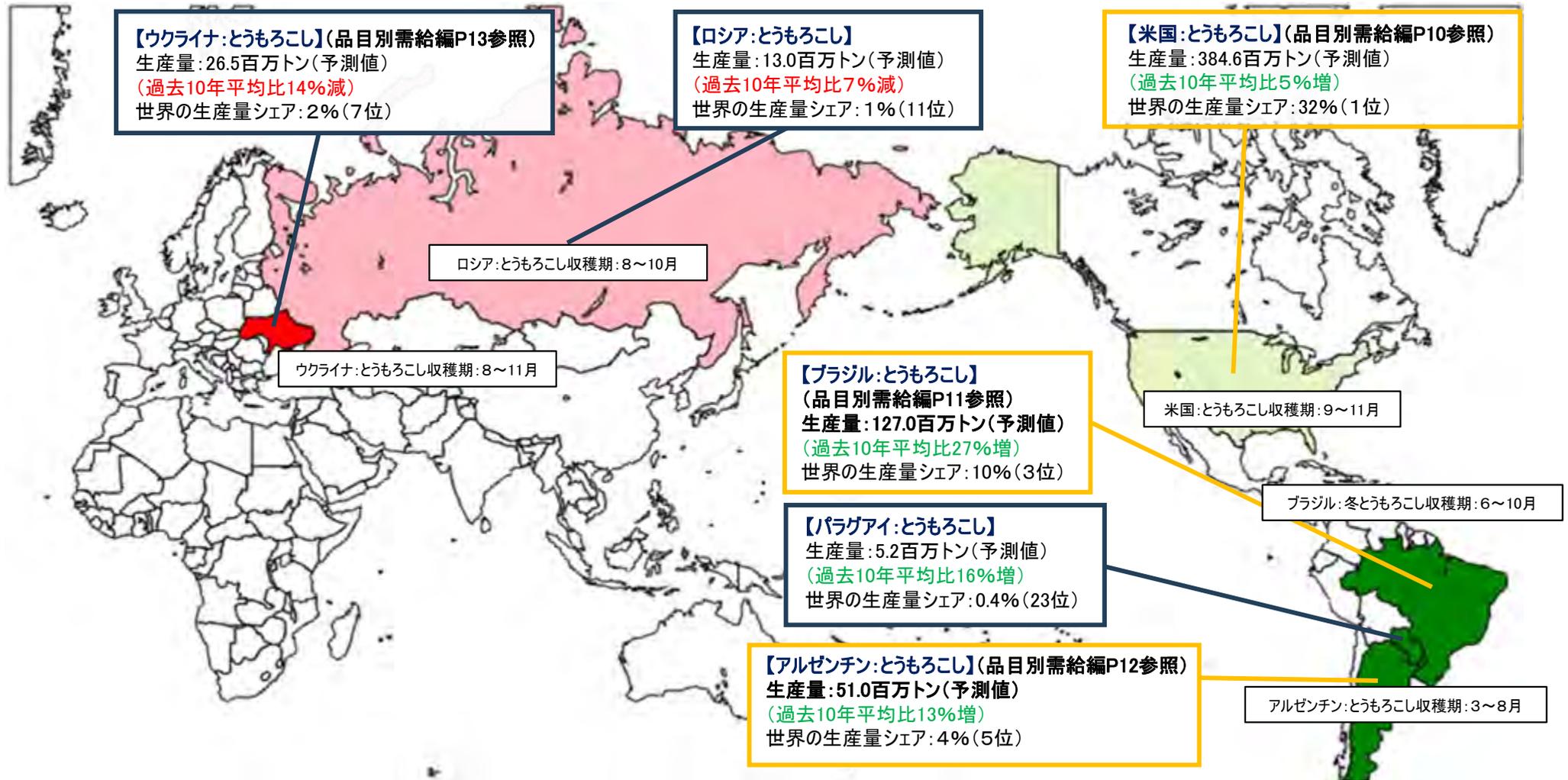
## 生産量増減



○ 2023年度の日本の小麦輸入量は510万トンであり、日本の小麦国内消費仕向量(631万トン、うち食用は494万トン)の80.9%を占める。

○ 輸入小麦の1人1日当たり供給熱量は238kcalと、1人1日当たり総供給熱量(2,203kcal)の10.8%を占める。

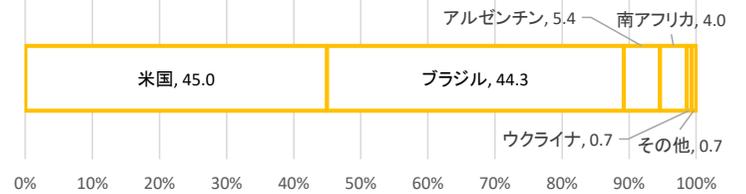
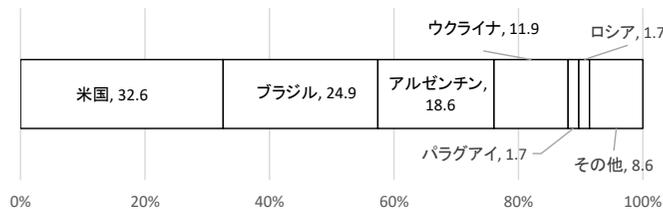
# 資料1-2 とうもろこしの主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2024/25年度(12月版)



2024/25年度の世界のとうもろこし輸出量(193.0百万トン) (単位:%)

2023年の日本のとうもろこし輸入量(14.9百万トン) (単位:%)

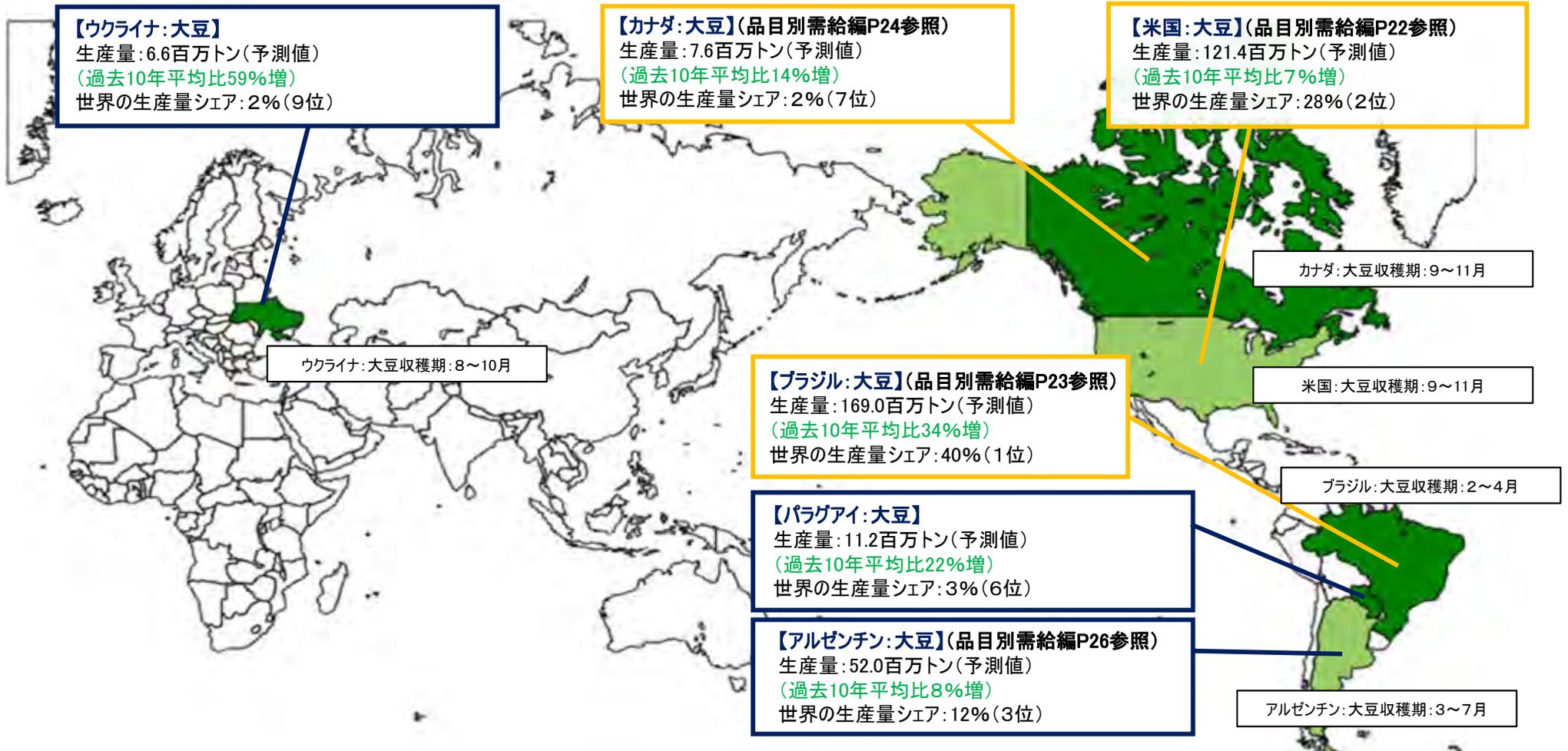
**生産量増減**



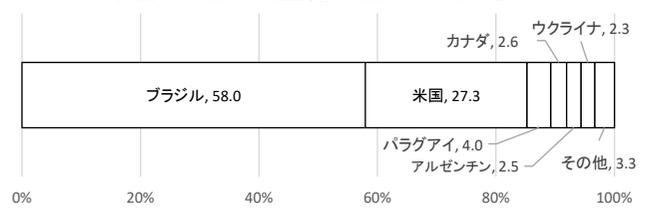
○ 2023年度の日本のとうもろこし輸入量は1,499万トンと、日本のとうもろこし国内消費仕向量(1,486万トン、うち飼料用は1,159万トン)のほぼ全量を占める。

出典: USDA「PS&D」(2024.12)、財務省「貿易統計」(2023年の実績値)、農林水産省「令和5年度食料需給表」、AMIS「Supply and demand balances manual」をもとに農林水産省で作成。

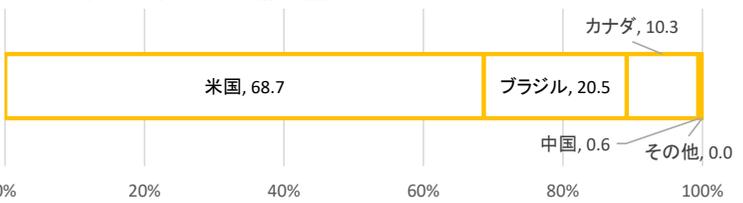
# 資料1-3 大豆の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2024/25年度(12月版)



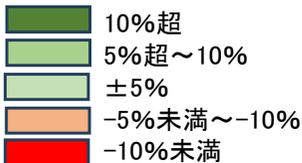
2024/25年度の世界の大豆輸出货量(182.0百万トン) (単位:%)



2023年の日本の大豆輸入量(3.16百万トン) (単位:%)



**生産量増減**



○ 2023年度の日本の大豆輸入量は307万トンであり、日本の大豆国内消費仕向量(356万トン、うち大豆油などの加工用は255万トン、食用は87万トン)の86.2%を占める。  
○ 輸入大豆の1人1日当たり供給熱量は55kcalと、1人1日当たり総供給熱量(2,203kcal)の2.5%を占める。

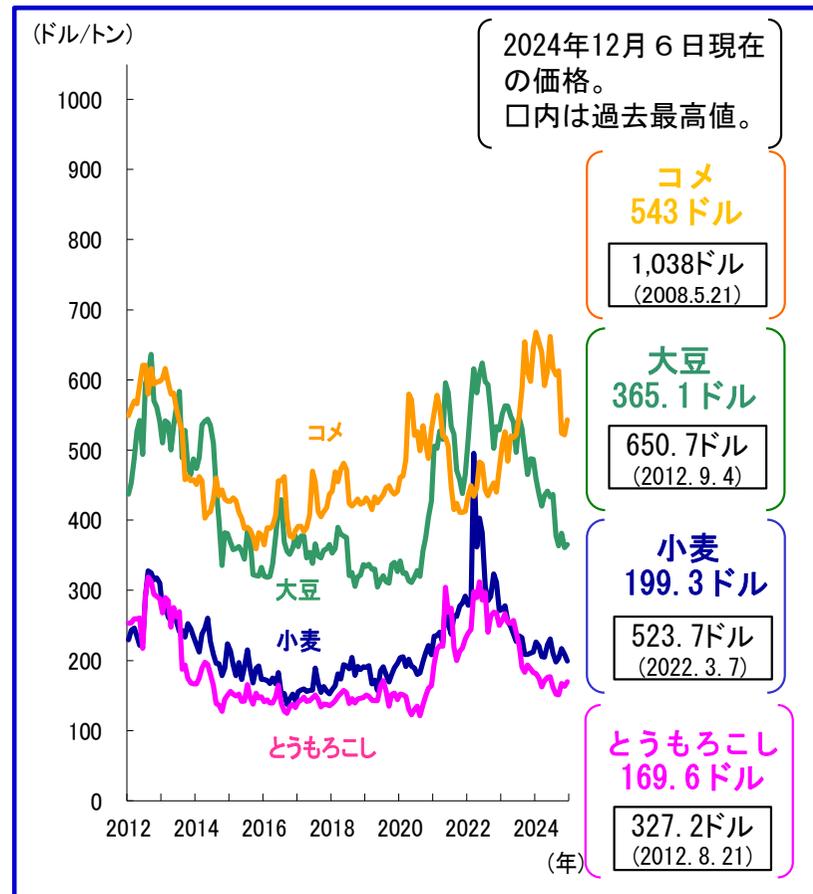
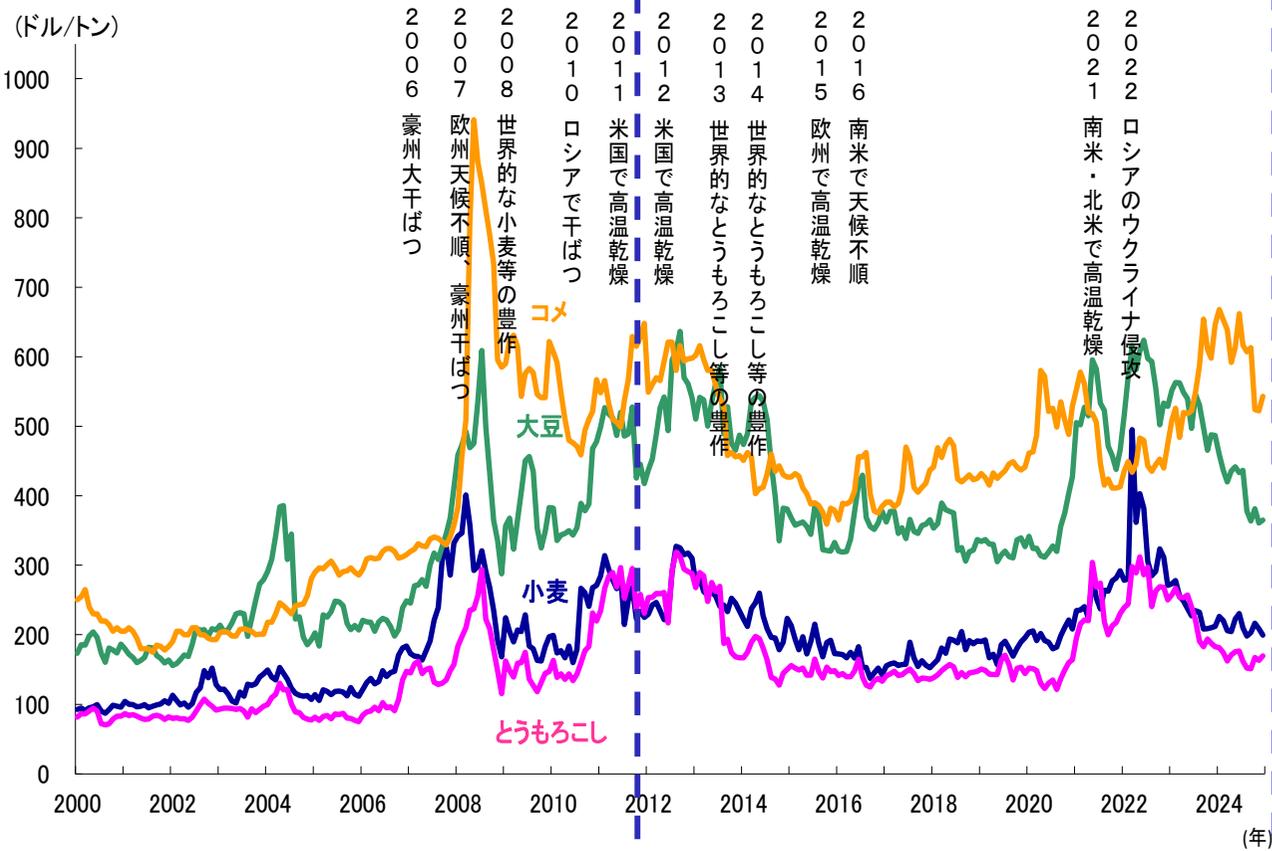
出典:USDA「PS&D」(2024.12)、財務省「貿易統計」(2023年の実績値)、農林水産省「令和5年度食料需給表」、AMIS「Supply and demand balances manual」をもとに農林水産省で作成。

# 資料 1-4 穀物等の国際価格の動向 (ドル/トン)

- とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は低下。2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥等により上昇。2022年、ロシアのウクライナ侵攻により、小麦は史上最高値を更新も、ウクライナからの臨時回廊等による輸出再開などもあり侵攻前の水準まで低下。一方で、とうもろこし、大豆はウクライナ侵攻時に高騰も、ブラジル等の豊作から侵攻前の水準まで低下。コメは、2022年9月以降、インドの輸出規制強化、インドネシアの需要増等から上昇も、インドの一部輸出規制解除等を受け低下。
- 穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要に加え、ウクライナ情勢により、2008年以前を上回る水準で推移。

## □ 穀物等の国際価格の動向

(ドル/トン)

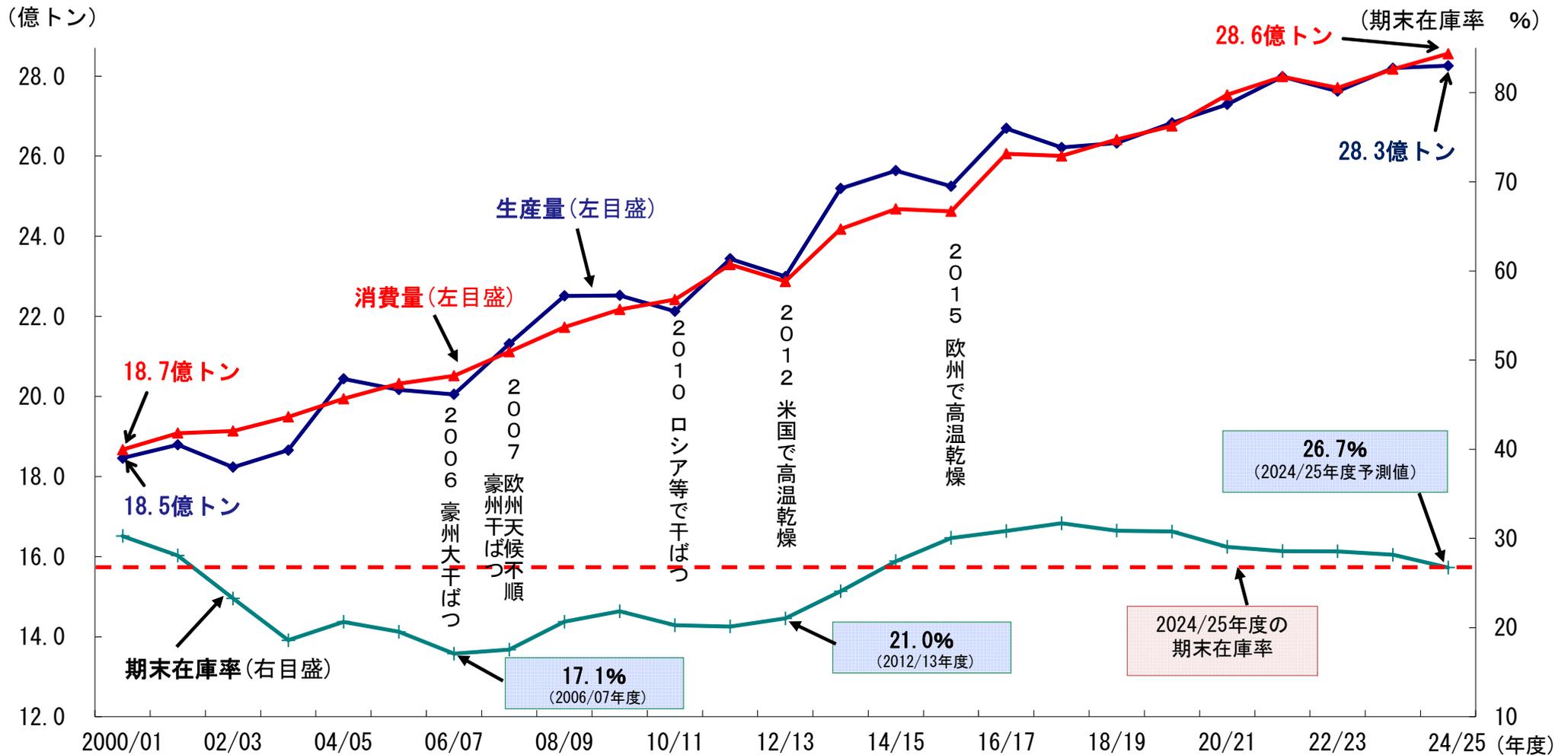


注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格(セツルメント)である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。  
 注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

## 資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2024/25年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2024/25年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、26.7%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

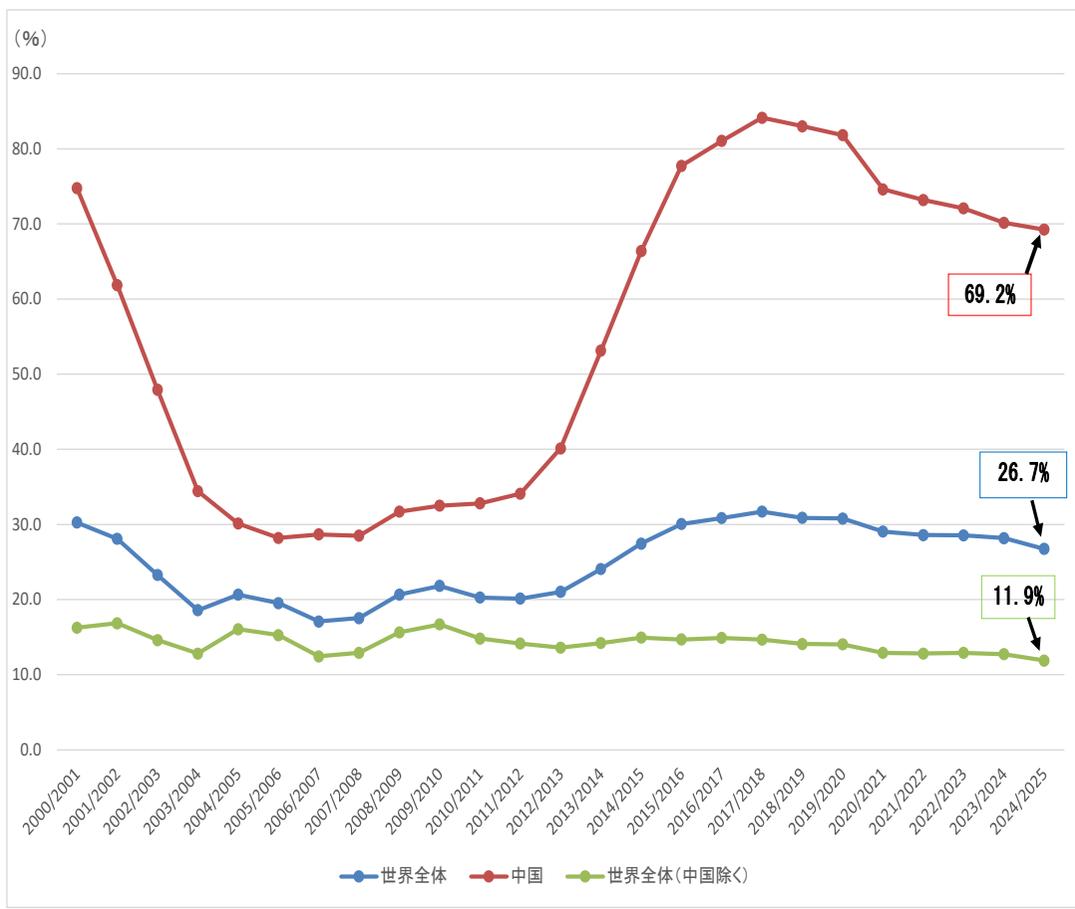
### □ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



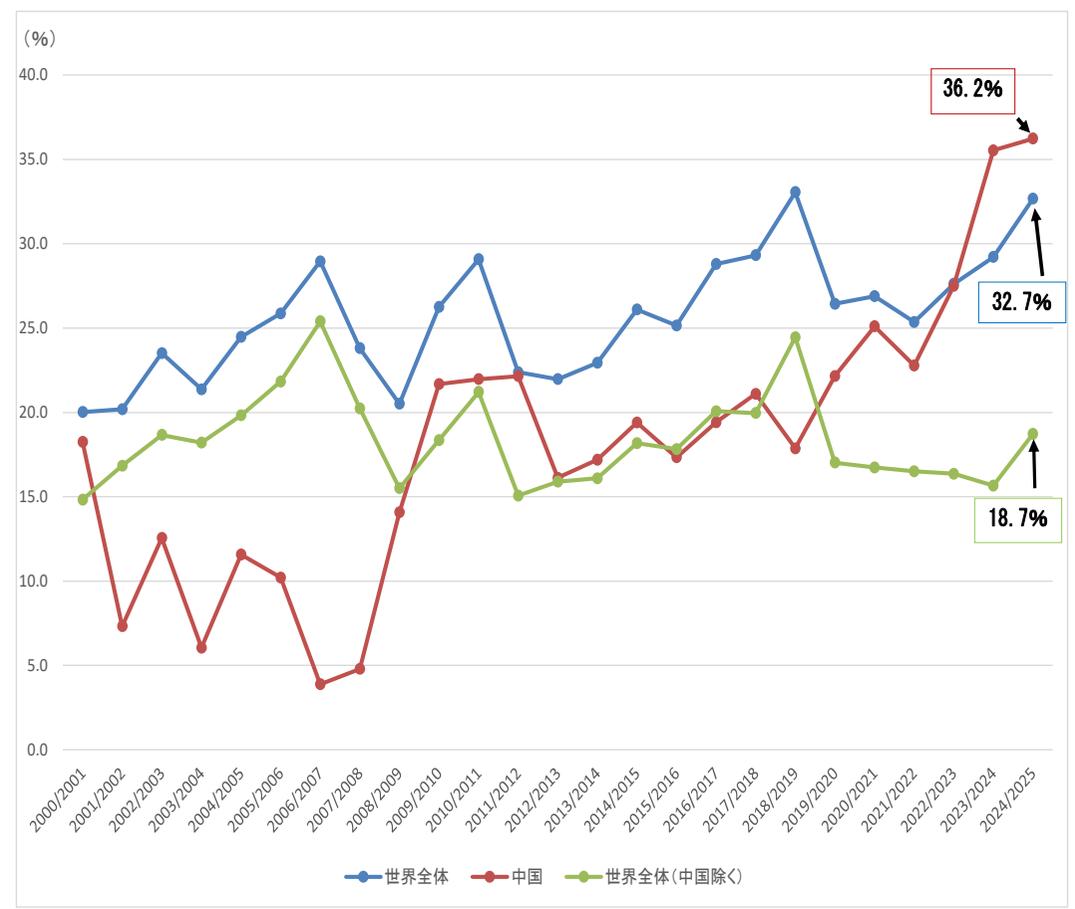
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(December 2024)、「PS&D」  
 (注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

# 資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移

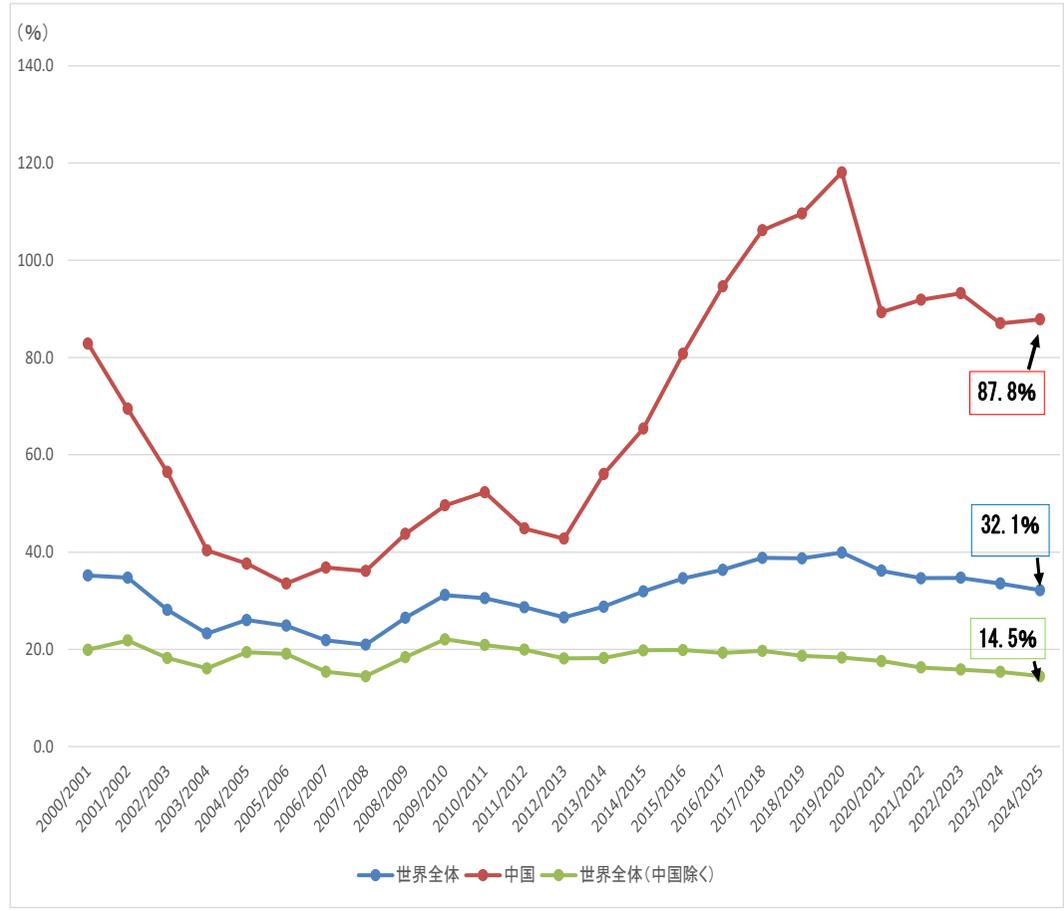


資料: 米国農務省「PS&D」(December 10, 2024)

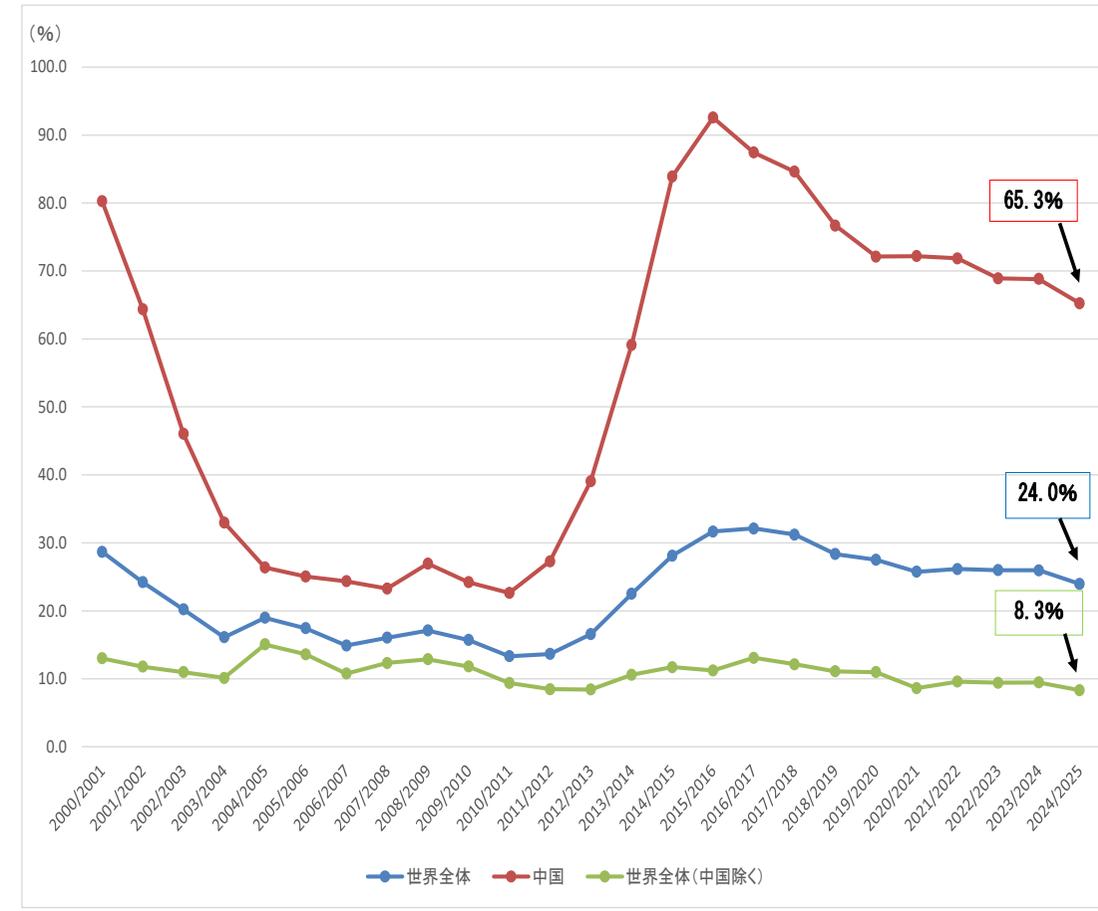
- 注: 1) 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等(大豆除く)。
- 2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / 消費量 × 100
- 3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100
- 4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

# 資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



○ とうもろこしの期末在庫率の推移

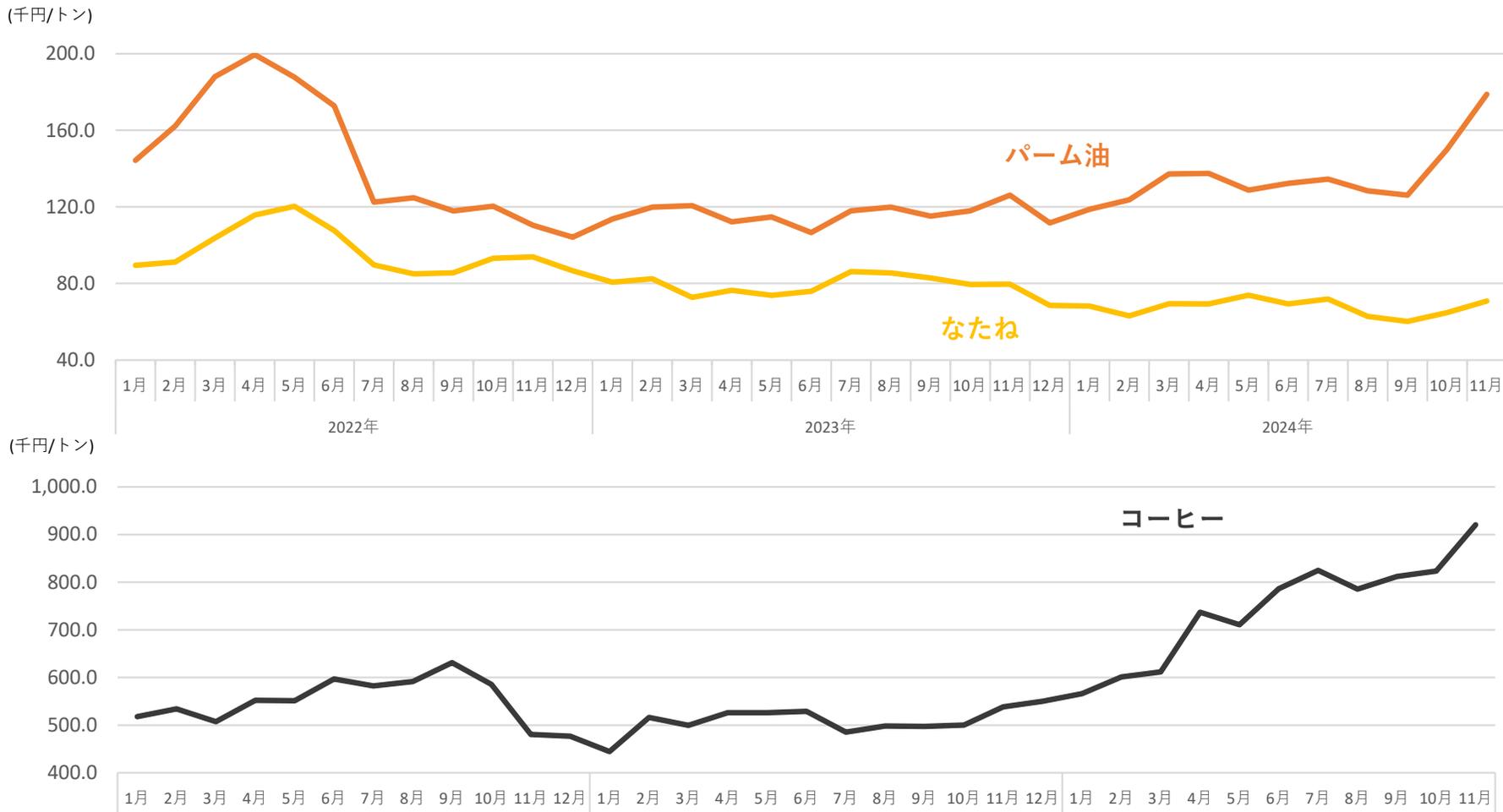


資料: 米国農務省「PS&D」(December 10, 2024)

- 注: 1)小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。  
 2)世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100  
 3)中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100  
 4)中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

# 資料4-1 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の動向

- パーム油の市場価格については、2022年にインドネシアの輸出禁止措置により上昇したものの解除後（2022年5月）は下落し、安定していたが、インドネシアのバイオ燃料政策等の影響で2024年10月に上昇している。
- 菜種の市場価格については、2021年に主産地のカナダの不作により上昇したものの、2022年以降は収量の回復等により安定している。
- コーヒーについて、2021年以降、世界最大の生産国であるブラジルにおける天候不順による収穫量減少や世界的な物流の混乱等により、市場価格が上昇した。その後、消費地のインフレによる景況感の悪化やブラジルにおける収穫量の回復等により、市場価格は一時下降したが、ブラジルにおける天候不順やベトナムにおける干ばつによる収穫量減少等により、2024年以降は再び市場価格が高騰している。



2024年12月20日現在  
□内は2022年1月以降の最高値。

パーム油  
178.8千円/トン  
199.5千円/トン  
(2022.4)

菜種  
70.8千円/トン  
120.3千円/トン  
(2022.5)

コーヒー  
920.3千円/トン  
920.3千円/トン  
(2024.12)

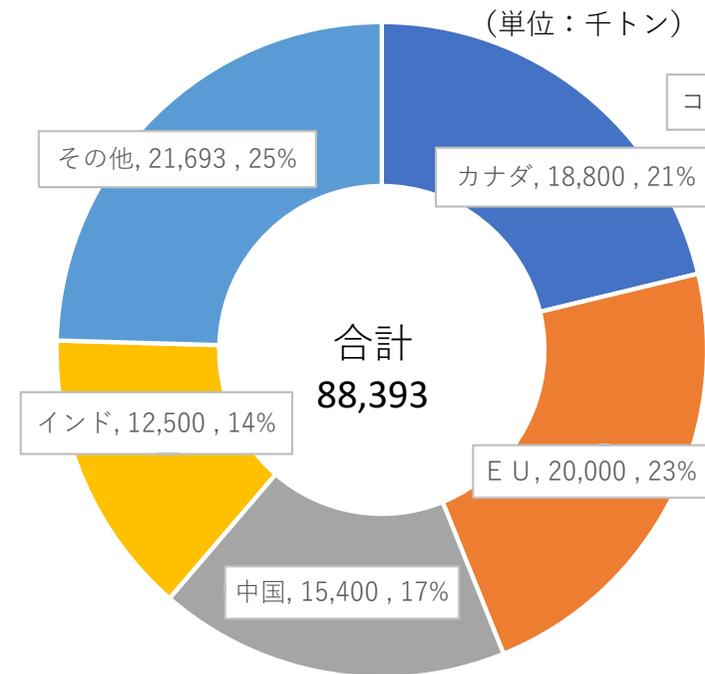
※ 菜種の国際価格についてはカナダウィニペグ菜種市場の先物価格（期近物）を、パーム油の国際価格についてはマレーシアパーム油市場の先物価格（期近物）を、コーヒーの国際価格については国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均を用い、為替レートから円に換算して算出。

# 資料4-2 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の生産量及び輸入先

## ○主要生産国の生産状況

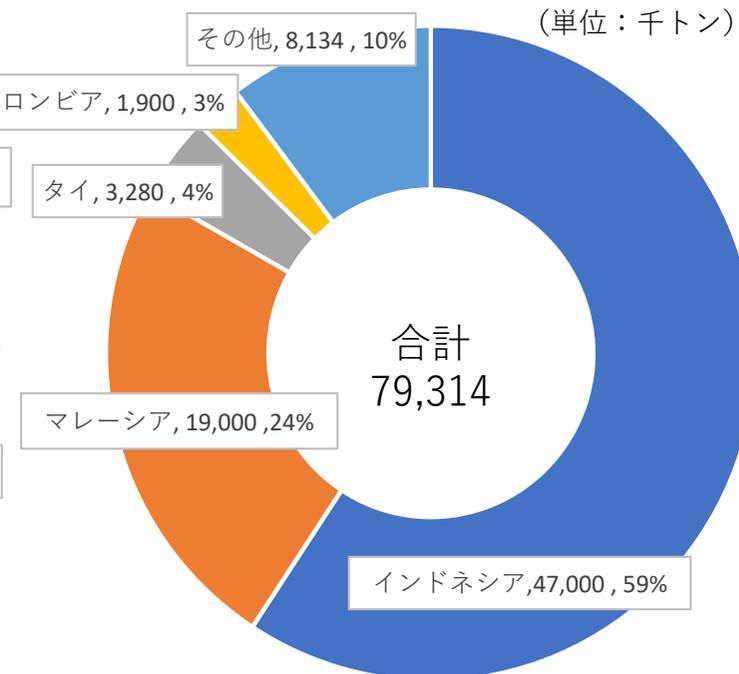
なたね生産量（2023/24）

（単位：千トン）



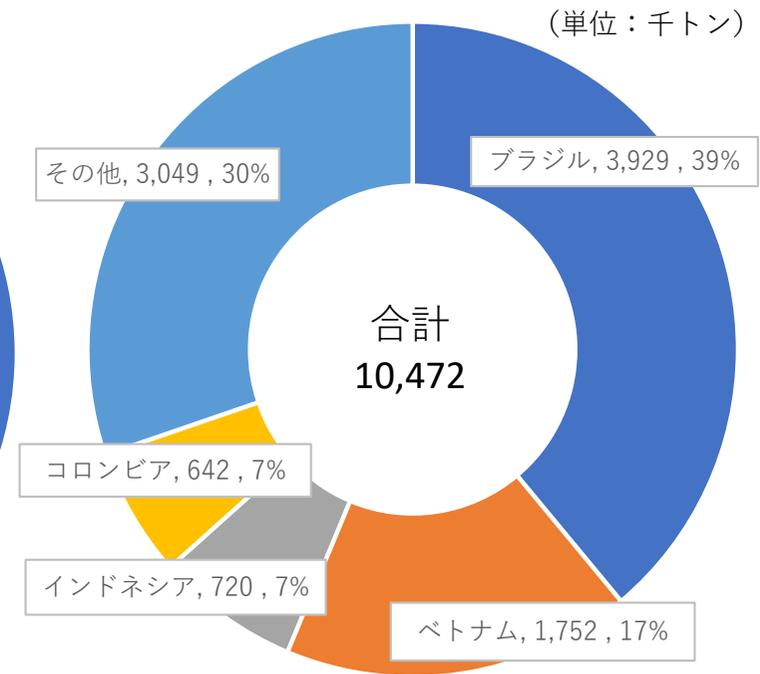
パーム油生産量（2023/24）

（単位：千トン）



コーヒー生産量（2022/23）

（単位：千トン）



※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）  
2024年6月時点

※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）  
2024年6月時点

※国際コーヒー機関（ICO）統計資料  
2024年6月時点

## ○我が国の主な輸入先の状況（単位：千トン（2023年））

| なたね       | 輸入量          | 割合            |
|-----------|--------------|---------------|
| カナダ       | 1,039        | 51.4%         |
| オーストラリア   | 983          | 48.6%         |
| その他       | 0            | 0.0%          |
| <b>合計</b> | <b>2,022</b> | <b>100.0%</b> |

※財務省「貿易統計」（HSコード：1205）

| パーム油      | 輸入量        | 割合            |
|-----------|------------|---------------|
| マレーシア     | 574        | 85.6%         |
| インドネシア    | 96         | 14.4%         |
| その他       | 0          | 0.1%          |
| <b>合計</b> | <b>671</b> | <b>100.0%</b> |

※財務省「貿易統計」（HSコード：1511）

| コーヒー      | 輸入量        | 割合            |
|-----------|------------|---------------|
| ブラジル      | 124        | 35.0%         |
| ベトナム      | 99         | 27.9%         |
| コロンビア     | 34         | 9.6%          |
| その他       | 98         | 27.6%         |
| <b>合計</b> | <b>356</b> | <b>100.0%</b> |

※財務省「貿易統計」（HSコード：0901.11～0901.12）

# 資料4-3 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移①

## ①なたね

単位（千円/トン）

|       | 2022年 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |      | 2023年 |       |      |       |      |       |       |       |      |      |       |      | 2024年 |      |       |      |       |      |       |      |       |       |       |     |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|------|-------|-------|-------|------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|-------|-------|-----|
|       | 1月    | 2月    | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月  | 1月    | 2月    | 3月   | 4月    | 5月   | 6月    | 7月    | 8月    | 9月   | 10月  | 11月   | 12月  | 1月    | 2月   | 3月    | 4月   | 5月    | 6月   | 7月    | 8月   | 9月    | 10月   | 11月   | 12月 |
| なたね   | 89.4  | 91.2  | 103.7 | 115.7 | 120.3 | 107.7 | 89.6  | 85.0  | 85.5  | 93.1  | 93.8  | 86.6 | 80.6  | 82.4  | 72.8 | 76.4  | 73.8 | 75.9  | 86.2  | 85.5  | 82.8 | 79.4 | 79.6  | 68.6 | 68.2  | 63.1 | 69.4  | 69.3 | 73.9  | 69.4 | 71.9  | 62.8 | 60.2  | 64.8  | 70.8  |     |
| 前月比   | 100.6 | 102.0 | 113.8 | 111.5 | 104.0 | 89.5  | 83.3  | 94.8  | 100.6 | 108.9 | 100.8 | 92.3 | 93.1  | 102.2 | 88.3 | 105.0 | 96.7 | 102.7 | 113.6 | 99.2  | 96.9 | 95.9 | 100.2 | 86.1 | 99.5  | 92.5 | 109.9 | 99.9 | 106.6 | 93.8 | 103.7 | 87.3 | 126.1 | 107.7 | 109.3 |     |
| 前年同月比 | 164.3 | 148.3 | 148.1 | 162.0 | 143.9 | 139.8 | 115.1 | 109.1 | 112.3 | 110.1 | 101.5 | 97.5 | 90.2  | 90.4  | 70.1 | 66.0  | 61.4 | 70.5  | 96.1  | 100.6 | 96.9 | 85.3 | 84.8  | 79.2 | 84.6  | 76.6 | 95.4  | 90.8 | 100.1 | 91.4 | 83.5  | 73.5 | 812.1 | 81.5  | 89.0  |     |

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 カナダウィニペグなたね定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

## ②パーム油

単位（千円/トン）

|       | 2022年 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       | 2023年 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       | 2024年 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |     |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
|       | 1月    | 2月    | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月 |
| パーム油  | 144.2 | 162.2 | 188.0 | 199.5 | 187.8 | 172.8 | 122.4 | 124.7 | 117.9 | 120.4 | 110.4 | 104.2 | 113.7 | 119.9 | 120.6 | 112.1 | 114.7 | 106.5 | 117.9 | 119.8 | 115.1 | 118.0 | 126.1 | 111.6 | 118.7 | 123.7 | 137.2 | 137.4 | 128.7 | 132.2 | 134.4 | 128.3 | 126.1 | 150.1 | 178.8 |     |
| 前月比   | 112.5 | 112.4 | 115.9 | 106.1 | 94.1  | 92.0  | 70.9  | 101.9 | 94.5  | 102.1 | 91.7  | 94.4  | 109.1 | 105.4 | 100.7 | 93.0  | 102.3 | 92.9  | 110.7 | 101.6 | 96.1  | 102.4 | 106.9 | 88.5  | 106.4 | 104.2 | 110.9 | 100.2 | 93.7  | 102.7 | 101.7 | 95.4  | 98.2  | 119.1 | 119.1 |     |
| 前年同月比 | 155.0 | 157.5 | 166.6 | 184.4 | 151.2 | 177.3 | 110.5 | 103.7 | 98.1  | 85.9  | 77.0  | 81.3  | 78.8  | 73.9  | 64.2  | 56.2  | 61.1  | 61.7  | 96.3  | 96.1  | 97.7  | 98.0  | 114.2 | 107.1 | 104.4 | 103.2 | 113.7 | 122.6 | 112.2 | 124.1 | 114.0 | 107.1 | 109.5 | 127.3 | 141.8 |     |

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 マレーシアパーム油定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

# 資料 4 - 4 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移②

## ③ コーヒー

単位（千円/トン）

|       | 2022年 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       | 2023年 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       | 2024年 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |     |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
|       | 1月    | 2月    | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月 |
| コーヒー  | 517.9 | 534.1 | 507.5 | 552.1 | 551.2 | 596.8 | 582.3 | 591.6 | 631.1 | 585.4 | 480.6 | 477.0 | 444.4 | 516.3 | 499.6 | 526.2 | 526.1 | 529.1 | 485.5 | 498.1 | 497.4 | 500.3 | 538.5 | 550.2 | 566.3 | 601.1 | 611.7 | 737.0 | 710.8 | 786.3 | 825.0 | 785.5 | 812.1 | 823.4 | 920.3 |     |
| 前月比   | 100.6 | 103.1 | 95.0  | 108.8 | 99.8  | 108.3 | 97.6  | 101.6 | 106.7 | 92.8  | 82.1  | 99.2  | 93.2  | 116.2 | 96.8  | 105.3 | 100.0 | 100.6 | 91.8  | 102.6 | 99.9  | 100.6 | 107.6 | 102.2 | 102.9 | 106.2 | 101.8 | 120.5 | 96.5  | 110.6 | 104.9 | 95.2  | 103.4 | 101.4 | 111.8 |     |
| 前年同月比 | 194.1 | 190.6 | 172.9 | 188.0 | 169.5 | 172.9 | 158.3 | 152.4 | 151.4 | 128.4 | 98.8  | 92.7  | 85.8  | 96.7  | 98.5  | 95.3  | 95.4  | 88.7  | 83.4  | 84.2  | 78.8  | 85.5  | 112.0 | 115.4 | 127.4 | 116.4 | 122.4 | 140.1 | 135.1 | 148.6 | 169.9 | 157.7 | 163.3 | 164.6 | 170.9 |     |

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均から算出

注2 ICO複合指標価格は、米国、ドイツ、フランスの3大市場の現物の成約価格を収集しICOの定める方法で4品種ごとの加重平均値を算出したもの。

# 資料5 食品小売価格の動向

○ 令和6年11月の国内の加工食品の消費者物価指数は114.4～153.1（前年同月比で-3.2%～7.9%）の範囲内。

**消費者物価指数（総務省）**  
（令和6年6月～令和6年11月）

| 品目              | R2    | R3    | R4    | R5    | R6    |       |       |       |       |       | 上昇率<br>(前年<br>同月比) |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------------|
|                 | 平均    | 平均    | 平均    | 平均    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   |                    |
| 食パン             | 100.0 | 99.2  | 110.3 | 118.7 | 122.0 | 122.4 | 122.6 | 122.3 | 121.6 | 121.5 | -1.4%              |
| 即席めん            | 100.0 | 100.1 | 107.6 | 119.7 | 121.4 | 122.9 | 124.3 | 120.2 | 118.4 | 122.0 | -0.7%              |
| 豆腐              | 100.0 | 101.3 | 105.3 | 114.6 | 117.9 | 118.1 | 117.9 | 118.8 | 119.3 | 119.7 | 2.4%               |
| 食用油<br>(キャノーラ油) | 100.0 | 106.9 | 144.4 | 160.2 | 149.0 | 146.8 | 148.1 | 144.3 | 146.9 | 149.8 | -3.2%              |
| みそ              | 100.0 | 99.3  | 101.3 | 108.1 | 113.8 | 113.4 | 113.7 | 114.8 | 115.3 | 114.4 | 2.7%               |
| マヨネーズ           | 100.0 | 105.6 | 125.6 | 149.5 | 152.3 | 152.7 | 151.8 | 153.3 | 152.7 | 153.1 | -0.5%              |
| チーズ             | 100.0 | 98.7  | 107.5 | 131.1 | 132.6 | 132.3 | 135.4 | 133.4 | 134.6 | 133.4 | -1.2%              |
| バター             | 100.0 | 99.9  | 99.2  | 108.6 | 120.0 | 119.6 | 120.1 | 120.0 | 120.1 | 120.1 | 7.9%               |
| 生鮮食品を<br>除く食料   | 100.0 | 100.2 | 104.1 | 112.6 | 115.9 | 116.3 | 117.1 | 117.8 | 119.2 | 119.9 | 4.2%               |

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。  
資料: 総務省消費者物価指数

**【参考】**  
**食品価格動向調査（農林水産省）**  
（令和6年6月～令和6年12月）

| 品目              | R2    | R3    | R4    | R5    | R6    |       |       |       |       |       | 上昇率<br>(前月比) | 上昇率<br>(前年<br>同月比) |       |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------|--------------------|-------|
|                 | 平均    | 平均    | 平均    | 平均    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   |              |                    | 12月   |
| 食パン             | 100.0 | 98.6  | 107.8 | 114.5 | 118.9 | 118.2 | 118.6 | 118.9 | 118.2 | 117.4 | 118.2        | 0.7%               | -0.3% |
| 即席めん            | 100.0 | 99.2  | 105.6 | 117.5 | 114.9 | 121.0 | 120.4 | 119.1 | 115.5 | 118.5 | 117.3        | -1.0%              | -3.5% |
| 豆腐              | 100.0 | 100.6 | 103.7 | 113.0 | 115.0 | 115.9 | 115.9 | 116.7 | 118.5 | 119.3 | 118.0        | -1.1%              | 3.0%  |
| 食用油<br>(キャノーラ油) | 100.0 | 104.1 | 140.7 | 159.4 | 144.1 | 142.9 | 145.1 | 143.5 | 144.5 | 142.9 | 140.0        | -2.0%              | -8.7% |
| みそ              | 100.0 | 99.2  | 100.1 | 105.9 | 109.2 | 110.0 | 109.8 | 110.2 | 110.0 | 110.6 | 108.8        | -1.6%              | -1.6% |
| マヨネーズ           | 100.0 | 102.2 | 117.7 | 139.8 | 141.3 | 140.3 | 140.6 | 141.3 | 140.6 | 138.6 | 140.6        | 1.4%               | -2.2% |
| チーズ             | 100.0 | 98.1  | 105.7 | 126.5 | 127.8 | 129.3 | 129.3 | 128.8 | 128.8 | 128.3 | 122.3        | -4.7%              | 0.0%  |
| バター             | 100.0 | 99.8  | 99.1  | 108.0 | 119.7 | 119.7 | 119.7 | 118.8 | 119.4 | 119.7 | 119.2        | -0.4%              | 3.7%  |

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。  
注2: 調査は原則、各都道府県10店舗で実施。  
注3: 調査結果は調査期間中の平均値で算出。

## 資料 6-1 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

○独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は毎月25日頃に海外の畜産物の需給動向を公表（月報 畜産の情報）

○2025年1月号（12月25日に公表）の各品目の主な動きは以下の通り

『月報 畜産の情報』

### ◆牛肉

（米国）24年9月の牛肉輸出量は前年同月比3.6%増

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003534.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003534.html)

（豪州）輸出増や牛群再構築の完了に伴い、牛肉需給関連指標はいずれも高水準

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003535.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003535.html)

（中国）牛肉生産量は増加、牛肉価格は低水準で推移

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003536.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003536.html)

### ◆豚肉

（EU）豚枝肉卸売価格、約2年ぶりに200ユーロを割り込む

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003537.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003537.html)

（ブラジル）24年1～10月の豚肉輸出量、中国向けの落ち込みをアジアや米州向けで補完

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003538.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003538.html)

## 資料 6-2 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

### ◆牛乳・乳製品

（米国）ラテンアメリカ地域や東南アジアからの需要増が乳製品輸出を牽引

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003539.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003539.html)

（EU）24年9月の生乳出荷量3カ月連続で前年同期を下回る

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003540.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003540.html)

（NZ）生乳生産量は前年度を上回って推移

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003541.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003541.html)

（中国）生乳生産量は減少に転じるも、生乳価格は引き続き低迷

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003542.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003542.html)

### ◆飼料穀物

（世界：トウモロコシ）消費量の微増などから期末在庫はやや減少も、引き続き高水準の見通し

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003544.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003544.html)

（世界：大豆）生産量は減少も、大豆期末在庫は引き続き大幅増の見込み

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003545.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003545.html)

（米国）単収の下方修正で生産量はわずかに減少も、輸出量は据え置かれて引き続き高水準を維持

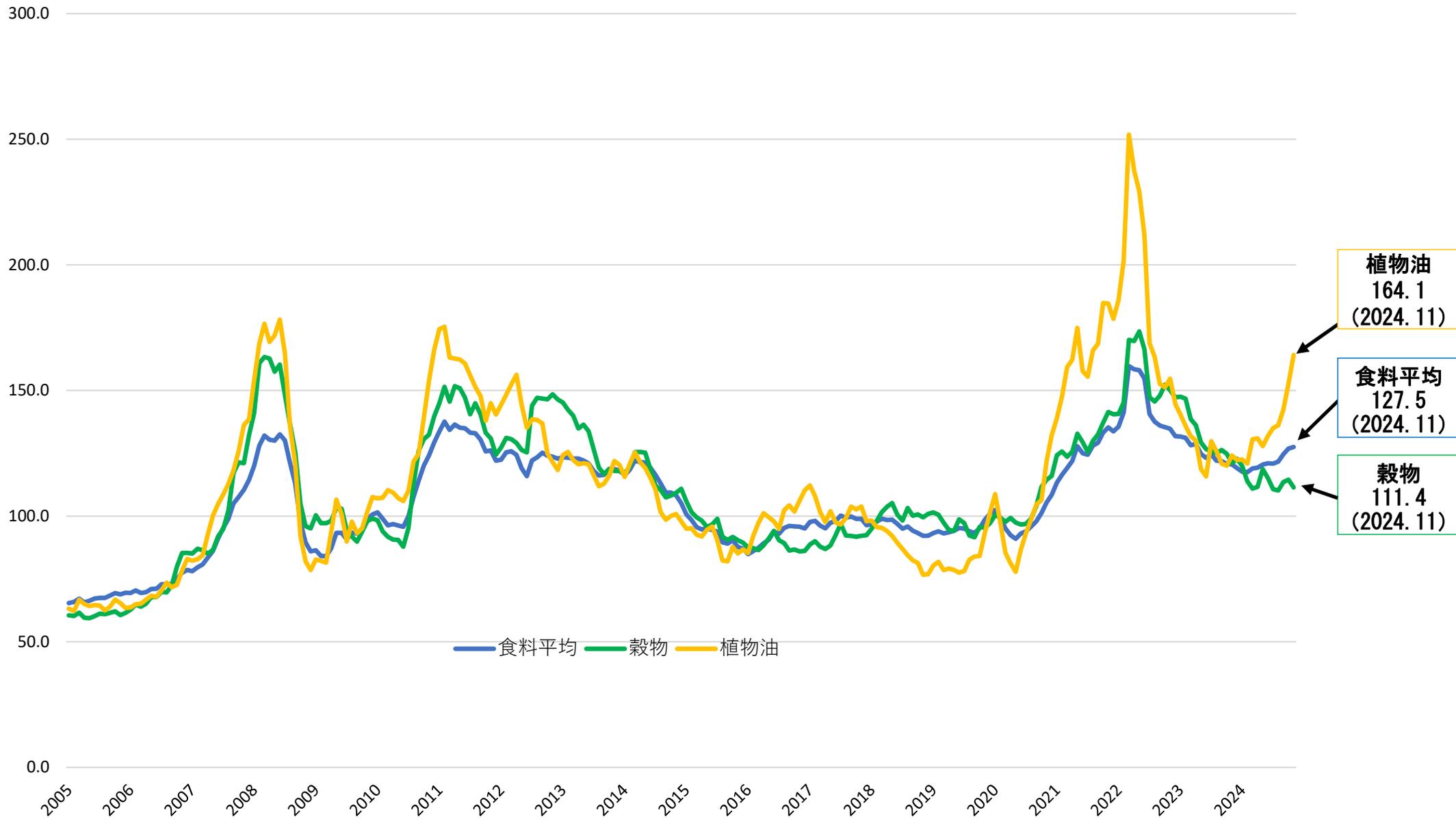
[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003547.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003547.html)

（中国）トウモロコシおよび大豆の価格動向

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003548.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003548.html)

# 資料 7 FAO食料価格指数

(2014-16平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2024.11)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

## 【今月のコラム】

### 米国便り：米国産とうもろこし、大豆の輸送インフラ

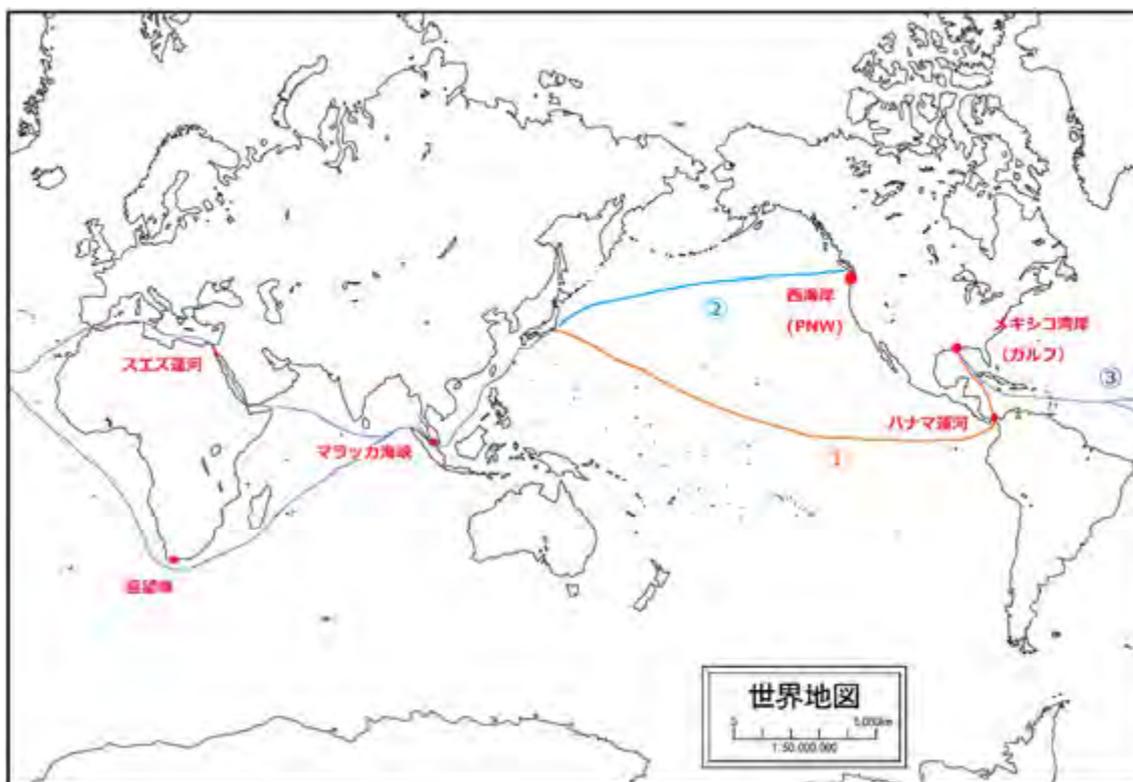
米国といえば、穀物等の大輸出国ですが、どのようなルートで穀物等の食料が日本へ輸送されているのかについては、あまり知られていないと思います。今回は、米国に訪問した際の情報を中心に、米国産のとうもろこし・大豆がどのような輸送ルートで日本まで運ばれているのかを御紹介したいと思います。

#### 1 米国産穀物等の海上輸送ルート

米国産大豆・とうもろこしのアジア向けの輸送ルートは、①メキシコ湾岸の港（通称ガルフ）からパナマ運河を経由で輸出されることが一般的です。その他、②冬季に利用される、鉄道を利用してPNW（Pacific Northwest：太平洋岸北西部）から輸出されるルートや、③パナマ運河で通航制限が発生した場合、ガルフからアフリカ南端喜望峰もしくはスエズ運河を経由し、東南アジアのマラッカ海峡を通過して輸出されるルートもあります。

なお、米国産小麦のアジア向けの輸送ルートはPNWの港湾（ポートランド港、シアトル港、タコマ港等）から太平洋経由で輸出されることが一般的です。

図1 米国産穀物等の海上輸送ルート



注：おおよそのルートであり、実際とは異なる場合がある。

## 2 主要輸出港（南ルイジアナ港）

米国南部ルイジアナ州にある南ルイジアナ港は、60年以上の歴史がある米国産穀物の取扱量がトップの港です。メキシコ湾岸の都市ではニューオーリンズが有名ですが、ニューオーリンズ港は街の中心地に近いため広大な土地を確保しにくい一方、ニューオーリンズ港を上った位置にある南ルイジアナ港には広大な土地を確保して輸出ターミナルを設置しやすい利点があります。そのため、ガルフ周辺で最大の輸出港であり、米国最大の穀物輸出港となっています。

訪問した輸出エレベーター（輸出港に建つ輸出船積み用のエレベーター）における米国内生産地（コーンベルト）からの輸送手段の比率は、ミシシッピ川の水運 95%、鉄道 5%、トラック 1%未満となっており、ミシシッピ川の河川輸送が主要な輸送手段となっています。

写真1 南ルイジアナ港のはしけ

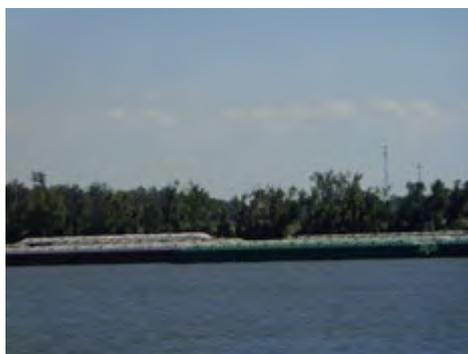
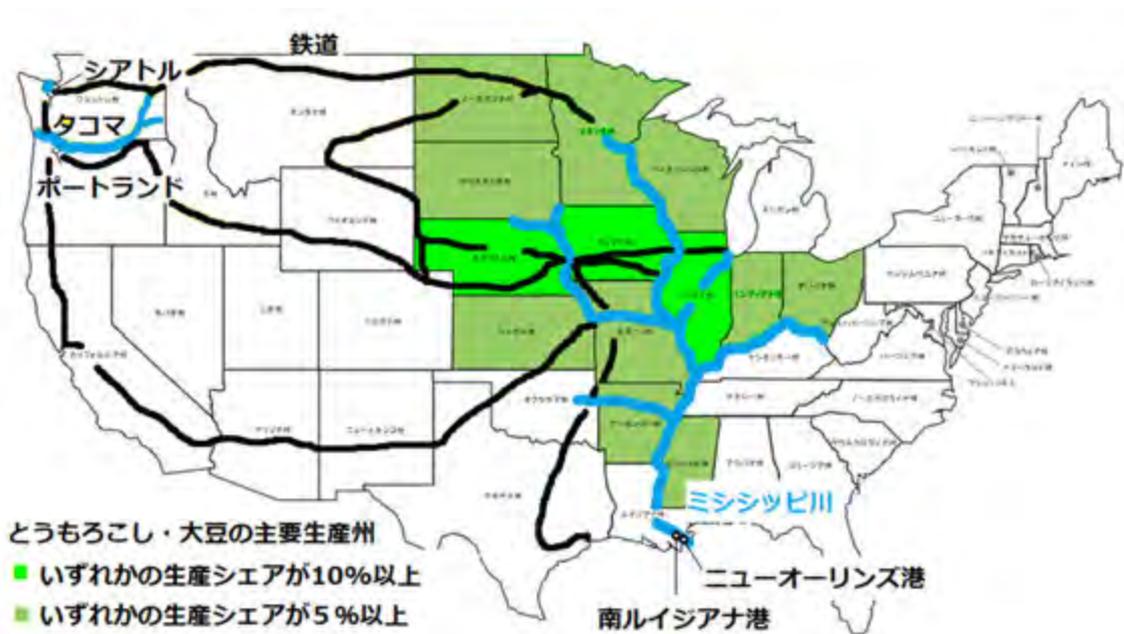


図2 米国の主要なとうもろこし、大豆輸出港



資料：USDA「Crop Production」(8 November 2024)を基に作成。

### 3 主要な国内輸送ルート

米国産とうもろこし、大豆の日本向けの主要な輸送ルートは、コーンベルトからミシシッピ川の水運を利用して、ガルフから輸出するものです。ここでは、ミシシッピ川の水運について御説明します。

ミシシッピ川には、イリノイ川、オハイオ川、ミズーリ川、アーカンソー川といった支流があり、コーンベルト各州と南ルイジアナ港を結んでいます。生産地の穀物はトラックや鉄道等でリバーエレベーター（河口に建つはしけへの積み込み用のエレベーター）まで輸送され、はしけに積み込まれて川を下ります。通常、はしけにはエンジンがないため、複数のはしけをつないでタグボート（曳船）で輸送されます。

ミシシッピ川の上中流域（ミネアポリスからミズーリ州セントルイス）は、流れが激しく水位を調整して安定して輸送させるためのロックアンドダム（閘門）があります。支流のイリノイ川やミズーリ川が合流するクインシーとセントルイス間のロックアンドダムが輸送のボトルネックになりやすい状況にあると言われています。

下流（セントルイス以南）においては、川幅が広くなり十分な水深があるため、閘門はありません。ケーロは、はしけの編成を3列から5列に増やす重要な地点となっています。また、メンフィスは、乾燥により水位が低下しているため、米国陸軍工兵隊による浚渫（しゅんせつ）作業が実施されています（2024年10月現在）。

図3 ミシシッピ川と支流



写真2 タグボート（曳船）に曳かれるはしけ



今回は、米国産とうもろこし、大豆の輸送ルートについて米国の重要なインフラであるミシシッピ川の水運を中心に御紹介しました。日本と異なり、米国産とうもろこし、大豆については、自然の力を利用して長距離を下る河川が主要な輸送経路になっており、ミシシッピ川の水位が低下した際は輸送の遅れが発生する場合もあるため、航行状況を注視する必要があります。

文責：辻 貫志（農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室）

本稿は、世界各国・地域の駐在員の方々にご協力をいただき、最新の現地情報をご紹介します。日本とは異なる文化や経済、国土条件等を背景として、それぞれの国や地域における食料の生産、流通、消費の特徴などについてご紹介したいと思います

(品目別需給編)

# 1 小麦

## (1) 国際的な小麦需給の概要 (詳細は右表を参照)

<USDA の見通し> 2024/25 年度

**生産量** 前年度比 前月比

- ・EU、ブラジル等で下方修正され、前月から下方修正されたものの、史上最高の見込み。

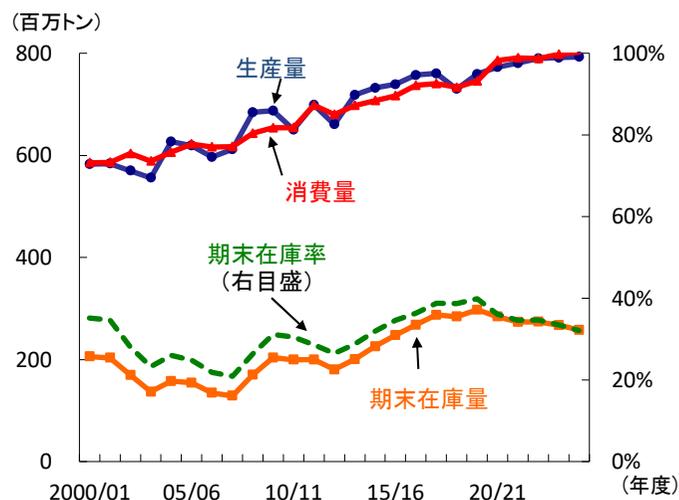
**消費量** 前年度比 前月比

- ・シリアで上方修正されたものの、ウクライナ等で下方修正され、前月から下方修正された。

**輸出量** 前年度比 前月比

- ・米国、ウクライナで上方修正されたものの、ロシア、EU等で下方修正され、前月から下方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 前月比



資料:USDA「PS&D」(2024. 12. 10) をもとに農林水産省にて作成

## ◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

| 年 度   | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25 |               |                 |
|-------|---------|------------------|---------|---------------|-----------------|
|       |         |                  | 予測値     | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率 (%) |
| 生産量   | 789.9   | 791.2            | 793.0   | ▲ 1.8         | 0.2             |
| 消費量   | 789.6   | 797.9            | 802.5   | ▲ 0.9         | 0.6             |
| うち飼料用 | 152.8   | 159.1            | 152.6   | ▲ 0.3         | ▲ 4.1           |
| 輸出量   | 221.7   | 221.4            | 213.7   | ▲ 1.0         | ▲ 3.5           |
| 輸入量   | 213.3   | 221.9            | 209.6   | ▲ 0.5         | ▲ 5.6           |
| 期末在庫量 | 274.0   | 267.4            | 257.9   | 0.3           | ▲ 3.6           |
| 期末在庫率 | 34.7%   | 33.5%            | 32.1%   | 0.1           | ▲ 1.4           |

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (10 December 2024)

### ○ 2024/25年度の世界の小麦の生産量(793.0百万トン) (単位: %)



### ○ 2024/25年度の世界の小麦の輸出量(213.7百万トン) (単位: %)



### ○ 2024/25年度の世界の小麦の輸入量(209.6百万トン) (単位: %)



## (2) 国別の小麦の需給動向

### ＜ 米国 ＞ 2024/25 年度の輸出量は前月から上方修正され 23.1 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 53.7 百万トンと、収穫面積及び単収が前年度より増加することから前年度と比べ 9.3%増、過去 5 年平均（48.2 百万トン）と比べても 11.4%増となる見込み。品種別には、ハード・レッド・ウインター（HRW）が 21.0 百万トン（前年度比 29.3%増）、ハード・レッド・スプリング（HRS）が 13.7 百万トン（同 8.0%増）、ホワイト小麦（WW）が 7.5 百万トン（同 17.7%増）、デュラム小麦（Durum）が 2.2 百万トン（同 34.9%増）と、前年度と比べ増加する一方で、ソフト・レッド・ウインター（SRW）は前作物のとうもろこし及び大豆の収穫が遅れ作付面積が減少したこと等を受け 9.3 百万トン（同 23.7%減）となる見込み。

同「Crop Progress」（2024.11.25）によれば、11 月 24 日現在、2025/26 年度の冬小麦の作付進捗率は 97%と前年同期 97%、過去 5 年平均 98%と同水準で作付けはほぼ終了している。出芽進捗率も 89%と前年同期 90%、過去 5 年平均 89%と同水準。また、作柄は「やや良～良」の割合が 55%と、前年同期 50%を上回っており、作付初期の乾燥により作柄が悪かったものが 11 月以降の降雨により改善している。

同「Wheat Outlook」（2024.12.12）によれば、12 月 3 日現在、2025/26 年度の冬小麦の作付地域の約 29%が干ばつとなっているものの、前月 11 月 5 日現在の約 57%からは大きく改善している。干ばつ地域の減少により冬小麦の作柄は大きく改善しており、「やや良～良」の割合は今年度最初の評価 10 月 27 日現在 38%から 11 月 24 日現在 55%と 17 ポイント増となっている。これは 1987 年以降で最大の改善となっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、好調な輸出及びロシア産小麦の輸出鈍化による競合減少の期待から、前月予測から 0.7 百万トン上方修正され 23.1 百万トンと、増産による輸出余力の増大に加え、EU、ロシア及びウクライナの減産による輸出余力の減少等を受け、前年度と比べ 20.2%増、過去 5 年平均（23.0 百万トン）と比べても 0.5%増と 4 年ぶりの高水準となる見込み。

2024/25 年度のうち 2024 年 6 月～10 月の輸出量は、973.9 万トンと前年同期（716.7 万トン）と比べ 35.9%増となっており、国別にはメキシコ 158.7 万トン（16.3%）、フィリピン 111.8 万トン（11.5%）、日本 101.3 万トン（10.4%）の順。2024/25 年度の期末在庫量は、輸出量の引上げ等を受け前月予測から 0.5 百万トン下方修正され 21.6 百万トンなるものの、前年度と比べ 14.1%増となる見込み。

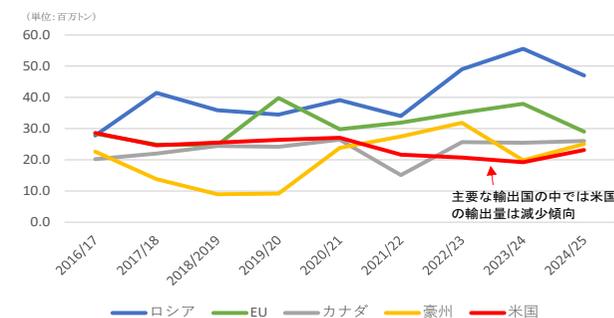
## 小麦－米国（冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割）

(単位:百万トン)

| 年 度        | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25 (24年6月～25年5月) |               |                |
|------------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予 測 値                 | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量        | 44.9    | 49.1             | 53.7                  | -             | 9.3            |
| 消費量        | 30.3    | 30.2             | 31.2                  | -             | 3.6            |
| うち飼料用      | 2.0     | 2.3              | 3.3                   | -             | 41.6           |
| 輸 出 量      | 20.7    | 19.2             | 23.1                  | 0.7           | 20.2           |
| 輸 入 量      | 3.3     | 3.8              | 3.4                   | 0.1           | ▲ 9.6          |
| 期末在庫量      | 15.5    | 19.0             | 21.6                  | ▲ 0.5         | 14.1           |
| 期末在庫率      | 30.4%   | 38.4%            | 39.8%                 | ▲ 1.5         | 1.4            |
| (参考)       |         |                  |                       |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 14.36   | 15.01            | 15.57                 | -             | 3.7            |
| 単収(t/ha)   | 3.13    | 3.27             | 3.45                  | -             | 5.5            |

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」  
「World Agricultural Production」(10 December 2024)

## 図 小麦の主要輸出国における輸出量の推移



## 表 米国産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量:万トン、シェア:%)

| 2024/25年度<br>(2024年6月～10月) |       | 2023/24年度<br>(2023年6月～2024年5月) |       | 2022/23年度<br>(2022年6月～2023年5月) |       |        |         |       |
|----------------------------|-------|--------------------------------|-------|--------------------------------|-------|--------|---------|-------|
| 国 名                        | 輸出量   | シェア                            | 国 名   | 輸出量                            | シェア   | 国 名    | 輸出量     | シェア   |
| メキシコ                       | 158.7 | 16.3                           | メキシコ  | 325.8                          | 17.4  | メキシコ   | 365.4   | 18.0  |
| フィリピン                      | 111.8 | 11.5                           | フィリピン | 274.5                          | 14.7  | フィリピン  | 206.1   | 10.2  |
| 日本                         | 101.3 | 10.4                           | 中国    | 216.9                          | 11.6  | 日本     | 204.1   | 10.1  |
| 韓国                         | 96.4  | 9.9                            | 日本    | 197.1                          | 10.5  | 韓国     | 147.2   | 7.3   |
| 台湾                         | 47.8  | 4.9                            | 韓国    | 130.1                          | 6.9   | 中国     | 120.6   | 6.0   |
| ナイジェリア                     | 36.0  | 3.7                            | 台湾    | 110.5                          | 5.9   | ナイジェリア | 81.9    | 4.0   |
| その他                        | 422.0 | 43.3                           | その他   | 618.1                          | 33.0  | その他    | 901.7   | 44.5  |
| 計                          | 973.9 | 100.0                          | 計     | 1,873.0                        | 100.0 | 計      | 2,027.0 | 100.0 |

資料: USDA「Global Agricultural Trade System」をもとに農林水産省  
で作成

< カナダ > 2024/25 年度の生産量は前月から上方修正され 35.0 百万トンの見込み (AAFC)

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省 (AAFC) 「Outlook for Principal Field Crops」(2024.12.19) によれば、2024/25 年度の実産量は、収穫面積及び単収の引上げを受け前月予測から 0.7 百万トン上方修正され 35.0 百万トンと、干ばつの影響により減産となった前年度 (32.9 百万トン) に比べ 6.1%増、過去 5 年平均 (31.7 百万トン) と比べても 10.4%増となる見込み。

種類別には、普通小麦は 29.1 百万トンと、前年度 (28.9 百万トン) に比べ 0.8%増、過去 5 年平均 (26.8 百万トン) と比べても 8.7%増となり、史上最高の生産量となった 2013/14 年度に次ぐ史上 2 番目の生産量になる見込み。デュラム小麦も 5.9 百万トンと、前年度 (4.1 百万トン) に比べ 43.6%増、過去 5 年平均 (4.9 百万トン) と比べても 19.8%増となる見込み。

カナダ統計局「Production of principal field crops, November 2024」(2024.12.5) によれば、2024/25 年度の実産量は、35.0 百万トンとなる見込み。このうちデュラム小麦は、前年度と比べ収穫面積及び単収が増加したことを受け 5.9 百万トン。普通小麦のうち春小麦は、前年度と比べ収穫面積は減少したものの、単収が増加したことから 26.1 百万トンと、前年度 (25.5 百万トン) と比べ 2.2%増となる見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され 26.2 百万トンと、前年度 (25.3 百万トン) と比べ 3.2%増となる見込み。種類別には、普通小麦が前月予測から 0.5 百万トン上方修正され 21.3 百万トンと、増産となるものの飼料用消費量が増加すること等から前年度 (21.8 百万トン) に比べ 2.4%減となる見込み。デュラム小麦は前月予測からの変更はなく 4.9 百万トンと、生産量の回復による輸出余力の増大等を受け、前年度 (3.6 百万トン) に比べ 37.7%増となる見込み。

カナダ穀物委員会 (CGC) によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 8 月～10 月の輸出量は、569.4 万トンと前年同期 (594.3 万トン) と比べ 4.2%減。

種類別には、普通小麦が 477.7 万トンと前年同期 (526.5 万トン) と比べ 9.3%減で、国別には日本 49.8 万トン (10.4%)、インドネシア 46.1 万トン (9.7%)、ペルー 35.0 万トン (7.3%) の順。デュラム小麦は 91.7 万トンと前年同期 (67.8 万トン) と比べ 35.4%増で、国別にはイタリア 26.4 万トン (28.7%)、モロッコ 22.8 万トン (24.9%)、米国 9.9 万トン (10.8%) の順。

AAFC によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸出量及び消費量の引上げを受け前月予測から 0.2 百万トン下方修正され 4.5 百万トンと、前年度と比べ 3.6%減となる見込み。

小麦—カナダ (春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

| 年度    | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25 (24年8月～25年7月) |               |                |
|-------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値、( ) はAAFC         | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量   | 34.8    | 33.0             | 35.0 (35.0)           | ▲ 0.04        | 6.1            |
| 消費量   | 8.3     | 9.2              | 9.6 (9.1)             | -             | 4.7            |
| うち飼料用 | 3.2     | 4.1              | 4.5 (4.7)             | -             | 10.6           |
| 輸出入量  | 25.6    | 25.4             | 26.0 (26.2)           | -             | 2.2            |
| 輸入量   | 0.6     | 0.6              | 0.6 (0.1)             | -             | ▲ 1.8          |
| 期末在庫量 | 5.6     | 4.5              | 4.4 (4.5)             | ▲ 0.1         | ▲ 2.2          |
| 期末在庫率 | 16.6%   | 13.1%            | 12.4% (12.6%)         | ▲ 0.3         | ▲ 0.6          |

(参考)

| 収穫面積(百万ha) | 10.10 | 10.70 | 10.65 (10.65) | 0.05   | ▲ 0.5 |
|------------|-------|-------|---------------|--------|-------|
| 単収(t/ha)   | 3.45  | 3.08  | 3.28 (3.28)   | ▲ 0.02 | 6.5   |

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 December 2024)  
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(19 December 2024)

図 カナダ産小麦の種類別生産量の推移



資料: カナダ統計局のデータをもとに農林水産省で作成

表 カナダ産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量:万トン)

| 2024/25年度<br>(2024年8月～10月) |       | 2023/24年度<br>(2023年8月～2024年7月) |         | 2022/23年度<br>(2022年8月～2023年7月) |         |
|----------------------------|-------|--------------------------------|---------|--------------------------------|---------|
| 国名                         | 輸出量   | 国名                             | 輸出量     | 国名                             | 輸出量     |
| 日本                         | 49.8  | 中国                             | 310.3   | 中国                             | 296.8   |
| インドネシア                     | 46.1  | インドネシア                         | 251.9   | インドネシア                         | 213.8   |
| ペルー                        | 35.0  | 日本                             | 173.9   | 日本                             | 167.3   |
| コロンビア                      | 28.6  | バングラデシュ                        | 172.7   | ペルー                            | 148.3   |
| エクアドル                      | 26.9  | ペルー                            | 137.3   | バングラデシュ                        | 144.4   |
| その他                        | 291.4 | その他                            | 1,069.2 | その他                            | 996.1   |
| 計                          | 477.7 | 計                              | 2,115.3 | 計                              | 1,966.6 |

(輸出量:万トン)

| 2024/25年度<br>(2024年8月～10月) |      | 2023/24年度<br>(2023年8月～2024年7月) |       | 2022/23年度<br>(2022年8月～2023年7月) |       |
|----------------------------|------|--------------------------------|-------|--------------------------------|-------|
| 国名                         | 輸出量  | 国名                             | 輸出量   | 国名                             | 輸出量   |
| イタリア                       | 26.4 | アルジェリア                         | 89.3  | イタリア                           | 121.0 |
| モロッコ                       | 22.8 | モロッコ                           | 81.7  | アルジェリア                         | 120.8 |
| 米国                         | 9.9  | 米国                             | 46.2  | モロッコ                           | 85.7  |
| アルジェリア                     | 8.4  | イタリア                           | 44.7  | 米国                             | 50.4  |
| 日本                         | 6.7  | 日本                             | 21.2  | チュニジア                          | 32.5  |
| その他                        | 17.6 | その他                            | 60.4  | その他                            | 96.8  |
| 計                          | 91.7 | 計                              | 343.5 | 計                              | 507.3 |

資料: カナダ穀物委員会のデータをもとに農林水産省で作成

## < 豪州 > 2024/25 年度の生産量は前回予測から上方修正され 31.9 百万トンの見込み (ABARES)

【生育・生産状況】豪州農業資源経済科学局 (ABARES) 「Australian Crop Report」 (2024.12.3) によれば、2024/25 年度の実生産量は前回予測 (2024.9.3) から 6 万トン上方修正され 31.9 百万トンと、前年度 (26.0 百万トン) と比べ 22.8%増、過去 5 年平均 (29.8 百万トン) と比べても 6.9%増となる見込み。

州別の生産量は、ニューサウスウェールズ州 (NSW 州) が 12.4 百万トン (前年度比 74.8%増)、クイーンズランド州 (QLD 州) が 2.2 百万トン (同 106.5%増) とシーズンを通して十分な降雨に恵まれたことから前年度に比べ大きく増加する見込み。また、ウェスタンオーストラリア州 (WA 州) についても 10.8 百万トン (同 39.6%増) と生育後期の降雨により前年度から増加する見込み。一方、サウスオーストラリア州 (SA 州) は 3.0 百万トン (同 37.5%減)、ビクトリア州 (VIC 州) も 3.5 百万トン (33.7%減) とシーズンを通して降水量が少なかったことや 9 月に霜が降りた影響等により前年度から減少する見込み。

USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく 32.0 百万トンと、エルニーニョ現象により降雨不足で土壌水分不足だった前年度から収穫面積及び単収が増加することから、前年度と比べ 23.3%増、過去 5 年平均 (29.8 百万トン) と比べても 7.3%増となる見込み。

現地情報会社の情報によれば、12 月 5 日現在、2024/25 年度の実生産量は、11 月は豪州全体で平年に比べ降水量が多かったことから収穫作業に遅れが生じ 76%となっている。また、WA 州では降水量が多かったことによる品質低下の懸念がある。

【貿易情報・その他】ABARES (2024.12.3) によれば、2024/25 年度の実輸出量は前回予測から 16 万トン上方修正され 21.9 百万トンと、前年度 (19.8 百万トン) と比べ 11.0%増となるものの、過去 5 年平均 (22.4 百万トン) と比べると 1.9%減となる見込み。

2024/25 年度の実輸出量のうち、2024 年 10 月の実輸出量は 115.7 万トンと、輸出余力の減少を受け前年同期 (141.1 万トン) に比べ 18.0%減少している。国別には、インドネシア 27.2 万トン (23.5%)、フィリピン 23.1 万トン (20.0%)、韓国 14.3 万トン (12.4%) の順となっている。

2024/25 年度の期末在庫量は輸出量の上方修正等を受け前回予測から 7.2 万トン下方修正され 4.0 百万トンとなるものの、前年度 (2.8 百万トン) に比べ 43.8%増となる見込み。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、期首在庫量の引下げを受け前月予測から 0.2 百万トン下方修正され 2.6 百万トンと、輸出量の増加等を受け前年度に比べ 10.4%減となる見込み。

## 小麦—豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

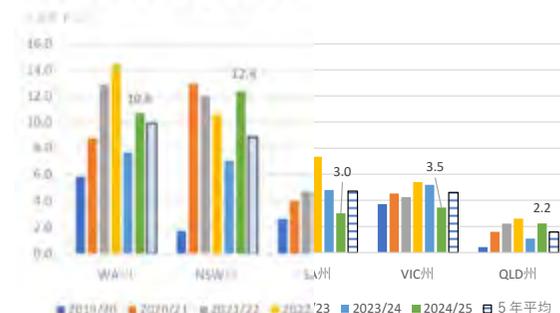
| 年度    | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25 (24年10月~25年9月) |               |                 |
|-------|---------|------------------|------------------------|---------------|-----------------|
|       |         |                  | 予測値、( ) は ABARES       | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率 (%) |
| 生産量   | 40.6    | 26.0             | 32.0 (31.9)            | -             | 23.3            |
| 消費量   | 8.0     | 7.8              | 7.5 (8.7)              | -             | ▲ 3.8           |
| うち飼料用 | 4.5     | 4.3              | 4.0 ...                | -             | ▲ 7.0           |
| 輸出量   | 31.8    | 19.9             | 25.0 (21.9)            | -             | 25.8            |
| 輸入量   | 0.2     | 0.2              | 0.2 ...                | -             | ▲ 9.1           |
| 期末在庫量 | 4.4     | 2.9              | 2.6 (4.0)              | ▲ 0.2         | ▲ 10.4          |
| 期末在庫率 | 11.0%   | 10.4%            | 7.9% (13.2%)           | ▲ 0.5         | ▲ 2.5           |

(参考)

|             |       |       |               |   |      |
|-------------|-------|-------|---------------|---|------|
| 収穫面積 (百万ha) | 13.05 | 12.37 | 13.00 (13.06) | - | 5.1  |
| 単収 (t/ha)   | 3.11  | 2.10  | 2.46 (2.44)   | - | 17.1 |

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」 (10 December 2024)  
ABARES 「Australian Crop Report」 (3 December 2024)

図 豪州の小麦の州別生産量の推移



資料: ABARES 「Australian Crop Report」 (2024. 12. 3) をもとに農林水産省で作成

表 豪州産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量:万トン、シェア:%)

| 国名     | 2024/25年度<br>(2024年10月) |       | 2023/24年度<br>(2023年10月~2024年9月) |       | 2022/23年度<br>(2022年10月~2023年9月) |       |
|--------|-------------------------|-------|---------------------------------|-------|---------------------------------|-------|
|        | 輸出量                     | シェア   | 輸出量                             | シェア   | 輸出量                             | シェア   |
| インドネシア | 27.2                    | 23.5  | 375.5                           | 19.1  | 759.2                           | 23.9  |
| フィリピン  | 23.1                    | 20.0  | 323.5                           | 16.5  | 502.9                           | 15.8  |
| 韓国     | 14.3                    | 12.4  | 233.6                           | 11.9  | 307.6                           | 9.7   |
| ベトナム   | 12.0                    | 10.4  | 152.2                           | 7.7   | 285.5                           | 9.0   |
| 日本     | 6.7                     | 5.8   | 120.6                           | 6.1   | 270.0                           | 8.5   |
| イエメン   | 5.0                     | 4.3   | 119.4                           | 6.1   | 199.2                           | 6.3   |
| その他    | 27.2                    | 23.5  | 641.6                           | 32.6  | 855.7                           | 26.9  |
| 計      | 115.7                   | 100.0 | 1,966.4                         | 100.0 | 3,180.0                         | 100.0 |

資料: ABARES 「Trade dashboard」 をもとに農林水産省で作成

## < EU27 > 2024/25年度の生産量は前月から下方修正され119.5百万トンの見込み (EC)

【生育・生産状況】欧州委員会 (EC) 「EU Cereals Balance Sheets」(2024.11.28) によれば、2024/25年度の生産量は、収穫面積及び単収の引下げを受け、前月予測から0.3百万トン下方修正され119.5百万トンとなる見込み。2023年秋の多雨で冬小麦の作付けが困難となったほか、生育期間を通じた降雨過多等により収穫面積及び単収が減少することを受け、前年度(132.6百万トン)に比べ9.9%減、過去5年平均(133.4百万トン)と比べても10.4%減となる見込み。このうち、普通小麦は前月予測から0.3百万トン下方修正され112.3百万トンと、前年度比10.3%減、過去5年平均比でも10.8%減となる見込み。国別にはフランスが降雨過多等を受け前年度比27.2%減の25.4百万トン、ドイツも同13.8%減の18.2百万トンとなる見込み。デュラム小麦は前月予測からわずかに下方修正され7.2百万トンと、前年度比2.9%減、過去5年平均比でも4.5%減となる見込み。国別にはイタリアが同5.1%減の3.5百万トン、フランスも同6.5%減の1.2百万トンとなる一方、スペインが干ばつからの回復により前年度比61.4%増の0.7百万トンとなる見込み。

USDAによれば、2024/25年度の実績は、収穫面積及び単収の引下げを受け前月予測から1.3百万トン下方修正され121.3百万トンと、前年度と比べ10.2%減、過去5年平均(134.7百万トン)と比べても10.0%減となる見込み。同「World Agricultural Production」(2024.12.10)によれば、EUの生産量の下方修正は主にベルギー、スウェーデン、デンマーク、オランダ、イタリアの生産量減少によるもので、2012/13年度以来最低の実績になる見込み。

【貿易情報・その他】ECによれば、2024/25年度の実績は、前月予測からの変更はなく25.7百万トンと、減産を受け前年度(36.4百万トン)に比べ29.3%減となる見込み。2024/25年度のうち2024年7月～9月の輸出量は、774.4万トンと、前年同期(910.7万トン)と比べ15.0%減。種類別には、普通小麦が753.4万トンと、前年度と比べ16.4%減となる一方、デュラム小麦が21.0万トンと、同117.7%増。

2024/25年度の実績は、前月予測からの変更はなく10.0百万トンと、ウクライナの減産で同国からの輸入が減少すること等から前年度(12.1百万トン)と比べ17.2%減となる見込み。2024/25年度のうち2024年7月～9月の輸入量は、256.7万トンと、前年同期(290.2万トン)と比べ11.5%減。種類別には、普通小麦が224.6万トンと、前年度と比べ6.9%増となる一方、デュラム小麦が32.1万トンと、同59.9%減。

2024/25年度の期末在庫量は、減産等を受け前月予測から0.6百万トン下方修正され11.1百万トンと、供給量の減少から前年度(17.9百万トン)と比べ38.2%減となる見込み。

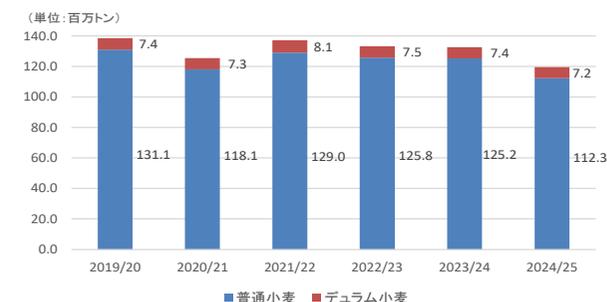
## 小麦－EU27 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

| 年度         | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25(24年7月～25年6月) |               |                |  |
|------------|---------|------------------|----------------------|---------------|----------------|--|
|            |         |                  | 予測値、( )はEC           | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |  |
| 生産量        | 134.5   | 135.1            | 121.3 (119.5)        | ▲ 1.3         | ▲ 10.2         |  |
| 消費量        | 109.0   | 110.5            | 108.8 (110.6)        | -             | ▲ 1.6          |  |
| うち飼料用      | 45.0    | 46.5             | 44.5 (45.8)          | -             | ▲ 4.3          |  |
| 輸出量        | 35.1    | 38.0             | 29.0 (25.7)          | ▲ 1.0         | ▲ 23.6         |  |
| 輸入量        | 12.2    | 12.6             | 11.5 (10.0)          | -             | ▲ 8.9          |  |
| 期末在庫量      | 16.2    | 15.5             | 10.6 (11.1)          | 0.5           | ▲ 31.9         |  |
| 期末在庫率      | 11.3%   | 10.4%            | 7.7% (8.1%)          | 0.4           | ▲ 2.8          |  |
| (参考)       |         |                  |                      |               |                |  |
| 収穫面積(百万ha) | 24.44   | 24.34            | 22.83 (22.41)        | ▲ 0.07        | ▲ 6.2          |  |
| 単収(t/ha)   | 5.50    | 5.55             | 5.31 (5.33)          | ▲ 0.04        | ▲ 4.3          |  |

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 December 2024)  
EC 「EU Cereals Balance Sheets」(28 November 2024)

## 図 EU27の小麦生産量の推移



資料: EC 「EU cereals production, area and yield」(2024.11.28) をもとに農林水産省で作成

## 表 EU27の小麦の輸出量及び輸入量

| O輸出量    |                           |            |                                |            | O輸入量  |                           |            |                                |            |
|---------|---------------------------|------------|--------------------------------|------------|-------|---------------------------|------------|--------------------------------|------------|
| 国名      | 2024/25年度<br>(2024年7月～9月) |            | 2023/24年度<br>(2023年7月～2024年6月) |            | 国名    | 2024/25年度<br>(2024年7月～9月) |            | 2023/24年度<br>(2023年7月～2024年6月) |            |
|         | 輸出量<br>(万トン)              | シェア<br>(%) | 輸出量<br>(万トン)                   | シェア<br>(%) |       | 輸入量<br>(万トン)              | シェア<br>(%) | 輸入量<br>(万トン)                   | シェア<br>(%) |
| エジプト    | 94.0                      | 12.1       | 178.5                          | 4.9        | ウクライナ | 147.6                     | 57.5       | 647.3                          | 53.6       |
| ナイジェリア  | 90.7                      | 11.7       | 348.9                          | 9.6        | カナダ   | 30.1                      | 11.7       | 138.5                          | 11.5       |
| アルジェリア  | 88.2                      | 11.4       | 393.7                          | 10.8       | モルドバ  | 21.9                      | 8.5        | 73.6                           | 6.1        |
| モロッコ    | 58.4                      | 7.5        | 489.1                          | 13.4       | トルコ   | 15.8                      | 6.2        | 76.8                           | 6.4        |
| 英国      | 45.5                      | 5.9        | 140.1                          | 3.9        | 米国    | 14.8                      | 5.8        | 34.2                           | 2.8        |
| サウジアラビア | 33.1                      | 4.3        | 155.4                          | 4.3        | セルビア  | 11.1                      | 4.3        | 35.5                           | 2.9        |
| その他     | 364.6                     | 47.1       | 1,931.1                        | 53.1       | その他   | 15.5                      | 6.0        | 202.8                          | 16.8       |
| 合計      | 774.4                     | 100.0      | 3,636.7                        | 100.0      | 合計    | 256.7                     | 100.0      | 1,208.7                        | 100.0      |

資料: EC 「EU trade for cereals」(2024.11.28) をもとに農林水産省で作成

## < ロシア > 2024/25 年度の輸出量は前月から下方修正され 47.0 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量（クリミア地域分を含まず）は、前月予測からの変更なく 81.5 百万トンと、前年度と比べ 10.9%減、過去 5 年平均（83.5 百万トン）と比べても 2.4%減となる見込み。種類別には、冬小麦が 57.5 百万トンと、5 月の霜害とそれに続く高温乾燥により前年度（64.0 百万トン）に比べ 10.2%減。春小麦が 24.0 百万トンと、霜害と高温乾燥により前年度（27.5 百万トン）に比べ 12.7%減となる見込み。

ロシア農業省によれば、11 月 29 日現在、2024/25 年度の小麦（冬小麦及び春小麦）の収穫進捗率は 98%で、8,457 万トンが収穫されている。ロシア気象センターによれば、11 月末現在、冬小麦を含む 2025/26 年度の秋播き作物は、アジア部（ウラル連邦管区及びシベリア連邦管区）では、分けつ期の段階で越冬に入っており、作柄は概ね良好となっている。一方、ヨーロッパ部北部（北西連邦管区、中央連邦管区及び沿ヴォルガ連邦管区）では、乾燥の影響により出芽が遅れたことから、冬小麦の半分以上が出芽期の段階で越冬を迎えており、枯死等が懸念される。なお、11 月 25 日現在の 2025/26 年度の秋播き作物の作柄は、良好～非常に良好が 32%、平年並みが 32%、不良が 36%と、越冬前の作柄としては観測史上最も悪い状態であった。

【貿易情報・その他】ロシア連邦政府は、12 月 20 日、2025 年 2 月 15 日から 6 月 30 日に小麦及びメスリンに設定される輸出枠を 1,060 万トン（前年度 2,900 万トン）とすることを発表した。当該枠外の輸出については、50%（ただし最低の輸出関税は 100 ユーロ/トン）の輸出関税が課されることとなる。

USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、ロシアにおける年度後半の輸出枠数量の設定を受け前月予測から 1.0 百万トン下方修正され 47.0 百万トンと、史上最高の輸出量となった前年度に比べ 15.3%減となるものの、過去 5 年平均（42.4 百万トン）に比べれば 10.8%増となる見込み。

現地情報会社によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～11 月の輸出量は 2,471.7 万トンと、前年同期（2,329.1 万トン）と比べ 6.1%増となっている。国別には、エジプト 472.5 万トン（19.1%）、トルコ 174.5 万トン（7.1%）、アルジェリア 166.3 万トン（6.7%）の順。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸出量の引下げを受け前月予測から 1.0 百万トン上方修正され 8.2 百万トンとなるものの、前年度に比べ 29.5%減となる見込み。

## 小麦—ロシア（主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培）

（単位：百万トン）

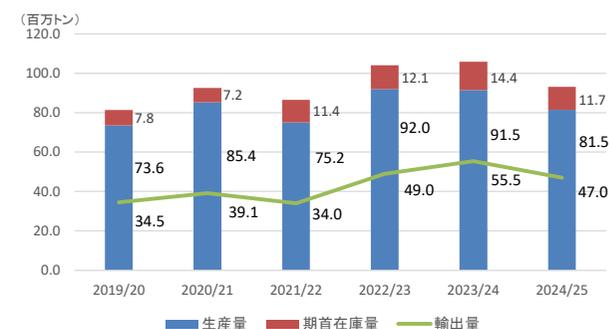
| 年 度   | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25 (24年7月～25年6月) |               |                |
|-------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値、( )はIGC           | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量   | 92.0    | 91.5             | 81.5 (81.8)           | -             | ▲ 10.9         |
| 消費量   | 41.0    | 39.0             | 38.3 (39.0)           | -             | ▲ 1.9          |
| うち飼料用 | 18.0    | 16.0             | 15.5 (16.0)           | -             | ▲ 3.1          |
| 輸 出 量 | 49.0    | 55.5             | 47.0 (44.2)           | ▲ 1.0         | ▲ 15.3         |
| 輸 入 量 | 0.3     | 0.3              | 0.3 (0.1)             | -             | -              |
| 期末在庫量 | 14.4    | 11.7             | 8.2 (9.5)             | 1.0           | ▲ 29.5         |
| 期末在庫率 | 16.0%   | 12.4%            | 9.7% (11.4%)          | 1.27          | ▲ 2.7          |

(参考)

|            |       |       |               |   |       |
|------------|-------|-------|---------------|---|-------|
| 収穫面積(百万ha) | 29.00 | 28.83 | 28.00 (27.73) | - | ▲ 2.9 |
| 単収(t/ha)   | 3.17  | 3.17  | 2.91 (2.95)   | - | ▲ 8.2 |

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 December 2024)  
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)

### 図 ロシアの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024. 12. 10) をもとに農林水産省で作成

### 表 ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

（輸出量：万トン、シェア：%）

| 2024/25年度<br>(2024年11月) |       | 2024/25年度<br>(2024年7月～11月) |            | 2023/24年度<br>(2023年7月～2024年6月) |       |            |         |       |
|-------------------------|-------|----------------------------|------------|--------------------------------|-------|------------|---------|-------|
| 国 名                     | 輸出量   | シェア                        | 国 名        | 輸出量                            | シェア   |            |         |       |
| エジプト                    | 64.6  | 14.7                       | エジプト       | 472.5                          | 19.1  | エジプト       | 868.3   | 16.0  |
| Bangladesh              | 47.2  | 10.7                       | トルコ        | 174.5                          | 7.1   | トルコ        | 691.9   | 12.8  |
| ナイジェリア                  | 35.2  | 8.0                        | アルジェリア     | 166.3                          | 6.7   | Bangladesh | 350.2   | 6.5   |
| モロッコ                    | 31.2  | 7.1                        | Bangladesh | 164.3                          | 6.6   | アルジェリア     | 236.8   | 4.4   |
| トルコ                     | 26.7  | 6.1                        | ケニア        | 114.2                          | 4.6   | サウジアラビア    | 224.8   | 4.2   |
| イスラエル                   | 20.2  | 4.6                        | ナイジェリア     | 101.7                          | 4.1   | カザフスタン     | 222.2   | 4.1   |
| ケニア                     | 19.0  | 4.3                        | モロッコ       | 87.2                           | 3.5   | パキスタン      | 213.0   | 3.9   |
| その他                     | 196.1 | 44.5                       | その他        | 1,191.0                        | 48.2  | その他        | 2,602.8 | 48.1  |
| 計                       | 440.2 | 100.0                      | 計          | 2,471.7                        | 100.0 | 計          | 5,410.0 | 100.0 |

資料：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

## <ウクライナ> 2024/25年度の輸出量は前月から上方修正され16.5百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の生産量（クリミア地域分を含む）は、前月予測からの変更はなく22.9百万トンと、3月以降、降水量が平年を下回り乾燥が続いた影響により前年度に比べ0.4%減、ロシアのウクライナ侵攻前の5年平均（2017/18～2021/22年度、27.9百万トン）と比べても18.0%減となる見込み。

ウクライナ農業政策食料省によれば、11月29日現在、2024/25年度の実生産量は2,239万トンとなっており、収穫は完了している。また、12月2日現在、2025/26年度の冬小麦の作付進捗率は98%と、前年同期96%を上回っており、作付けはほぼ完了している。現地情報会社の11月末時点の情報によれば、冬小麦を含む秋播き作物は最南部の一部地域を除く大部分で越冬状態に入ったとみられる。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、好調な輸出を受け前月予測から0.5百万トン上方修正され16.5百万トンとなるものの、供給量の減少等により前年度と比べ11.2%減、ロシアのウクライナ侵攻前の5年平均（18.1百万トン）と比べても8.8%減となる見込み。

現地情報会社によれば、9月3日、ウクライナ農業政策食料省は穀物市場関係者と覚書の附属書を締結し、2024/25年度の小麦の輸出上限は1,620万トンに設定された。

また、ウクライナ政府は12月1日から輸出許可制度を廃止し、輸出安全保障制度を導入した。当該制度では、最低輸出価格の設定、付加価値税の納税者のみの輸出、輸出業者の管理のため銀行及び税務当局との間での電子データ情報の交換が定められている。

2024/25年度のうち2024年7月～11月の輸出量は906.5万トンと、前年同期（591.2万トン）と比べ53.3%増となっており、2024/25年度の輸出上限1,620万トンに対し本年度5か月で56.0%を輸出している。国別にはスペイン220.9万トン（24.4%）、インドネシア154.8万トン（17.1%）、ベトナム81.4万トン（9.0%）の順となっており、前年度同様スペインが首位である一方、インドネシア、ベトナム、タイといったアジア諸国のシェアが増加している。

USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、輸出量の引上げ等を受け前月予測から0.2百万トン下方修正され0.8百万トンと、前年度に比べ11.3%増となるものの、昨年度に次ぐ低い水準となる見込み。

## 小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）

| 年度    | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25(24年7月～25年6月) |           |            |
|-------|---------|------------------|----------------------|-----------|------------|
|       |         |                  | 予測値、( )はIGC          | 前月予測からの変更 | 対前年度増減率(%) |
| 生産量   | 21.5    | 23.0             | 22.9 (25.4)          | -         | ▲ 0.4      |
| 消費量   | 7.8     | 6.7              | 6.4 (9.4)            | ▲ 0.3     | ▲ 4.5      |
| うち飼料用 | 3.0     | 2.0              | 1.7 (1.4)            | ▲ 0.3     | ▲ 15.0     |
| 輸出量   | 17.1    | 18.6             | 16.5 (16.2)          | 0.5       | ▲ 11.2     |
| 輸入量   | 0.1     | 0.1              | 0.1 (0.1)            | -         | 33.3       |
| 期末在庫量 | 2.9     | 0.7              | 0.8 (0.7)            | ▲ 0.2     | 11.3       |
| 期末在庫率 | 11.8%   | 2.8%             | 3.4% (2.6%)          | ▲ 0.9     | 0.6        |

(参考)

|            |      |      |             |   |       |
|------------|------|------|-------------|---|-------|
| 収穫面積(百万ha) | 5.60 | 5.01 | 5.20 (6.17) | - | 3.8   |
| 単収(t/ha)   | 3.84 | 4.59 | 4.40 (4.11) | - | ▲ 4.1 |

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 December 2024)  
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)

図 ウクライナの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.12.10)をもとに農林水産省で作成

表 ウクライナ産小麦の輸出量と輸出先国

| 2024/25年度<br>(2024年11月) |       |       | 2024/25年度<br>(2024年7月～11月) |       |       | 2023/24年度<br>(2023年7月～2024年6月) |         |       |
|-------------------------|-------|-------|----------------------------|-------|-------|--------------------------------|---------|-------|
| 国名                      | 輸出量   | シェア   | 国名                         | 輸出量   | シェア   | 国名                             | 輸出量     | シェア   |
| スペイン                    | 36.5  | 27.5  | スペイン                       | 220.9 | 24.4  | スペイン                           | 589.9   | 32.0  |
| インドネシア                  | 23.6  | 17.8  | インドネシア                     | 154.8 | 17.1  | エジプト                           | 172.1   | 9.4   |
| バングラデシュ                 | 22.6  | 17.1  | ベトナム                       | 81.4  | 9.0   | インドネシア                         | 151.5   | 8.2   |
| ベトナム                    | 11.4  | 8.6   | エジプト                       | 66.4  | 7.3   | トルコ                            | 107.8   | 5.9   |
| チュニジア                   | 8.5   | 6.4   | タイ                         | 63.7  | 7.0   | ルーマニア                          | 100.1   | 5.4   |
| アルジェリア                  | 7.1   | 5.4   | アルジェリア                     | 52.6  | 5.8   | パキスタン                          | 81.4    | 4.4   |
| タイ                      | 6.5   | 4.9   | バングラデシュ                    | 46.7  | 5.2   | ベトナム                           | 75.1    | 4.1   |
| アラブ首長国連邦                | 4.2   | 3.2   | イタリア                       | 32.6  | 3.6   | バングラデシュ                        | 73.7    | 4.0   |
| イタリア                    | 3.3   | 2.5   | チュニジア                      | 31.5  | 3.5   | イタリア                           | 67.7    | 3.7   |
| ギリシャ                    | 1.4   | 1.1   | イエメン                       | 28.6  | 3.2   | アルジェリア                         | 63.3    | 3.4   |
| その他                     | 7.5   | 5.7   | その他                        | 127.4 | 14.1  | その他                            | 358.0   | 19.5  |
| 合計                      | 132.5 | 100.0 | 合計                         | 906.5 | 100.0 | 合計                             | 1,840.6 | 100.0 |

資料：APK-Inform Agencyのデータをもとに農林水産省で作成

## < 中国 > 2024/25 年度の輸入量は前月から下方修正され 11.0 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 140.0 百万トンと、前年度と比べ 2.5%増、過去 5 年平均（135.8 百万トン）と比べても 3.1%増となり史上最高となる見込み。

中国国家统计局「2024 年糧食生産量データ」（2024.12.13）によれば、2024/25 年度の小麦の作付面積は 23.59 百万ヘクタールと、前年度（23.63 百万ヘクタール）に比べ 0.2%減となるものの、単収は 5.94 トン/ヘクタールと、前年度（5.78 トン/ヘクタール）と比べ 2.7%増となり、生産量も 140.1 百万トンと、前年度（136.6 百万トン）と比べ 2.6%増。

中国農業農村部「農産品供需形成分析月報 2024 年 10 月号」によれば、主要生産地において、2025/26 年度の冬小麦の作付けが着実に進展しており、10 月 24 日現在、作付予定面積の 61.5%、約 14 百万ヘクタールの作付けが完了している。10 月以降、北部の大部分の地域では晴れの日が多く、気温も平年に比べ 1～3℃高く、土壌水分も適切であったことから、冬小麦の作付けと出芽に有利な気象条件であった。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく 151.0 百万トンと、経済成長による食生活の変化に伴い小麦粉需要が増加する一方、2023/24 年度に飼料用グレードの国産小麦が増加していたものが減少し飼料用消費量が減少することから、前年度と比べ 1.6%減となるものの、過去 5 年平均（146.1 百万トン）と比べれば 3.4%増となる見込み。

2024/25 年度の輸入量は、低調な輸入を受け前月予測から 0.5 百万トン下方修正され 11.0 百万トンと、史上最高の生産量となり国内需給が緩和したことから、前年度に比べ 19.4%減となる見込み。

中国海関統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～10 月までの輸入量は 167.9 万トンと、増産を受け前年同期（281.8 万トン）に比べ 40.4%減となっている。国別には、カナダ 56.8 万トン（33.9%）、米国 45.9 万トン（27.4%）、ロシア 22.0 万トン（13.1%）の順となっており、豪州が 2023/24 年度の減産に伴う豪州産の相対的な価格競争力の低下等を受け前年同期の 51.4%から 11.7%と大きくシェアを減らしている一方で、米国及びロシアが大きくシェアを伸ばしている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸入量の引下げを受け前月予測から 0.5 百万トン下方修正され 133.5 百万トンと、前年度に比べ 0.7%減となる見込み。

## 小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

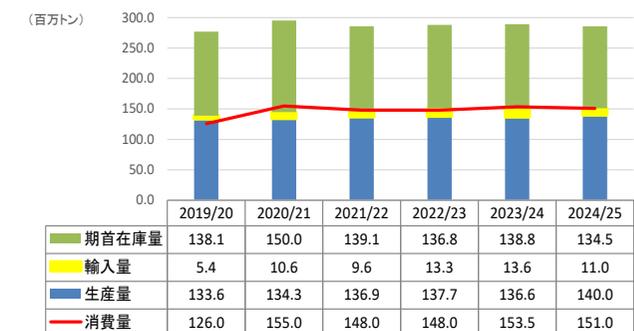
| 年 度   | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25 (24年7月～25年6月) |               |                |
|-------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値、( ) は IGC         | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量   | 137.7   | 136.6            | 140.0 (140.0)         | -             | 2.5            |
| 消費量   | 148.0   | 153.5            | 151.0 (146.8)         | -             | ▲ 1.6          |
| うち飼料用 | 33.0    | 37.0             | 33.0 (28.0)           | -             | ▲ 10.8         |
| 輸 出 量 | 1.0     | 1.0              | 1.0 (1.2)             | -             | ▲ 3.8          |
| 輸 入 量 | 13.3    | 13.6             | 11.0 (10.2)           | ▲ 0.5         | ▲ 19.4         |
| 期末在庫量 | 138.8   | 134.5            | 133.5 (142.4)         | ▲ 0.5         | ▲ 0.7          |
| 期末在庫率 | 93.2%   | 87.0%            | 87.8% (96.2%)         | ▲ 0.3         | 0.8            |

(参考)

|            |       |       |               |   |     |
|------------|-------|-------|---------------|---|-----|
| 収穫面積(百万ha) | 23.52 | 23.63 | 23.70 (23.65) | - | 0.3 |
| 単収(t/ha)   | 5.86  | 5.78  | 5.91 (5.92)   | - | 2.2 |

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 December 2024)  
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)

## 図 中国の小麦の供給量と消費量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.12.10)をもとに農林水産省で作成

## 表 中国の小麦輸入量と輸入先国

(輸入量：万トン、シェア：%)

| 国 名    | 2024/25年度<br>(2024年7月～10月) |       | 2023/24年度<br>(2023年7月～10月) |       | 2023/24年度<br>(2023年7月～2024年6月) |       |
|--------|----------------------------|-------|----------------------------|-------|--------------------------------|-------|
|        | 輸入量                        | シェア   | 輸入量                        | シェア   | 輸入量                            | シェア   |
| カナダ    | 56.8                       | 33.9  | 67.3                       | 23.9  | 307.8                          | 23.0  |
| 米国     | 45.9                       | 27.4  | 22.7                       | 8.1   | 181.8                          | 13.6  |
| ロシア    | 22.0                       | 13.1  | 15.0                       | 5.3   | 43.0                           | 3.2   |
| カザフスタン | 21.4                       | 12.7  | 30.3                       | 10.8  | 66.8                           | 5.0   |
| 豪州     | 19.6                       | 11.7  | 144.8                      | 51.4  | 503.5                          | 37.7  |
| 日本     | 1.5                        | 0.9   | 1.1                        | 0.4   | 3.3                            | 0.2   |
| フランス   | 0.5                        | 0.3   | 0.2                        | 0.1   | 230.1                          | 17.2  |
| その他    | 0.1                        | 0.1   | 0.2                        | 0.1   | 0.6                            | 0.0   |
| 計      | 167.9                      | 100.0 | 281.8                      | 100.0 | 1,336.7                        | 100.0 |

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

## 2 とうもろこし

### (1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

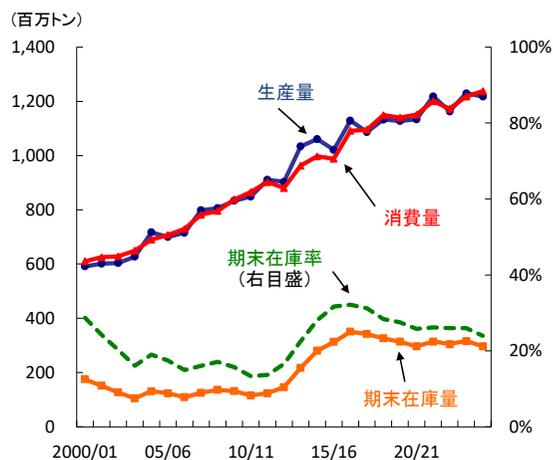
<USDAの見通し> 2024/25年度

**生産量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓  
 ・ウクライナ等で上方修正されたものの、EU、メキシコ、インドネシア等で下方修正され、前月から下方修正された。

**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑  
 ・ブラジル、米国、バングラデシュ、EU等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑  
 ・EUで下方修正されたものの、米国、カナダ等で上方修正され、前月から上方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2024.12.10)をもとに農林水産省にて作成。

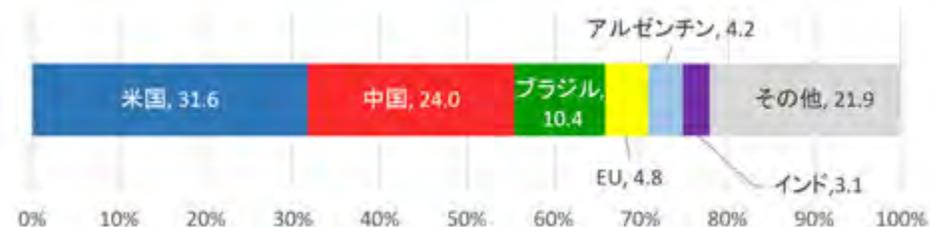
## ◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

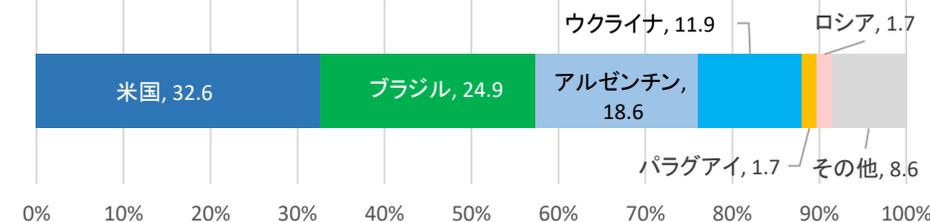
| 年度    | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25 |           |            |
|-------|---------|------------------|---------|-----------|------------|
|       |         |                  | 予測値     | 前月予測からの変更 | 対前年度増減率(%) |
| 生産量   | 1,163.4 | 1,229.6          | 1,217.9 | ▲ 1.5     | ▲ 1.0      |
| 消費量   | 1,172.8 | 1,218.1          | 1,237.7 | 8.2       | 1.6        |
| うち飼料用 | 735.5   | 772.8            | 779.4   | 2.9       | 0.9        |
| 輸出量   | 180.3   | 193.0            | 193.0   | 3.2       | 0.01       |
| 輸入量   | 173.4   | 197.1            | 183.9   | 0.5       | ▲ 6.7      |
| 期末在庫量 | 304.7   | 316.2            | 296.4   | ▲ 7.7     | ▲ 6.3      |
| 期末在庫率 | 26.0%   | 26.0%            | 24.0%   | ▲ 0.8     | ▲ 2.0      |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 December 2024)

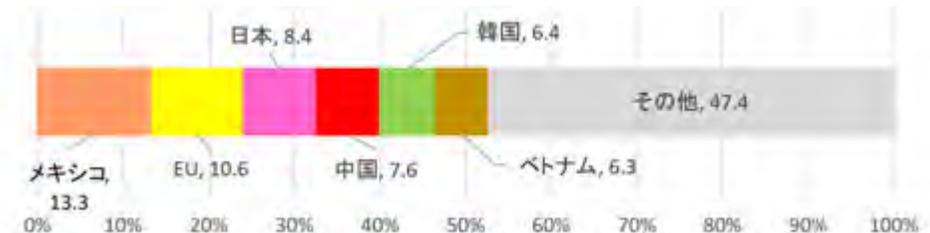
### ○ 2024/25年度 世界のとうもろこしの生産量(1,217.9百万トン) (単位：%)



### ○ 2024/25年度 世界のとうもろこしの輸出量(193.0百万トン) (単位：%)



### ○ 2024/25年度 世界のとうもろこしの輸入量(183.9百万トン) (単位：%)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 2024/25 年度の生産量は史上最高の前年度から 1.3%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の減少（対前年度比 4.4%減）を受け、史上最高の前年度より 1.3%減の 384.6 百万トンとなったものの、史上 3 番目に高い見通し。収穫面積の減少は、作付け時の大豆価格が、前年度に史上最高の豊作で価格が下落したとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたことによる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、エタノール用消費等の増加を受けて、前月予測から 1.3 百万トン上方修正され、前年度に比べ 0.3%増の 323.0 百万トンの見通し。

米国のエタノール輸出は、エタノールの原料となるとうもろこしの国内消費に重要な役割を果たしている。2023 年のエタノール輸出に占める米国のシェアは 47.3%と世界第 1 位であり、カナダ、ブラジル、インド等向けに輸出している。2023/24 年度のエタノール輸出量は、前年度比 43%増の 1.75 億ガロンと史上最高となる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、直近の順調な輸出ペースを受けて前月予測から 3.8 百万トン上方修正され、米国産が価格競争力を有する見通しを受けて前年度より 8.0%増の 62.9 百万トンの見込み。

USDA 「Grain: World Markets and Trade」(2024.12.10) によれば、米国産の輸出価格は、12 月 4 日現在、新穀の豊富な供給量を受けて前月から 5 ドル/トン下落し、205 ドル/トンと、ブラジル産 (217 ドル/トン)、アルゼンチン産 (207 ドル/トン) を下回り、価格競争力を有している。なお、2024 年 9～11 月の輸出量は 1,107.0 万トンと、2023/24 年度の豊作を受けて前年同期の 835.3 万トンより 33%増。主な輸出先は、メキシコ 519.8 万トン (国別シェア 47.0%)、コロンビア 189.6 万トン (同 17.1%)、日本 143.6 万トン (同 13.0%) の順。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、消費量と輸出量の引上げを受けて、前月予測から 5.1 百万トン下方修正され、前年度より 1.3%減の 44.2 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より 1.5 ポイント減少し 11.4%と、過去 5 年平均 (10.7%) を上回っている。

とうもろこし—米国

(単位:百万トン)

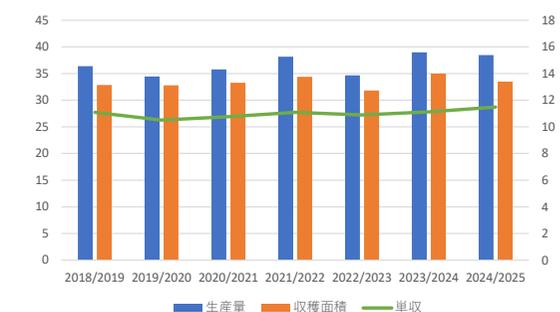
| 年度      | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25 (24年9月～25年8月) |           |            |
|---------|---------|------------------|-----------------------|-----------|------------|
|         |         |                  | 予測値                   | 前月予測からの変更 | 対前年度増減率(%) |
| 生産量     | 346.7   | 389.7            | 384.6                 | -         | ▲ 1.3      |
| 消費量     | 305.9   | 322.0            | 323.0                 | 1.3       | 0.3        |
| うち飼料用   | 139.4   | 147.5            | 148.0                 | -         | 0.3        |
| エタノール用等 | 131.5   | 139.1            | 139.7                 | 1.3       | 0.4        |
| 輸出量     | 42.2    | 58.2             | 62.9                  | 3.8       | 8.0        |
| 輸入量     | 1.0     | 0.7              | 0.6                   | -         | ▲ 11.1     |
| 期末在庫量   | 34.6    | 44.7             | 44.2                  | ▲ 5.1     | ▲ 1.3      |
| 期末在庫率   | 9.9%    | 11.8%            | 11.4%                 | ▲ 1.5     | ▲ 0.3      |

(参考)

|            |       |       |       |   |       |
|------------|-------|-------|-------|---|-------|
| 収穫面積(百万ha) | 31.85 | 35.01 | 33.47 | - | ▲ 4.4 |
| 単収(t/ha)   | 10.89 | 11.13 | 11.49 | - | 3.2   |

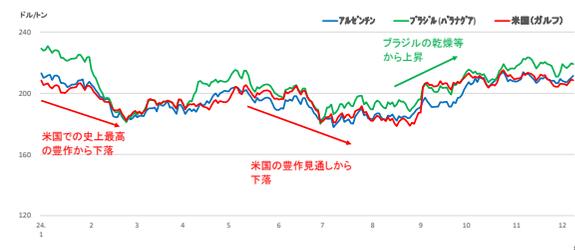
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 December 2024)

図 1 米国産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移 (千万 t, 百万 ha) (t/ha)



資料: USDA 「PS&D」(2024.12.10) をもとに農林水産省にて作成

図 2 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格 (FOB) の推移



資料: IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

## ＜ ブラジル ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 4.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加を受けて前年度より 4.1%増の 127.0 百万トンと、史上 2 番目に高い生産量となる見込み。

ブラジル食料供給公社 (CONAB) の月例報告 (2024.12.12) によれば、2024/25 年度のとうもろこしの生産量は、前年度比 3.4%増の 119.6 百万トンの見込み。現在作付けが進められている夏とうもろこし (ブラジルのクロープカレンダー (図 2) 参照) は、生産コストの増加による大豆等の他作物への作付けのシフトによる作付面積の減少等を受けて、前年度比 1.5%減の 22.6 百万トンの見込み。12 月 1 日現在、作付進捗率は 65%と、前年同期 (60%) を上回っている。一方、1 月以降に作付けが開始される冬とうもろこしは、単収の増加等を受け、前年度比 4.6%増の 97.0 百万トンの見込み。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」 (2024.12.10) によれば、12 月上旬、夏とうもろこしの主要生産地である南部において降雨があり、生育に好影響を与えたとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、生産施設への投資によるエタノールの増産見込みを受けて前月予測から 2.0 百万トン上方修正され、前年度から 1.8%増の 85.5 百万トンと史上最高の見込み。とうもろこしの主要生産州のマットグロッソ州等でとうもろこし原料のエタノール工場が新設されており、ブラジルにおけるエタノールの主原料のさとうきびが価格高騰により製糖に向けられているため、とうもろこし原料のエタノール用消費量が増加しているとみられる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて前年度より 15.7%増の 48.0 百万トンとなり、前年に引き続き米国に次ぐ世界第 2 位の輸出国となる見込み。

なお、2023/24 年度の実産量は、直近の貿易データに基づき前月予測から 2.5 百万トン下方修正され、史上最高の豊作となった 2022/23 年度より 23.6%減の 41.5 百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1～11 月の輸出量は 35.5 百万トンで、史上最高の増産となった前年度より減産したことから前年同期比 29%減。内訳は、エジプト 4.4 百万トン (国別シェア 12.5%)、ベトナム 4.1 百万トン (同 11.5%)、イラン 3.5 百万トン (同 9.9%) の順。

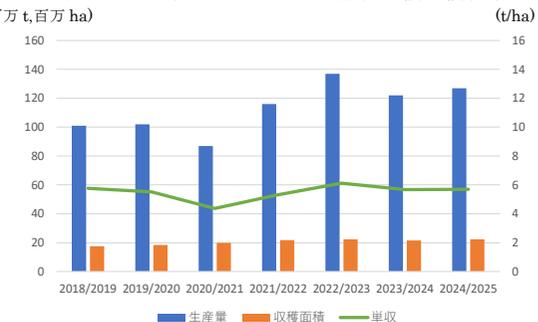
## とうもろこし—ブラジル

(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが約 8 割、夏とうもろこしは約 2 割)

| 年 度         | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25 (25年3月～26年2月) |           |            |  |
|-------------|---------|------------------|-----------------------|-----------|------------|--|
|             |         |                  | 予測値、( ) はCONAB        | 前月予測からの変更 | 対前年度増減率(%) |  |
| 生産量         | 137.0   | 122.0            | 127.0 (119.6)         | -         | 4.1        |  |
| 消費量         | 78.0    | 84.0             | 85.5 (87.0)           | 2.0       | 1.8        |  |
| うち飼料用       | 61.5    | 63.5             | 64.0                  | 1.0       | 0.8        |  |
| 輸 出 量       | 54.3    | 41.5             | 48.0 (34.0)           | -         | 15.7       |  |
| 輸 入 量       | 1.3     | 1.3              | 1.5 (1.9)             | -         | 15.4       |  |
| 期末在庫量       | 10.0    | 7.8              | 2.8 (4.9)             | -         | ▲ 63.8     |  |
| 期末在庫率       | 7.6%    | 6.2%             | 2.1% (4.1%)           | ▲ 0.03    | ▲ 4.1      |  |
| (参考)        |         |                  |                       |           |            |  |
| 収穫面積 (百万ha) | 22.40   | 21.50            | 22.30 (20.98)         | -         | 3.7        |  |
| 単収 (t/ha)   | 6.12    | 5.67             | 5.70 (5.70)           | -         | 0.5        |  |

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」 (10 December 2024)  
CONAB 「Graos」 (12 December 2024)

図 1 ブラジル産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移 (百万 t, 百万 ha)



資料：USDA 「PS&D」 (2024.12.10) をもとに農林水産省にて作成

図 2 ブラジルのクロープカレンダー (中部から南部)

2024/25 年度の夏とうもろこしの作付けは、2024 年 9 月以降、順次開始。  
冬とうもろこしの作付けは、2025 年 1 月以降、大豆の収穫後に開始。

| 2024/25 年度                   | 2024 年              |    |    |    | 2025 年          |   |   |   |   |                       |   |   |   |
|------------------------------|---------------------|----|----|----|-----------------|---|---|---|---|-----------------------|---|---|---|
|                              | 9                   | 10 | 11 | 12 | 1               | 2 | 3 | 4 | 5 | 6                     | 7 | 8 | 9 |
| 夏とうもろこし<br>(オランダ・ド・スール州等)    | 作付 3.7 (百万 ha)      |    |    |    | 収穫 22.6 (百万 t)  |   |   |   |   | 収穫夏冬作計 119.6 百万 t     |   |   |   |
| 冬とうもろこし<br>(マット・グロッソ州、パラナ州等) | 作付面積夏冬作計 21.0 百万 ha |    |    |    | 作付 17.2 (百万 ha) |   |   |   |   | 収穫 97.0 (百万 t)        |   |   |   |
| 大豆<br>(マット・グロッソ州、パラナ州等)      | 作付 47.4 (百万 ha)     |    |    |    | 収穫 166.2 (百万 t) |   |   |   |   | 大豆収穫後の一部圃場で冬とうもろこし作付け |   |   |   |

資料：CONAB 「Graos」 (2024.12.12) をもとに農林水産省にて作成

## < アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 2.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、前年度より 2.0%増、過去 5 年平均（49.7 百万トン）より 2.6%増の 51.0 百万トンの見込み。病害虫のヨコバイによる被害が生産者の作付け意欲に負の影響を及ぼしているほか、とうもろこし価格の下落により収益が見込める大豆に作付けがシフトすることが見込まれることから収穫面積が減少するものの、前年度に比べ単収が平年並み（凶作年を除く過去 10 年平均 7.94 トン/ヘクタール）に増加すると見込まれることによる。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2024.12.10) によれば、12 月上旬、降雨があり、出芽に好影響を与えているとみられる。アルゼンチン政府によれば、12 月 5 日現在、作付進捗率は 60%と、前年同期（54%）より進んでいる。

USDA によれば、2023/24 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、干ばつにより減産した 2022/23 年度より 35.1%増の 50.0 百万トンの見込み。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、前年度から 6.9%増の 16.3 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて、前年度より 9.1%増の 36.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2024 年 1～10 月の輸出量は 3,019.7 万トンで、2022/23 年度の実績から回復したことを受け、前年同期（2,181.0 万トン）比で 38%増となった。内訳は、ベトナム 603.5 万トン（国別シェア 20.0%）、ペルー 350.7 万トン（同 11.6%）、マレーシア 279.8 万トン（同 9.3%）の順。

昨年 12 月 10 日に右派のミレイ政権が誕生し、同 12 日に経済相は通貨ペソの公式レートを、現行の 1 ドル＝350 ペソから 1 ドル＝800 ペソに引き下げた。また、2021 年 12 月以降、国内向け穀物供給不足の回避と食料品価格の上昇を抑制するため、小麦及びとうもろこしに輸出上限数量を設定していたものの、2024 年 5 月に、市場に対する規制改革の一環として、小麦及びとうもろこしの輸出上限数量の撤廃を決定した。なお、アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、これを継続している。

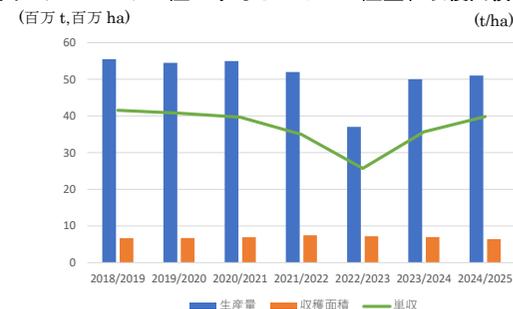
## とうもろこしーアルゼンチン

(単位: 百万トン)

| 年 度        | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25 (25年3月～26年2月) |               |                |
|------------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値、( ) はIGC          | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量        | 37.0    | 50.0             | 51.0 (54.0)           | -             | 2.0            |
| 消費量        | 14.2    | 15.3             | 16.3 (20.5)           | -             | 6.9            |
| うち飼料用      | 10.0    | 11.0             | 12.0 (15.4)           | -             | 9.1            |
| 輸 出 量      | 25.2    | 33.0             | 36.0 (35.0)           | -             | 9.1            |
| 輸 入 量      | 0.0     | 0.0              | 0.0 (0.0)             | -             | ▲ 50.0         |
| 期末在庫量      | 2.3     | 4.1              | 2.8 (1.6)             | -             | ▲ 31.8         |
| 期末在庫率      | 5.9%    | 8.5%             | 5.3% (2.9%)           | -             | ▲ 3.1          |
| (参考)       |         |                  |                       |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 7.20    | 7.00             | 6.40 (7.50)           | -             | ▲ 8.6          |
| 単収(t/ha)   | 5.14    | 7.14             | 7.97 (7.20)           | -             | 11.6           |

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」  
「World Agricultural Production」(10 December 2024)  
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)

図 アルゼンチン産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移



資料: USDA 「PS&D」(2024.12.10) をもとに農林水産省にて作成

写真 北部サンタフェ州のとうもろこしの圃場風景  
(2024 年 11 月 30 日撮影)



当圃場のとうもろこしは 9 月上旬に作付けされ、10、11 月の降雨による生育が進展した。収穫作業は 2 月下旬以降を予定。

撮影者: José Daniel Peloni

## < ウクライナ > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 18.5%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績に基づく単収の引上げを受けて前月予測から 0.3 百万トン上方修正されたものの、前年度より 18.5%減、侵攻前の史上最高の豊作となった 2021/22 年度から 37.1%減の 26.5 百万トンとなる見込み。収益性の高い油糧種子への作付けシフトを受けて収穫面積が減少（対前年度比 2.4%減）するとともに、7 月以降の高温乾燥の継続を受けて豊作の前年度から単収も減少（対前年度比 16.5%減）することにより、減産となる見込み。

ウクライナ農業政策食料省によれば、11 月 28 日現在、収穫進捗率は 96%と、前年同期（85%）より進んでいる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、生産量の引上げにより前月予測から 0.4 百万トン上方修正され、前年度より 4.7%増の 4.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、減産を受け、前年度より 22.0%減の 23.0 百万トンの見込み。

なお、2023/24 年度の輸出量は、前月予測から 0.1 百万トン下方修正されたものの、臨時回廊による輸出が増加していることを受けて前年度より 8.7%増の 29.5 百万トンの見込み。

2024/25 年度のうち 2024 年 10～11 月の輸出量は 447.0 万トンと、前年同期（349.3 万トン）より 28.0%増。輸出先国は、トルコ 108.8 万トン（24.3%）、スペイン 85.1 万トン（19.0%）、イタリア 81.8 万トン（18.3%）の順。輸出手段別では、港湾経由が 423.1 万トン（シェア 94.7%）、鉄道経由が 26.2 万トン（同 5.9%）と港湾経由が主な輸送手段となっている。鉄道輸送については、ウクライナと EU で鉄道の軌間が異なることが輸送のネックとなっているとみられる。

報道情報（2024.12）によれば、ウクライナ鉄道は、2027 年までに、欧州の国際輸送に繋がる一部区画で EU の標準軌となる鉄道の敷設事業を実施する予定。また、ポーランドは、2026 年までに主要港湾のグダンスク港に大規模穀物ターミナルを建設する見込み。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からわずかに上方修正されたものの、減産による供給減から前年度より 59.2%減、侵攻前の 5 か年平均より 74.7%減の 0.6 百万トンの見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前年度から 2.3 ポイント減の 2.3%と、2000/01 年度以降で最低の水準となる見込み。

## とうもろこし-ウクライナ

(単位:百万トン)

| 年 度        | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25 (24年10月～25年9月) |               |                |
|------------|---------|------------------|------------------------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値、( ) はIgc           | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量        | 27.0    | 32.5             | 26.5 (26.0)            | 0.3           | ▲ 18.5         |
| 消費量        | 4.9     | 4.3              | 4.5 (4.7)              | 0.4           | ▲ 4.7          |
| うち飼料用      | 4.0     | 3.3              | 3.5 (3.3)              | 0.4           | ▲ 6.1          |
| 輸出量        | 27.1    | 29.5             | 23.0 (21.6)            | -             | ▲ 22.0         |
| 輸入量        | 0.0     | 0.0              | 0.0 (0.0)              | -             | ▲ 100.0        |
| 期末在庫量      | 2.8     | 1.6              | 0.6 (0.7)              | 0.01          | ▲ 59.2         |
| 期末在庫率      | 8.7%    | 4.7%             | 2.3% (2.6%)            | 0.002         | ▲ 2.3          |
| (参考)       |         |                  |                        |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 4.05    | 4.20             | 4.10 (4.00)            | -             | ▲ 2.4          |
| 単収(t/ha)   | 6.67    | 7.74             | 6.46 (6.50)            | 0.07          | ▲ 16.5         |

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,  
「World Agricultural Production」(10 December 2024)  
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)

図 とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移  
(2024/25 年度の輸出量は、2017/18 年度以来の低水準の見込み)

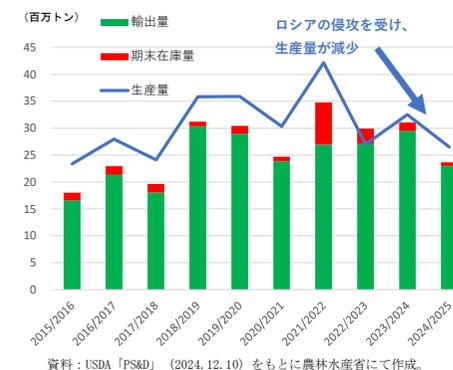


表 ウクライナ産とうもろこしの主な輸出先国

(輸出量: 万 t、シェア: %)

| 2024/25年度<br>(2024年10月～11月) |       |       | 2023/24年度<br>(2023年10月～2024年9月) |         |       | 2022/23年度<br>(2022年10月～2023年9月) |         |       |
|-----------------------------|-------|-------|---------------------------------|---------|-------|---------------------------------|---------|-------|
| 国名                          | 輸出量   | シェア   | 国名                              | 輸出量     | シェア   | 国名                              | 輸出量     | シェア   |
| トルコ                         | 108.8 | 24.3  | スペイン                            | 617.4   | 21.0  | 中国                              | 563.3   | 20.7  |
| スペイン                        | 85.1  | 19.0  | 中国                              | 461.9   | 15.7  | ルーマニア                           | 392.7   | 14.4  |
| イタリア                        | 81.8  | 18.3  | エジプト                            | 361.9   | 12.3  | スペイン                            | 291.6   | 10.7  |
| オランダ                        | 40.9  | 9.1   | オランダ                            | 277.7   | 9.4   | イタリア                            | 236.7   | 8.7   |
| エジプト                        | 26.9  | 6.0   | イタリア                            | 253.0   | 8.6   | エジプト                            | 224.5   | 8.3   |
| その他                         | 103.5 | 23.2  | その他                             | 975.1   | 33.1  | その他                             | 1,012.4 | 37.2  |
| 合計                          | 447.0 | 100.0 | 合計                              | 2,947.0 | 100.0 | 合計                              | 2,721.2 | 100.0 |

資料: APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省にて作成

## < 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 1.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加見込みを受けて、前年度より 1.1%増の 292.0 百万トンとなり、史上最高となる見込み。

中国国家统计局「2024 年糧食生産量データ」(2024.12.13)によれば、2024 年の生産量は前年より 2.1%増の 294.9 百万トンとなる見込み。作付面積が 4,474 万ヘクタールと前年より 1.2%増加し、単収も 6.59 トン/ヘクタールと、前年より 0.9%増加したことによる。なお、一部地域で洪水や干ばつ、台風等の被害を受けたものの、大半では気象条件は良好であり、生育に有利に働いたとみられる。

なお、中国政府は、2024 年、とうもろこしの生産者向け補助金の増額等の生産者支援政策を拡大している。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用需要が増大することから、前年度より 2.0%増の 313.0 百万トンと史上最高の見込み。背景には国内の堅調な食肉需要があり、中国国家统计局 (2024.1.17) によれば、2023 年の食肉生産量は 9,641 万トンと、前年比で 4.5%増。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価格が低迷する中、中国政府は 3 月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始しており、飼料用需要の減少につながるの見方もある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、ブラジル産の輸入減見込みを受けて前月予測から 2.0 百万トン下方修正され、国内のデフレ圧力により国内価格が低下し、輸入意欲が低下するとの見通しを受けて前年度より 40.2%減の 14.0 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～10 月の輸入量は、国内産とうもろこし及び代替品の価格低下等を受けて前年同期比 29.3%減の 1,313.6 万トンの見込み。内訳は、ブラジル 615.5 万トン (46.9%)、ウクライナ 457.6 万トン (34.8%)、米国 205.6 万トン (15.7%) の順。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 10 月号」によると、10 月の国内価格は、2,200 元/トンと、新穀の供給を受けて前月 (2,340 元/トン) から下落した。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸入量の引下げを受けて前月予測から 2.0 百万トン下方修正され、前年度より 3.3%減の 204.3 百万トンの見込み。

## とうもろこし—中国

(単位:百万トン)

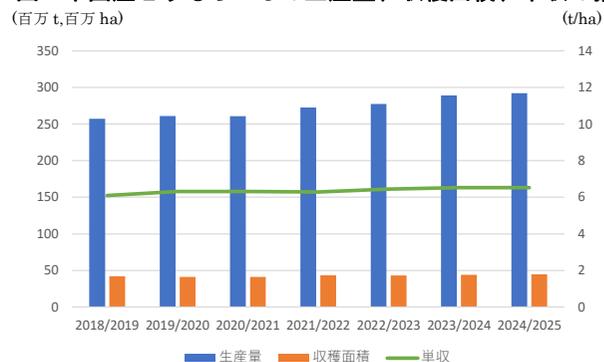
| 年 度   | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25 (24年10月～25年9月) |               |                |
|-------|---------|------------------|------------------------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値、( )はIGC            | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量   | 277.2   | 288.8            | 292.0 (296.0)          | -             | 1.1            |
| 消費量   | 299.0   | 307.0            | 313.0 (315.2)          | -             | 2.0            |
| うち飼料用 | 218.0   | 225.0            | 231.0 (213.0)          | -             | 2.7            |
| 輸 出 量 | 0.0     | 0.0              | 0.0 (0.1)              | -             | -              |
| 輸 入 量 | 18.7    | 23.4             | 14.0 (13.0)            | ▲ 2.0         | ▲ 40.2         |
| 期末在庫量 | 206.0   | 211.3            | 204.3 (176.9)          | ▲ 2.0         | ▲ 3.3          |
| 期末在庫率 | 68.9%   | 68.8%            | 65.3% (56.1%)          | ▲ 0.6         | ▲ 3.6          |

(参考)

|            |       |       |               |   |     |
|------------|-------|-------|---------------|---|-----|
| 収穫面積(百万ha) | 43.07 | 44.22 | 44.70 (44.90) | - | 1.1 |
| 単収(t/ha)   | 6.44  | 6.53  | 6.53 (6.59)   | - | -   |

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,  
「World Agricultural Production」(10 December 2024)  
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)

図 中国産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移



資料: USDA 「PS&D」(2024.12.10) をもとに農林水産省にて作成

表 中国のとうもろこし輸入量と輸入先国

(輸入量: 万トン、シェア: %)

| 2024年 1月～10月 |         |      | 2023年 1月～12月 |         |      | 2022年 1月～12月 |         |      |
|--------------|---------|------|--------------|---------|------|--------------|---------|------|
| 国名           | 輸入量     | シェア  | 国名           | 輸入量     | シェア  | 国名           | 輸入量     | シェア  |
| ブラジル         | 615.5   | 46.9 | ブラジル         | 1,280.6 | 47.2 | 米国           | 1,486.5 | 72.1 |
| ウクライナ        | 457.6   | 34.8 | 米国           | 714.4   | 26.3 | ウクライナ        | 526.4   | 25.5 |
| 米国           | 205.6   | 15.7 | ウクライナ        | 551.8   | 20.3 | ミャンマー        | 19.4    | 0.9  |
| ロシア          | 11.6    | 0.9  | ブルガリア        | 73.9    | 2.7  | ブルガリア        | 14.7    | 0.7  |
| ブルガリア        | 7.6     | 0.6  | ミャンマー        | 38.1    | 1.4  | ロシア          | 9.5     | 0.5  |
| 南アフリカ共和国     | 5.6     | 0.4  | ロシア          | 29.4    | 1.1  | ラオス          | 5.1     | 0.2  |
| その他          | 10.0    | 0.7  | その他          | 24.5    | 0.9  | その他          | 0.2     | 0.0  |
| 計            | 1,313.6 | 100  | 計            | 2,712.7 | 100  | 計            | 2,061.8 | 100  |

資料: 中国海関統計をもとに農林水産省で作成

### 3 コメ

#### (1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDAの見通し> 2024/25年度

**生産量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・フィリピン、ネパール等で下方修正された。前月から下方修正されたものの、史上最高の見込み。

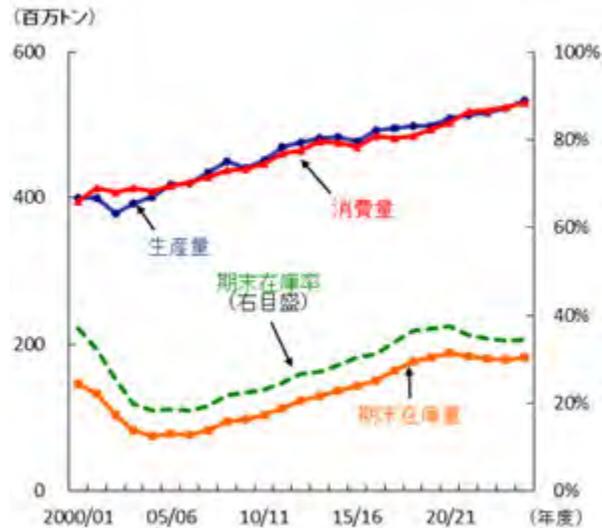
**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・カンボジア、ネパール等で下方修正された。前月から下方修正されたものの、史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ミャンマー等で下方修正されたものの、カンボジア、ベトナム等で上方修正され、前月から上方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2024.12.10)をもとに農林水産省にて作成

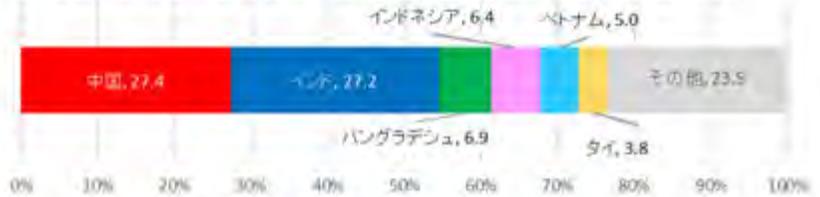
#### ◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

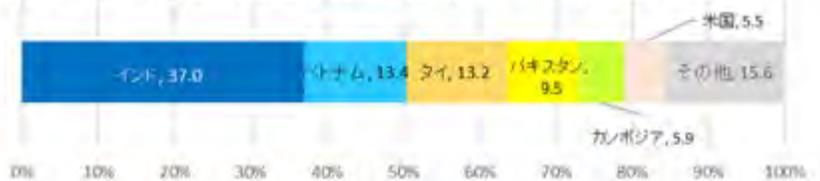
| 年 度   | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25 |               |                |
|-------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値     | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量   | 516.7   | 522.7            | 533.7   | ▲ 0.1         | 2.1            |
| 消費量   | 520.3   | 524.2            | 530.3   | ▲ 0.1         | 1.2            |
| 輸出量   | 55.2    | 56.6             | 58.1    | 1.2           | 2.7            |
| 輸入量   | 57.3    | 52.6             | 54.7    | 0.9           | 4.0            |
| 期末在庫量 | 180.6   | 179.1            | 182.5   | ▲ 0.2         | 1.9            |
| 期末在庫率 | 34.7%   | 34.2%            | 34.4%   | ▲ 0.02        | 0.2            |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 December 2024)

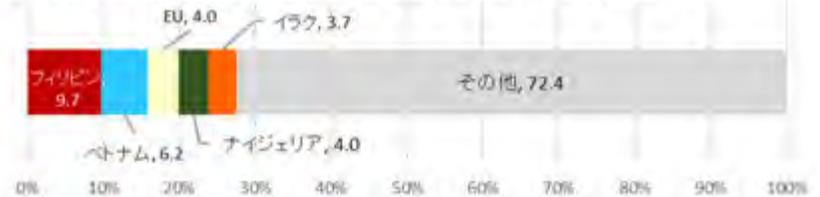
#### ○ 2024/25年度の世界のコメの生産量(533.7百万トン)(単位：%)



#### ○ 2024/25年度の世界のコメの輸出量(58.1百万トン)(単位：%)



#### ○ 2024/25年度の世界のコメの輸入量(54.7百万トン)(単位：%)



## (2) 国別のコメの需給動向

### < タイ > 2024/25年度の生産量は、前年度に比べ0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、20.1百万トンと、前年度に比べ0.5%増加する見込み。

タイ農業協同組合省農業経済局「農業経済」（2024.11）によれば、2024/25年度の雨季米（2024年5月～10月作付け）の生産量は、良好な天候から前年度に比べ0.8%増加の27.0百万トン（粳ベース）の見込み。単収は増加した一方、作付面積は、前年度の995万ヘクタールから994万ヘクタールにわずかに減少する見込み。コメの市場価格が高いことから作付面積を増加させる生産者がいる一方、天候への懸念から乾燥に強いキャッサバや市場価格が高騰しているサトウキビへの作付けのシフトも行われている。11月末、雨季米の収穫進捗率は90%。

2023/24年度の乾季米（2023年11月～2024年4月作付け）の生産量は、作付面積の減少に伴い、前年度比9%減の6.2百万トン（粳ベース）と予測されているが、2024/25年度の生産量は、前年度比26%増の7.9百万トンと予測されている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、フィリピンやベトナムにおける輸入量増の予測を踏まえ、前月予測から0.2百万トン上方修正されたものの、前年度からは23.0%減少し、7.7百万トンの見込み。これはインドネシア政府の調達が前年より減少したことや、インドの輸出規制撤廃等によるものとみられる。2023/24年度（2024年1月～12月）の輸出量は、9月までの販売ペースが予想を上回ったこと、11月にインドネシア向けに0.2百万トンの販売が決まったことを踏まえ、前月予測から0.7百万トン上方修正され10.0百万トンの見込み。2018年以来の高水準となる。

タイ関税局によれば、2024年1～10月の輸出量は、前年同期比21.0%増の840.0万トンとなった。このうち、政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大しているインドネシア向けの輸出量は、前年同期の105.8万トンから6%増加し、111.6万トンと輸出先国の中で最大となった。

同「Rice Outlook」（2024.12.12）によれば、過去1ヵ月間、タイ産米（パーボイルド米及び香り米以外）の輸出価格は、タイバーツ高や東南アジア諸国、アフリカからの強い需要により、ほとんどのグレードで3～4%上昇した。12月10日までの週のタイ産米（長粒、2等精米）の輸出価格は、前月より20ドル/トン上昇し、520ドル/トンとなった。

## コメータイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

(単位:百万精米トン)

| 年 度        | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25 (25年1月～25年12月) |               |                |  |
|------------|---------|------------------|------------------------|---------------|----------------|--|
|            |         |                  | 予測値、()はIGC             | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |  |
| 生産量        | 20.9    | 20.0             | 20.1 (20.1)            | -             | 0.5            |  |
| 消費量        | 12.3    | 12.3             | 12.3 (12.4)            | ▲ 0.1         | -              |  |
| 輸出量        | 8.7     | 10.0             | 7.7 (7.6)              | 0.2           | ▲ 23.0         |  |
| 輸入量        | 0.1     | 0.1              | 0.1 (0.0)              | -             | -              |  |
| 期末在庫量      | 4.4     | 2.2              | 2.4 (3.3)              | ▲ 0.3         | 9.3            |  |
| 期末在庫率      | 20.7%   | 9.6%             | 11.8% (16.6%)          | ▲ 1.6         | 2.1            |  |
| (参考)       |         |                  |                        |               |                |  |
| 収穫面積(百万ha) | 11.07   | 10.65            | 10.70 (10.70)          | -             | 0.5            |  |
| 単収(精t/ha)  | 2.86    | 2.85             | 2.85 (1.88)            | -             | -              |  |

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 December 2024)  
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024) (単収は精米t/ha)

## 写真 中部スパンブリー県 農家の圃場風景

(2024年11月30日撮影)



雨季米の収穫



乾季米の圃場準備

## < 米国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.7%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、7.0 百万トンと、前年度に比べ 0.7%増加し、2020/21 年度以降最大となる見込み。

同「Rice Outlook」(2024.12.12)によれば、種類別の生産量は、長粒種が 5.3 百万トンと前年度より 8%増加するものの、中・短粒種は、南部の生産州及びカリフォルニア州における収穫面積の減少を受け 1.7 百万トンと前年度より 18%減少する見込み。

【貿易情報・その他】同「Rice Outlook」(2024.12.12)によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度に比べ 4.2%増の 1.5 百万トンと史上最高の見込み。

長粒種の輸入量は、前月予測からの変更はなく、引き続きタイ及びインドを中心としたアジア諸国からの香り米の輸入が継続する見込みを受け、前年度に比べ 4.5%増の 1.2 百万トンと史上最高の見込み。中・短粒種の輸入量は、前月予測から変更はなく 0.2 百万トンとなる見込みであり、引き続き中国、タイ、インド、イタリアからの輸入が継続する見込み。このうち、中国からの輸入のほぼ全部が米国領プエルトリコ向けである。

同「Rice Outlook」(2024.12.12)によれば、2024/25 年度の輸出量は、3.2 百万トンと前月予測から変更はないものの、種類別では、長粒種は、輸出先第 1 位のメキシコ向けの輸出が 2.0 百万トン下方修正、中・短粒種は東アジア向けの輸出が 2.0 百万トン上方修正された。なお、輸出余力の増加から、前年度に比べ 1.9%増加し、2016/17 年度以降最高となる見込み。

同「Grain: World Markets and Trade」(2024.12.10)によれば、2019 年にハイチが輸入するコメの 95%を米国が供給していたが、2023 年に米国産長粒種の実生産量の減少による価格の高騰と、同年 1 月のパキスタン・ルピーの切り下げを受けて、ハイチの輸入業者はパキスタンからコメの輸入を開始している。2024 年、米国産シェアは 71%に減少している。

同「Exports Sales Query System」(2024.11)によれば、2023/24 年度(2023 年 8 月～2024 年 7 月)の輸出量は 327.7 万トンで、主な輸出先国は、メキシコ 90.6 万トン(国別シェア 27.7%)、ハイチ 34.5 万トン(同 10.5%)、日本 29.6 万トン(同 9.0%)の順。

2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から変更はなく、前年度に比べ 18.4%増加し、1.5 百万トンの見込み。

## コメー米国

長粒種の実生産量が 75%を占め、中・短粒種の実生産量は 25%、その内カリフォルニア州での栽培が 20%

| 年 度   | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25 (24年 8 月～25年 7 月) |               |                |
|-------|---------|------------------|---------------------------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値                       | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量   | 5.1     | 6.9              | 7.0                       | -             | 0.7            |
| 消費量   | 4.6     | 4.9              | 5.1                       | -             | 2.2            |
| 輸出量   | 2.1     | 3.1              | 3.2                       | -             | 1.9            |
| 輸入量   | 1.3     | 1.4              | 1.5                       | -             | 4.2            |
| 期末在庫量 | 1.0     | 1.3              | 1.5                       | -             | 18.4           |
| 期末在庫率 | 14.4%   | 15.5%            | 18.0%                     | -             | 2.5            |

(単位:百万精米トン)

| (参考)       |      |      |      |   |       |
|------------|------|------|------|---|-------|
| 収穫面積(百万ha) | 0.88 | 1.16 | 1.17 | - | 0.9   |
| 単収(穀t/ha)  | 8.28 | 8.57 | 8.51 | - | ▲ 0.7 |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 December 2024)

図 米国の長粒種と中・短粒種の実生産量・輸出価格の推移



資料:USDA「Rice Outlook」(2024.12.12)をもとに農林水産省で作成。  
価格は年度内の平均価格

## < 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 1.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、146.0 百万トンと、収穫面積の増加（前年度比 0.2%増）及び史上最高の単収（前年度比 0.7%増）から、前年度に比べ 1.0%増の見込み。政府の最低支持価格の上昇を受け、収穫面積はわずかに増加する見込み。

中国国家统计局「2024 年糧食生産量データ」（2024.12.13）によれば、2024 年の生産量は、207.5 百万トン（粳ベース）と、作付面積（前年度比 0.2%増）及び単収の増加（同 0.3%増）から、前年度に比べ 0.5%増の見込み。

全国農業気象月報（2024.12.5）によれば、華南地区西部（福建省、広東省）では、晩稲の生育状況は、日照及び気温条件は良好だったが、収穫期に台風 22 号「銀杏（インシン）」等に見舞われ、収穫作業に悪影響を与えた。なお、収穫作業はほぼ終了している。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から変更はなく 145.7 百万トン。飼料用需要が比較的安価なとうもろこしへシフトすることや、高齢化の進展、若年層の食生活の西洋化等に伴い食用需要が減少することから、前年度比で 1.6%減少する見込み。なお、消費量は 2021/22 年度に史上最高の 156.4 百万トンに達したのち、3 年連続で減少している。

2024/25 年度の輸入量は、世界のコメ価格の下落を受けベトナム、ミャンマー、パキスタン、タイ、カンボジアといった伝統的なインディカ米の供給国からの輸入が増加するとの予測から、前年度比 11.1%増の 1.7 百万トンの見込み。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 10 月号」によれば、10 月のコメ輸入量は、国際的なコメ価格の下落により、中国国内外の価格差が縮小したことを受け、前月に比べ 3.11 万トン増加し、11.57 万トン（前月比 36.81%増）。

中国海関統計によれば、2024 年 1～10 月の輸入量は 107.9 万トン（前年同期 52%減）。

USDA によれば、「一帯一路」政策の賛同国を拡大する目的から、同政策の関係国に対しコメの輸出促進を図っているものの、軟調な需要に基づく輸出が継続すると予測されることから、2024/25 年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度比 38.7%減の 1.0 百万トンの見込み。2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から変更はなく 104.0 百万トンと、前年度に比べ 1.0%増の見込み。

## コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

| 年度    | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25 (24年7月～25年6月) |           |            |  |
|-------|---------|------------------|-----------------------|-----------|------------|--|
|       |         |                  | 予測値、()はIGC            | 前月予測からの変更 | 対前年度増減率(%) |  |
| 生産量   | 146.0   | 144.6            | 146.0 (145.0)         | -         | 1.0        |  |
| 消費量   | 155.0   | 148.1            | 145.7 (145.2)         | -         | ▲ 1.6      |  |
| 輸出量   | 1.7     | 1.6              | 1.0 (1.6)             | -         | ▲ 38.7     |  |
| 輸入量   | 4.4     | 1.5              | 1.7 (2.4)             | -         | 11.1       |  |
| 期末在庫量 | 106.6   | 103.0            | 104.0 (102.1)         | -         | 1.0        |  |
| 期末在庫率 | 68.0%   | 68.8%            | 70.9% (69.5%)         | -         | 2.1        |  |

(参考)  
 収穫面積(百万ha) 29.45 28.95 29.00 (29.00) - 0.2  
 単収(粳t/ha) 7.08 7.14 7.19 (5.00) - 0.7  
 資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
 「World Agricultural Production」(10 December 2024)、  
 IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024) (単収は精米t/ha)

図 中国の生産量、収穫面積、単収の推移 (2004/05～2024/25 年度)



資料: USDA 「PS&D」(2024. 12. 10)をもとに農林水産省にて作成

## < インド > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 5.2%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測から変更はなく、145.0 百万トンと、前年度比で 5.2%増加、過去 5 年平均（129.2 百万トン）と比べ 12.3%増加し、史上最高の見込み。収穫面積は、前月予測から変更はなく、50.0 百万ヘクタールと前年度に比べ 4.5%増加し史上最高となる見込み。単収も、4.35 トン/ヘクタールと、前年度（4.32 トン/ヘクタール）と比べ 0.7%増と史上最高となる見込み。

インド政府（2024.9.30）によると、綿花に比べて単収が高く、投入コストが低いコメに作付けがシフトしており、カリフ米の作付面積は前年度から 2.5%増加し 41.45 百万ヘクタールとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から変更はなく、121.0 百万トン。旺盛な国内需要から前年度比 4.0%増となる見込み。

なお、国民の食料安全保障を確保するためにインド政府による公的食料配給制度が継続しており、より多くのコメが供給される見込み。政府は公的食料配給制度により市場からコメ等を調達し、低所得世帯（8.14 億人以上）に無償又は低価格で配給している。

USDAによれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、インド政府の輸出規制撤廃等を受け、前年度比 49.0%増の 21.5 百万トンの見込み。依然として世界第 1 位の輸出シェアを維持し、世界全体のコメ輸出総量の約 37%を占める。

2023/ 24 年度の輸出量は、前月予測から変更はなく 14.4 百万トンと、前年度比 29.1%減。

インド輸出入統計によれば、2023 年 10 月から 2024 年 9 月までの輸出量は 14.5 百万トンで、主な輸出先国は、サウジアラビア 136.7 万トン（国別シェア 9.4%）、ベナン 125.0 万トン（同 8.6%）、イラク 90.2 万トン（同 6.2%）の順。サウジアラビア等の中東諸国向けはバスマティ米の輸出が主である。

インド政府は、2022 年 9 月 9 日以降、非バスマティ米を中心に、様々な輸出規制を発動・強化してきたが、国内における史上最高の増産予測及び農家・輸出者からの要請を受け、2024 年 9 月 14 日に、2023 年 8 月 27 日より導入したバスマティ米の最低輸出価格の撤廃を発表した。また、9 月 27 日には、粳米、玄米、パーボイルド米の輸出関税を 20%から 10%への引き下げを発表。更に、9 月 28 日には、昨年 7 月から禁止していた非バスマティ米の輸出禁止措置を撤廃し、最低輸出価格を導入したものの、10 月 23 日に撤廃を発表した。インド食品公社（Food Cooperation India）によれば、10 月時点での期末在庫量は、31.06 百万トン（精米）と前年に比べ 40%増の見込み。

## コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

| 年 度        | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25 (24年10月～25年9月) |               |                |  |
|------------|---------|------------------|------------------------|---------------|----------------|--|
|            |         |                  | 予 測 値、( )はIGC          | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |  |
| 生 産 量      | 135.8   | 137.8            | 145.0 (144.5)          | -             | 5.2            |  |
| 消 費 量      | 114.5   | 116.4            | 121.0 (121.0)          | -             | 4.0            |  |
| 輸 出 量      | 20.3    | 14.4             | 21.5 (21.1)            | -             | 49.0           |  |
| 輸 入 量      | 0.0     | 0.0              | 0.0 (0.0)              | -             | -              |  |
| 期末在庫量      | 35.0    | 42.0             | 44.5 (44.1)            | -             | 6.0            |  |
| 期末在庫率      | 26.0%   | 32.1%            | 31.2% (31.0%)          | -             | ▲ 0.9          |  |
| (参考)       |         |                  |                        |               |                |  |
| 収穫面積(百万ha) | 47.83   | 47.83            | 50.00 (50.00)          | -             | 4.5            |  |
| 単収(粳t/ha)  | 4.26    | 4.32             | 4.35 (2.89)            | -             | 0.7            |  |

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 December 2024)  
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024) (単収は精米t/ha)

表 インドのコメ輸出規制(2024 年 10 月 23 日時点)

| 対象品目                               | 措置内容                             |
|------------------------------------|----------------------------------|
| 全ての種類のコメの粳 (HS 1006 10)            | 輸出関税 (10%)                       |
| 全ての種類のコメの玄米 (HS 1006 20)           | 輸出関税 (10%)                       |
| バスマティ米・精米 (HS1006 30 20)           | 輸出関税：12,000ルピー/t<br>(日本円で約2万円/t) |
| パーボイルド米・精米 (HS1006 30 10)          | 輸出関税 (10%)                       |
| バスマティ米・パーボイルド米以外の精米 (HS1006 30 90) | 輸出再開                             |
| 碎米 (HS1006 40 00)                  | 輸出禁止                             |

※食料安全保障上の理由でインド政府が認める場合は輸出を許可  
※有機米は本措置の対象外  
資料：インド政府の公示等をもとに農林水産省にて作成

## < ベトナム > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.8%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、26.5 百万トンと、前年度を 0.8%上回る見込み。2016/17 年度以降、南部沿岸地域における海水の浸潤やメコン川の水流量減少、肥料価格の高騰、高収益作物等（果物・野菜・養殖）へのシフト等から、作付面積は減少傾向にあったが、2024/25 年度の収穫面積は 6.95 百万ヘクタールと昨年に比べ 0.7%増。2023/24 年度の実産量は、前月予測から変更はなく、26.3 百万トンと前年度に比べ 0.8 百万トン減少する見込み。

アセアン食料安全保障情報システム（2024.11）によると、紅河デルタ地域（北部）では、0.99 百万ヘクタールのうち 0.76 百万ヘクタールの夏秋作（雨季米）が収穫期を迎えている。単収は 5.36 トン/ヘクタールと、台風 11 号「ヤギ」の影響で、昨年に比べ 1.9%減少する見込み。メコンデルタ地域（南部）では、秋冬作（雨季米）が収穫段階にあり、総収穫面積は 0.49 百万ヘクタールで、温暖な天候と灌漑整備の良さから、単収は、昨年より 3.3%増の 5.8 トン/ヘクタールの見込み。

ベトナム総統計局（2024.12.12）によると、11 月 20 日時点で早期雨季作（ムア米）は、1.4 百万ヘクタールで収穫が行われ、作付面積の 90.7%が完了し、前年同期（95.7%）を下回っている。台風 11 号「ヤギ」の影響で、収穫作業に支障が出たため。

【貿易情報・その他】USDA「Rice Outlook」（2024.12.12）によれば、2024/25 年度の輸入量は、カンボジアからの輸入が予測を上回ったことから、前月予測より 0.3 百万トン上方修正され、3.4 百万トンとなる見込み。ベトナムのコメ輸入の大部分をカンボジアが占めており、カンボジアで精米されたほとんどがベトナム向けに出荷されている。また、残りについてはインドから輸入している。

USDAによれば、2024/25 年度の輸出量は、引き続きフィリピンへの輸出の増加が見込まれることから、前月予測から 0.5 百万トン上方修正された。一方、世界第 1 位のコメ輸出国であるインドが非バスマティ米の輸出規制撤廃等をしたことにより、同国との競争激化が予想され、前年度に比べ 13.3%減少し、7.8 百万トンとなる見込み。ベトナム税関総局によれば、2024 年 1～11 月の輸出量は 8.5 百万トンと、前年同期（7.6 百万トン）に比べ 10.6%増加。主な輸出先国は、フィリピン 4.0 百万トン（国別シェア 47.4%）、インドネシア 1.1 百万トン（同 13.4%）、マレーシア 0.7 百万トン（同 8.3%）、ガーナ 0.6 百万トン（同 6.8%）の順。

## コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位：百万精米トン)

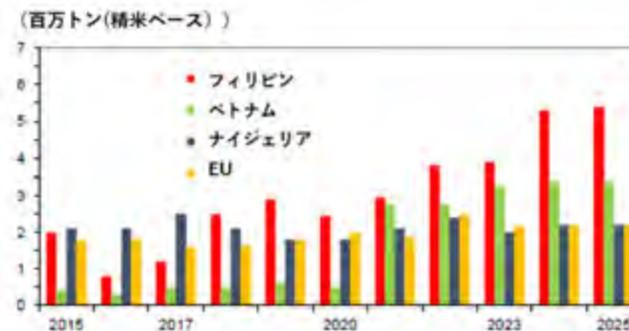
| 年 度   | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25 (25年 1月～25年12月) |               |                |
|-------|---------|------------------|-------------------------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値、()はIGC              | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量   | 27.1    | 26.3             | 26.5 (28.6)             | -             | 0.8            |
| 消費量   | 22.4    | 22.4             | 22.3 (22.7)             | -             | ▲ 0.3          |
| 輸出量   | 8.2     | 9.0              | 7.8 (7.3)               | 0.5           | ▲ 13.3         |
| 輸入量   | 3.3     | 3.4              | 3.4 (2.2)               | 0.3           | -              |
| 期末在庫量 | 3.4     | 1.7              | 1.5 (3.1)               | -             | ▲ 13.2         |
| 期末在庫率 | 11.0%   | 5.3%             | 4.8% (10.2%)            | ▲ 0.1         | ▲ 0.5          |

(参考)

|            |      |      |             |   |     |
|------------|------|------|-------------|---|-----|
| 収穫面積(百万ha) | 7.12 | 6.90 | 6.95 (7.12) | - | 0.7 |
| 単収(概t/ha)  | 6.10 | 6.10 | 6.10 (4.02) | - | -   |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 December 2024)、  
IGC「Grain Market Report」(21 November 2024) (単収は精米t/ha)

図 世界における主要コメ輸入国（ベトナムは、フィリピンに次ぐ世界第 2 位のコメ輸入国）



資料 USDA「Rice Outlook」(2024.12.12)より

## II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要 (詳細は右表を参照)

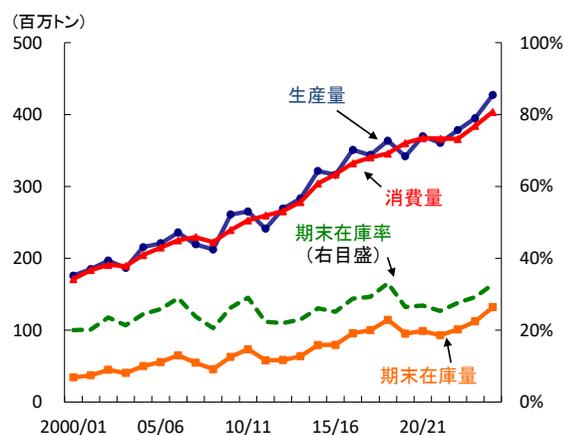
<USDAの見通し> 2024/25年度

**生産量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑  
 ・アルゼンチン、ボリビア、カナダ等で上方修正され、前月予測から上方修正された。史上最高の見込み。

**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑  
 ・アルゼンチン、ボリビア、アルジェリア等で上方修正され、前月予測から上方修正された。史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑  
 ・カナダ、ボリビア等で上方修正され、前月予測から上方修正された。史上最高の見込み。

**期末在庫量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」(2024.12.10)をもとに農林水産省で作成

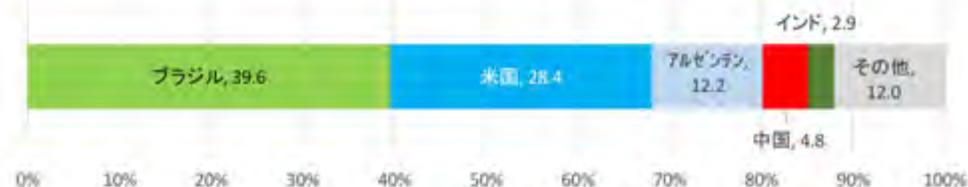
## ◎世界の大豆需給

(単位：百万トン)

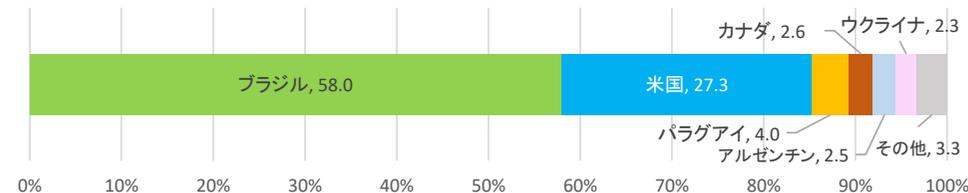
| 年度    | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25 |               |                |
|-------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値     | 前月予測からの<br>変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量   | 378.2   | 394.9            | 427.1   | 1.7           | 8.2            |
| 消費量   | 366.1   | 384.0            | 403.6   | 1.4           | 5.1            |
| うち搾油用 | 315.0   | 330.9            | 347.4   | 1.3           | 5.0            |
| 輸出量   | 171.8   | 177.5            | 182.0   | 0.3           | 2.5            |
| 輸入量   | 167.9   | 177.7            | 178.2   | 0.3           | 0.3            |
| 期末在庫量 | 101.1   | 112.2            | 131.9   | 0.1           | 17.6           |
| 期末在庫率 | 27.6%   | 29.2%            | 32.7%   | ▲ 0.1         | 3.5            |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 December 2024)

○ 2024/25年度の世界の大豆の生産量(427.1百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界の大豆の輸出量(182.0百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界の大豆の輸入量(178.2百万トン)(単位：%)



## (2) 国別の大豆の需給動向

### < 米国 > 2024/25 年度の生産量は前年度から 7.2%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加を受け、前年度より 7.2%増の 121.4 百万トンと史上 2 番目の見通し。作付け時の大豆価格が、前年度に史上最高の豊作となり価格が下落したとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、大豆油等の需要増による搾油の収益改善の見通しから、前年度より 4.7%増の 68.7 百万トンで史上最高の見込み。

USDA 「Oil Crops Outlook」(2024.12.12) によれば、パーム油の価格高騰により相対的に大豆油の価格競争力が高まっており、2024/25 年度の実大豆油の輸出量は前年度より 78.2% (0.2 百万トン) 増の 0.5 百万トンの見込み。2023/24 年度の実米国バイオマス燃料生産向けの実大豆油の消費量も前年度より 4.0% (0.2 百万トン) 増の 5.9 百万トンの見込み。豊作となった大豆の供給を受けて大豆及び大豆粕の価格が低下する一方、大豆油の価格は横ばいであり、搾油における大豆油の収益の重要性が増しているとみられる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の搾油用需要が増加する見通しから、前年度より 7.7%増の 49.7 百万トンの見込み。

USDA 「Oilseeds: World Markets and Trade」(2024.12.10) によれば、米国の大豆価格は、12 月 4 日現在、新穀の収穫進展を受けて前月から 18 ドル/トン下落し 396 ドル/トンと、新穀の収穫前で供給量が減少するブラジル産 (406 ドル/トン) 及びアルゼンチン産 (409 ドル/トン) を下回っている。なお、USDA によれば、2024 年 9~11 月の輸出量は 2,179.3 万トンと、世界的な大豆需要の増加を受けて前年同期の 1,854.3 万トンより 18%増。内訳は中国 1,270.6 万トン (国別シェア 58.3%)、メキシコ 144.3 万トン (同 6.6%)、イタリア 113.0 万トン (同 5.2%) の順となっている。

USDA によれば、2024/25 年度の実期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて前年度より 37.5%増の 12.8 百万トンとなる見込み。期末在庫率は 10.8%と、過去 5 年平均 (8.0%) を上回り、2019/20 年度以来 5 年ぶりに 10%台まで回復する見通し。

## 大豆—米国

(単位: 百万トン)

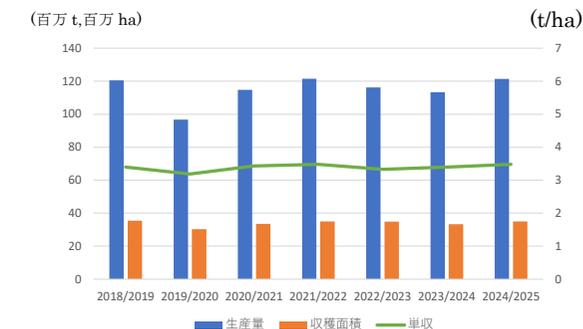
| 年度    | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25 (24年9月~25年8月) |               |                |
|-------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値                   | 前月予測からの<br>変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量   | 116.2   | 113.3            | 121.4                 | -             | 7.2            |
| 消費量   | 63.3    | 65.6             | 68.7                  | -             | 4.7            |
| うち搾油用 | 60.2    | 62.2             | 65.6                  | -             | 5.4            |
| 輸出量   | 53.9    | 46.1             | 49.7                  | -             | 7.7            |
| 輸入量   | 0.7     | 0.6              | 0.4                   | -             | ▲ 28.1         |
| 期末在庫量 | 7.2     | 9.3              | 12.8                  | -             | 37.5           |
| 期末在庫率 | 6.1%    | 8.3%             | 10.8%                 | -             | 2.5            |

(参考)

|            |       |       |       |   |     |
|------------|-------|-------|-------|---|-----|
| 収穫面積(百万ha) | 34.87 | 33.29 | 34.91 | - | 4.9 |
| 単収(t/ha)   | 3.33  | 3.40  | 3.48  | - | 2.4 |

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,  
「World Agricultural Production」(10 December 2024)

### 図1 米国産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移



資料: USDA 「PS&D」(2024.12.10) をもとに農林水産省にて作成

### 図2 米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格 (FOB) の推移



資料: IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

## < ブラジル > 2024/25 年度の生産量は前年度から 10.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が史上最高となる見込みを受け、前年度より 10.5%増の 169.0 百万トンと史上最高の見通し。

CONAB の月例報告 (2024.12.12) によれば、2024/25 年度の実生産量は、とうもろこしから収益性が高い大豆に作付けがシフトすること等による作付面積の増加を受けて前年度より 12.5%増の 166.2 百万トンの見通し。12 月上旬時点の作付進捗率は 90%と、11 月に作付作業が大きく進展し、前年同期の 83%を上回っている。12 月 1 日 1 月上旬、主要生産州のマット・グロッソ州において、作付作業はほぼ完了。温暖で降雨があり、作付や発芽に有利に働いたとみられる。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2024.12.10) によれば、12 月上旬、降雨があり、大豆の生育に好影響を与えているとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の前年度から搾油用需要が減少することを受けて前年度より 0.8%減の 58.1 百万トンとなるも、過去 5 年平均 (53.9 百万トン) より 7.8%増と引き続き高水準を維持する見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、中国からの引き続き堅調な需要等により、前年度から 1.3%増の 105.5 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1～11 月の輸出量は 96.8 百万トンで、前年同期 (98.0 百万トン) に比べ 1.2%減となるも、中国向け輸出は引き続き堅調に推移している。輸出先は、中国 71.1 百万トン (国別シェア 73.4%)、スペイン 4.2 百万トン (同 4.3%)、タイ 3.2 百万トン (同 3.3%) の順。

報道情報 (2024.12.9) によれば、12 月上旬、アマゾン川南部の 2 つの主要な支流 (タパジヨス川、マデイラ川) において、降雨による水位の回復を受けて、数カ月間停止されていたはしけへの穀物等の積み込み作業が再開された。ブラジルでは、従来からの主要な穀物輸送手段であるトラック輸送に加え、近年では鉄道輸送網が整備されており、2023 年 6 月、北部マラニョン州イタキ港と南部サンパウロ州サントス港を結ぶ南北鉄道が開通した。アマゾン川の水運も主要な輸送手段の一つとなっているものの、商社等の情報によれば、アマゾン川経由での北部港からの輸出は主に EU、エジプト向けのため、アマゾン川の水位低下による我が国向け輸出への影響は小さいとみられる。

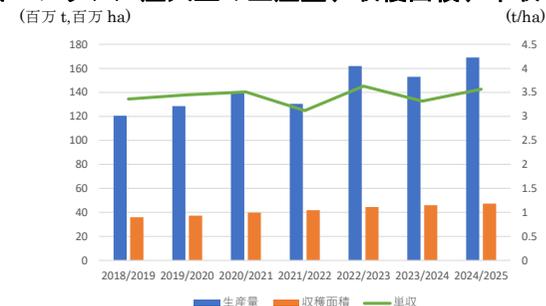
## 大豆—ブラジル

(単位:百万トン)

| 年 度        | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25 (24年10月～25年9月) |               |                |
|------------|---------|------------------|------------------------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値、( ) はCONAB         | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量        | 162.0   | 153.0            | 169.0 (166.2)          | -             | 10.5           |
| 消費量        | 57.2    | 58.6             | 58.1 (60.2)            | -             | ▲ 0.8          |
| うち搾油用      | 53.4    | 54.7             | 54.0                   | -             | ▲ 1.3          |
| 輸 出 量      | 95.5    | 104.2            | 105.5 (105.5)          | -             | 1.3            |
| 輸 入 量      | 0.2     | 0.9              | 0.2 (0.5)              | -             | ▲ 82.8         |
| 期末在庫量      | 36.8    | 28.0             | 33.5 (3.0)             | 0.01          | 19.8           |
| 期末在庫率      | 24.1%   | 17.2%            | 20.5% (1.8%)           | 0.01          | 3.3            |
| (参考)       |         |                  |                        |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 44.60   | 46.10            | 47.30 (47.37)          | -             | 2.6            |
| 単収(t/ha)   | 3.63    | 3.32             | 3.57 (3.51)            | -             | 7.5            |

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 December 2024)  
CONAB 「Graos」(12 December 2024)

## 図 ブラジル産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移



資料: USDA 「PS&D」(2024.12.10) をもとに農林水産省にて作成

## 写真 中西部マット・グロッソ州の大豆の圃場風景 (2024 年 12 月 1 日撮影)



当圃場の作付作業は 10 月 6 日に行われ、現在の生育ステージは開花期～乳熟期にある。作柄は良く、雑草・病害虫の防除は適切に行われている。

撮影者: Rafael Rohenkohl

## < カナダ > 2024/25 年度の生産量は前年度から 8.4%増加する見込み (AAFC)

【生育・生産状況】AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2024.12.19)によれば、2024/25 年度の生産量は、カナダ統計局による穀物生産に係る農家調査結果を受けて前月予測から 0.4 百万トン上方修正され、前年度 (7.0 百万トン) から 8.4%増の 7.6 百万トンの見込み。

カナダ統計局「Production of principal field crops, November 2024」(2024.12.5)によれば、州別には、米国コーンベルトに隣接する最大生産州オンタリオ州の生産量は、前年度に比べ 7.9%増の 4.4 百万トンの見込み。とうもろこし等の他作物より価格が有利な大豆の作付けを増加させたため収穫面積が増加する (対前年度比 7.0%増) ことが主な要因とみられる。隣接するマニトバ州、ケベック州でも生産されており、マニトバ州では、収穫面積は減少 (同 10.9%減) したものの、生育後期の良好な生育条件から単収が大きく増加 (同 21.5%増) したことを受け前年度より 8.3%増の 1.7 百万トン、ケベック州では収穫面積 (同 3.4%増)、単収 (同 5.8%増) とともに増加し、前年度より 9.3%増の 1.4 百万トンの見込み。ケベック州西部においても平年以上の降雨と夏の温暖な気候を受けて単収が向上したとみられる。

【需要状況】AAFCによれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用等の需要の増加により前年度 (2.2 百万トン) から 11.4%増の 2.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、2024/25 年度の輸出量は、生産量の引上げを受けて前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、供給増を受けて前年度 (4.9 百万トン) より 12.3%増の 5.5 百万トンと史上 2 番目の高水準となる見込み。

カナダ穀物委員会によれば、2024/25 年度 (2024 年 8～10 月) の輸出量は 89.8 万トンで、前年同期 (61.9 万トン) を上回っている。国別では、中国 17.9 万トン (19.9%)、アルジェリア 12.1 万トン (13.5%)、バングラデシュ 11.6 万トン (12.9%) の順となっている。

なお、カナダ産大豆は、主産地がカナダ東部であるものの、通常日本向けは鉄道を利用して太平洋岸のバンクーバーを経由して輸出されるルートとなっている。

AAFCによれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて前年度から 6.6%増の 0.6 百万トンの見込み。

## 大豆－カナダ

(単位: 百万トン)

| 年 度   | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25 (24年8月～25年7月) |               |                |
|-------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値、○はAAFC            | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量   | 6.5     | 7.0              | 7.6 (7.6)             | 0.4           | 8.4            |
| 消費量   | 2.7     | 2.3              | 2.9 (2.5)             | -             | 25.1           |
| うち搾油用 | 1.8     | 1.7              | 1.8 (1.9)             | -             | 5.9            |
| 輸出量   | 4.2     | 4.8              | 4.8 (5.5)             | 0.2           | ▲ 0.9          |
| 輸入量   | 0.5     | 0.3              | 0.4 (0.5)             | -             | 4.5            |
| 期末在庫量 | 0.4     | 0.6              | 0.8 (0.6)             | 0.2           | 47.6           |
| 期末在庫率 | 5.3%    | 7.9%             | 10.9% (7.5%)          | 2.0           | 3.0            |

(参考)

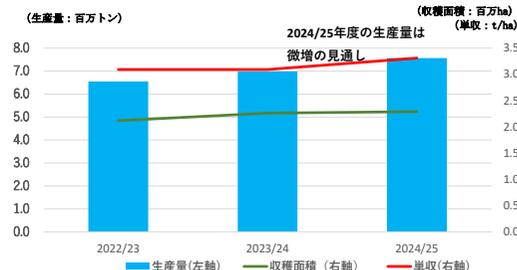
|            |      |      |             |        |     |
|------------|------|------|-------------|--------|-----|
| 収穫面積(百万ha) | 2.12 | 2.26 | 2.29 (2.29) | ▲ 0.01 | 1.3 |
| 単収(t/ha)   | 3.09 | 3.09 | 3.30 (3.31) | 0.17   | 6.8 |

資料: USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(10 December 2024)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(19 December 2024)

### 図 カナダの直近3か年の生産量等の推移



資料: AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2024.12.19) をもとに農林水産省にて作成

### 表 カナダ産大豆の輸出量と輸出先国

(輸出量: 万 t、シェア: %)

| 2024年 8月～10月 |      | 2023/24年度<br>(2023年 8月～2024年 7月) |        |       |       |
|--------------|------|----------------------------------|--------|-------|-------|
| 国名           | 輸出量  | シェア                              | 国名     | 輸出量   | シェア   |
| 中国           | 17.9 | 19.9                             | 中国     | 143.9 | 41.4  |
| アルジェリア       | 12.1 | 13.5                             | アルジェリア | 62.6  | 18.0  |
| バングラデシュ      | 11.6 | 12.9                             | イラン    | 54.6  | 15.7  |
| イタリア         | 11.2 | 12.5                             | オランダ   | 18.5  | 5.3   |
| その他          | 37.0 | 41.2                             | その他    | 67.9  | 19.5  |
| 計            | 89.8 | 100.0                            | 計      | 347.5 | 100.0 |

資料: カナダ穀物委員会のデータをもとに農林水産省にて作成

## < 中国 > 2024/25 年度の生産量は、史上最高の前年度から 0.7%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 0.7%減の 20.7 百万トンとなるも、史上 2 番目に高い見込み。

中国国家统计局「2024 年糧食生産量データ」(2024.12.13) によれば、2024 年の生産量は、前年から 0.9%減の 20.7 百万トンとなる見込み。単収は 2.00 トン/ヘクタールと前年から 0.5%増加したものの、作付面積は 10.34 百万ヘクタールと前年より 1.4%減少することによる。

中国政府は、2024 年、大豆生産の安定化に向け、大豆生産者への補助金の増額等の政策による生産者支援を拡大している。一部地域で洪水や干ばつ等の被害を受けたものの、大半で気象条件は良好であり、生育に有利に働いたとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、国内の畜産物の需要増を受けて大豆粕の需要が増加することから、前年度より 4.2%増の 126.9 百万トンと史上最高の見込み。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価格が低迷する中、中国政府は 3 月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始しており、飼料用需要の減少につながるの見方もある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の前年度より 2.7%減の 109.0 百万トンとなるも、引き続き高水準を維持する見込み。

USDA によれば、2023/24 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 7.2%増の 112.0 百万トンとなる見込み。なお、中国海関統計によれば、2024 年 1～10 月の輸入量は、前年同期より 11.2%増の 8,994.0 万トン。内訳は、ブラジル 6,777.4 万トン (75.4%)、米国 1,508.8 万トン (16.8%)、アルゼンチン 359.5 万トン (4.0%) の順。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 10 月号」によると、10 月の輸入価格 (山東省の輸入大豆価格) は、前月 (3,880 元/トン) から小幅に下落し、3,820 元/トン。10 月の国内価格は、新穀の供給を受け、4,380 元/トンと前月 (5,100 元/トン) から下落した。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、生産量と輸入量の合計が消費量を上回っていることを受けて、前年度より 6.2%増の 46.0 百万トンと史上最高の見込み。

## 大豆—中国

(単位:百万トン)

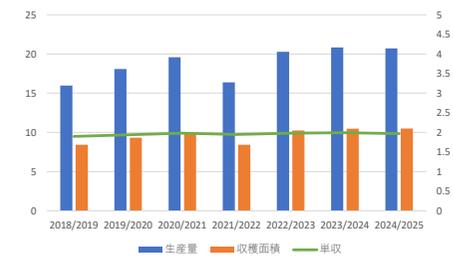
| 年 度        | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25 (24年10月～25年9月) |               |                |
|------------|---------|------------------|------------------------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値、()はIGC             | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量        | 20.3    | 20.8             | 20.7 (20.1)            | -             | ▲ 0.7          |
| 消費量        | 117.5   | 121.8            | 126.9 (127.8)          | -             | ▲ 4.2          |
| うち搾油用      | 96.0    | 99.0             | 103.0 (105.8)          | -             | ▲ 4.0          |
| 輸出量        | 0.1     | 0.1              | 0.1 (0.1)              | -             | ▲ 42.9         |
| 輸入量        | 104.5   | 112.0            | 109.0 (108.5)          | -             | ▲ 2.7          |
| 期末在庫量      | 32.3    | 43.3             | 46.0 (46.9)            | -             | ▲ 6.2          |
| 期末在庫率      | 27.5%   | 35.5%            | 36.2% (36.7%)          | -             | ▲ 0.7          |
| (参考)       |         |                  |                        |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 10.24   | 10.47            | 10.50 (10.16)          | -             | ▲ 0.3          |
| 単収(t/ha)   | 1.98    | 1.99             | 1.97 (1.97)            | -             | ▲ 1.0          |

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 December 2024)  
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)

## 図 中国産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移

(百万 t,百万 ha)

(t/ha)



資料: USDA 「PS&D」(2024.12.10) をもとに農林水産省にて作成

## 表 中国の大豆輸入量と輸入先国

(輸入量: 万トン、シェア: %)

| 2024年 1月～10月 |         |       | 2023年 1月～12月 |         |       |
|--------------|---------|-------|--------------|---------|-------|
| 国名           | 輸入量     | シェア   | 国名           | 輸入量     | シェア   |
| ブラジル         | 6,777.4 | 75.4  | ブラジル         | 6,993.0 | 70.7  |
| 米国           | 1,508.8 | 16.8  | 米国           | 2,374.3 | 24.0  |
| アルゼンチン       | 359.5   | 4.0   | アルゼンチン       | 199.2   | 2.0   |
| ウルグアイ        | 105.3   | 1.2   | カナダ          | 146.6   | 1.5   |
| カナダ          | 100.3   | 1.1   | ロシア          | 129.3   | 1.3   |
| ウクライナ        | 61.5    | 0.7   | 南アフリカ        | 14.7    | 0.1   |
| その他          | 81.1    | 0.8   | その他          | 38.6    | 0.4   |
| 計            | 8,994.0 | 100.0 | 計            | 9,895.7 | 100.0 |

資料: 中国海関統計をもとに農林水産省で作成

## < アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 7.9%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、収穫面積の引上げを受けて前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、前年度から 7.9%増の 52.0 百万トンの見込み。増産の主な要因は、大豆の収益性が高まっていることに加え、農家が病害虫のヨコバイによる被害懸念からとうもろこしの作付けを減少させ、大豆に作付けをシフトさせることによる。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2024.12.10) によれば、12 月上旬、降雨があり、生育に好影響を与えたとみられる。12 月 5 日現在、作付進捗率は 54%と、前年同期 (55%) を下回っている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、搾油用消費の引上げを受けて前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、増産に伴い搾油量が増加することから、前年度比 11.0%増の 48.6 百万トンの見込み。なお、アルゼンチンは、丸大豆の搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、世界有数の大豆油及び大豆粕の輸出国である。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内生産量の増加に伴い輸入需要が減少することから、前年度より 23.0%減の 6.0 百万トンの見込み。

2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の供給量の引上げによる競争の激化を受けて前年度より 11.9%減の 4.5 百万トンとなるも、中国向け輸出が引き続き堅調に推移する見通し。

なお、2024 年 1～10 月の輸出量は、前年度の干ばつによる減産からの回復を受けて 490.0 万トンで前年同期 (172.4 万トン) の 2.8 倍。輸出先は、中国 391.9 万トン (国別シェア 80.0%)、米国 10.9 万トン (同 2.2%)、チリ 4.9 万トン (同 1.0%) の順で、4 月以降、中国向け輸出が急増している。

2023 年 12 月 10 日に右派のミレイ政権が誕生した。同 12 日に経済相は通貨ペソの公式レートを現行の 1 ドル=350 ペソから 50%以上切り下げ、1 ドル=800 ペソにした。

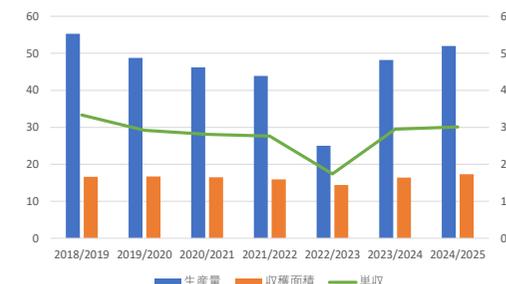
アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、輸出税を大豆に最大 33%、大豆油及び大豆粕に 31%を設定。ミレイ政権においても、輸出税は引き続き維持されている。

## 大豆—アルゼンチン

| 年 度   | 2022/23 | 2023/24<br>(見込み) | 2024/25 (24年10月～25年9月) |               |                |  |
|-------|---------|------------------|------------------------|---------------|----------------|--|
|       |         |                  | 予測値、( )はIGC            | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |  |
| 生産量   | 25.0    | 48.2             | 52.0 (51.5)            | 1.0           | 7.9            |  |
| 消費量   | 36.6    | 43.8             | 48.6 (48.9)            | 1.0           | 11.0           |  |
| うち搾油用 | 30.3    | 36.6             | 41.0 (42.4)            | 1.0           | 12.2           |  |
| 輸出量   | 4.2     | 5.1              | 4.5 (5.7)              | -             | ▲ 11.9         |  |
| 輸入量   | 9.1     | 7.8              | 6.0 (5.7)              | -             | ▲ 23.0         |  |
| 期末在庫率 | 17.0    | 24.1             | 29.0 (12.6)            | -             | 20.3           |  |
| 期末在庫率 | 41.7%   | 49.2%            | 54.6% (23.2%)          | ▲ 1.0         | 5.3            |  |

(参考)  
 収穫面積(百万ha) 14.40 16.37 17.30 (17.00) 0.40 5.7  
 単収(t/ha) 1.74 2.95 3.01 (3.03) ▲ 0.01 2.0  
 資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
 「World Agricultural Production」(10 December 2024)、  
 IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)

図 アルゼンチン産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移  
(百万 t,百万 ha) (t/ha)



資料: USDA 「PS&D」(2024.12.10) をもとに農林水産省にて作成

写真 北部サンタフェ州の大豆の圃場風景  
(2024 年 11 月 23 日撮影)



本圃場では大豆の作付作業が行われている。  
 収穫作業は 2025 年 4 月を予定。

撮影者: José Daniel Peloni

(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について (2024/25年度)

|        | 小麦            | とうもろこし       | コメ           | 大豆           |
|--------|---------------|--------------|--------------|--------------|
| 米国     | 24年6月～25年5月   | 24年9月～25年8月  | 24年8月～25年7月  | 24年9月～25年8月  |
| カナダ    | 24年8月～25年7月   |              |              | 24年8月～25年7月  |
| 豪州     | 24年10月～25年9月  |              | 25年3月～25年2月  |              |
| EU     | 24年7月～25年6月   | 24年10月～25年9月 |              |              |
| 中国     | 24年7月～25年6月   | 24年10月～25年9月 | 24年7月～25年6月  | 24年10月～25年9月 |
| ロシア    | 24年7月～25年6月   | 24年10月～25年9月 |              | 24年9月～25年8月  |
| ウクライナ  | 24年7月～25年6月   | 24年10月～25年9月 |              |              |
| ブラジル   |               | 25年3月～26年2月  | 25年4月～26年3月  | 24年10月～25年9月 |
| アルゼンチン | 24年12月～25年11月 | 25年3月～26年2月  |              | 24年10月～25年9月 |
| タイ     |               |              | 25年1月～12月    |              |
| インド    | 24年4月～25年3月   |              | 24年10月～25年9月 |              |
| ベトナム   |               |              | 25年1月～12月    |              |

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。  
 例えば、2024/25年度は、米国の小麦では2024年6月～2025年5月、ブラジルのとうもろこしでは2025年3月～2026年2月です。  
 なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。  
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

|                                   |          |         |        |     |
|-----------------------------------|----------|---------|--------|-----|
| 1 Bushel<br>(ブッシェル)<br>(穀物により異なる) | 0.027216 | メトリックトン | 小麦、大豆  | 米国等 |
|                                   | 0.021772 | メトリックトン | 大麦     |     |
|                                   | 0.025401 | メトリックトン | とうもろこし |     |
|                                   | 0.014515 | メトリックトン | オーツ    |     |
| 1 CWT(百ポンド)                       | 0.045359 | メトリックトン | コメ     | 米国等 |

2 面積

|             |         |       |     |
|-------------|---------|-------|-----|
| 1Acre(エーカー) | 0.40469 | ヘクタール | 米国等 |
| 1rai(ライ)    | 0.16    | ヘクタール | タイ  |
| 1 亩(ムー)     | 0.0667  | ヘクタール | 中国  |

3 その他

|      |       |      |    |
|------|-------|------|----|
| 1ガロン | 4.536 | リットル | 英国 |
| 1ガロン | 3.785 | リットル | 米国 |

|            |     |     |     |
|------------|-----|-----|-----|
| 1LAKH(ラーク) | 10万 | 位取り | インド |
|------------|-----|-----|-----|

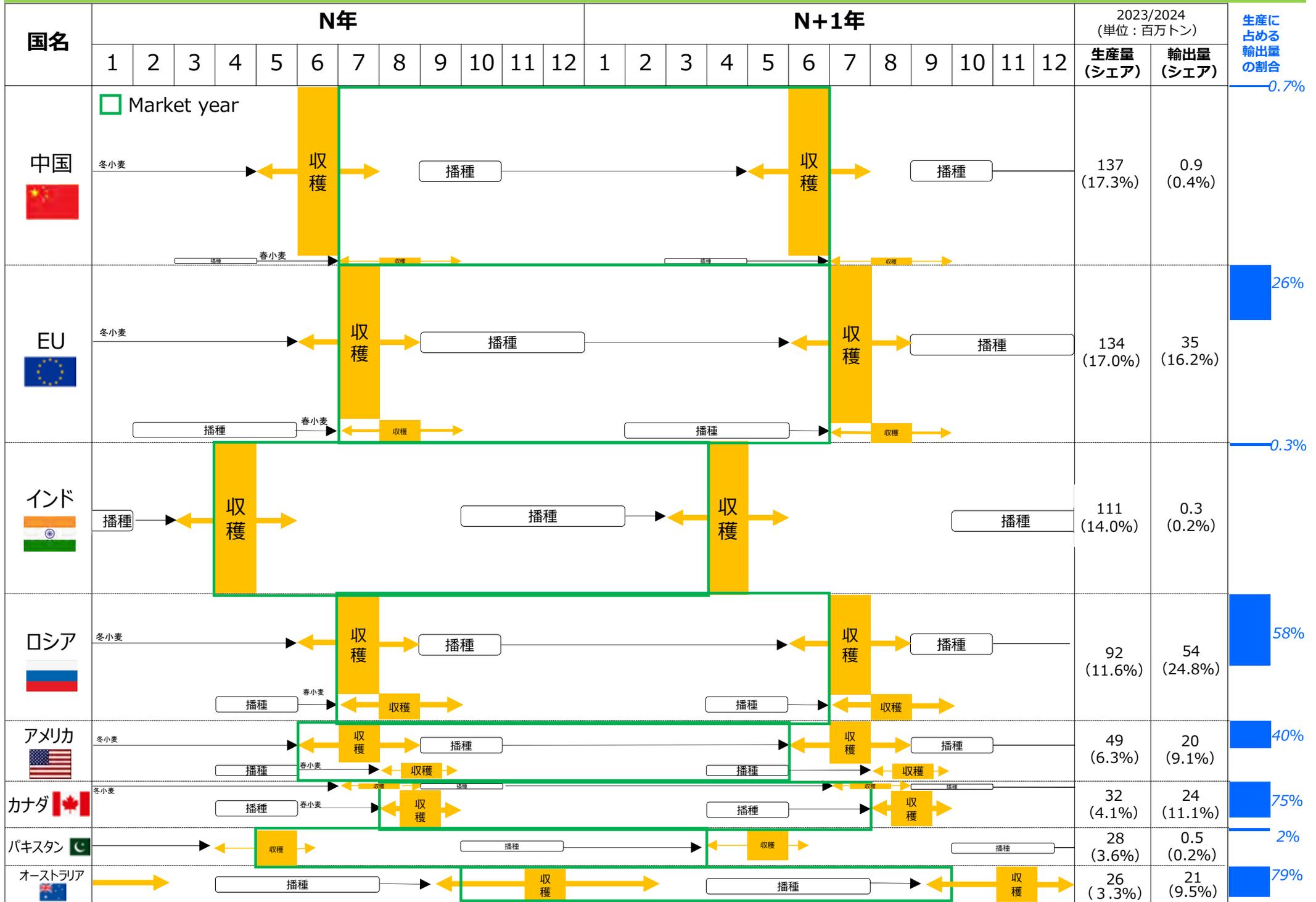
|    |      |    |    |
|----|------|----|----|
| 1斤 | 500g | 重量 | 中国 |
|----|------|----|----|

|   |  |  |  |
|---|--|--|--|
| 華氏→摂氏 : $^{\circ}\text{C} = (^{\circ}\text{F} - 32) \div 1.8$ |  |  |  |
|---|--|--|--|

(参考3)各国のクロープカレンダー一覧(主要品目毎)

# 主要生産国のクロープカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



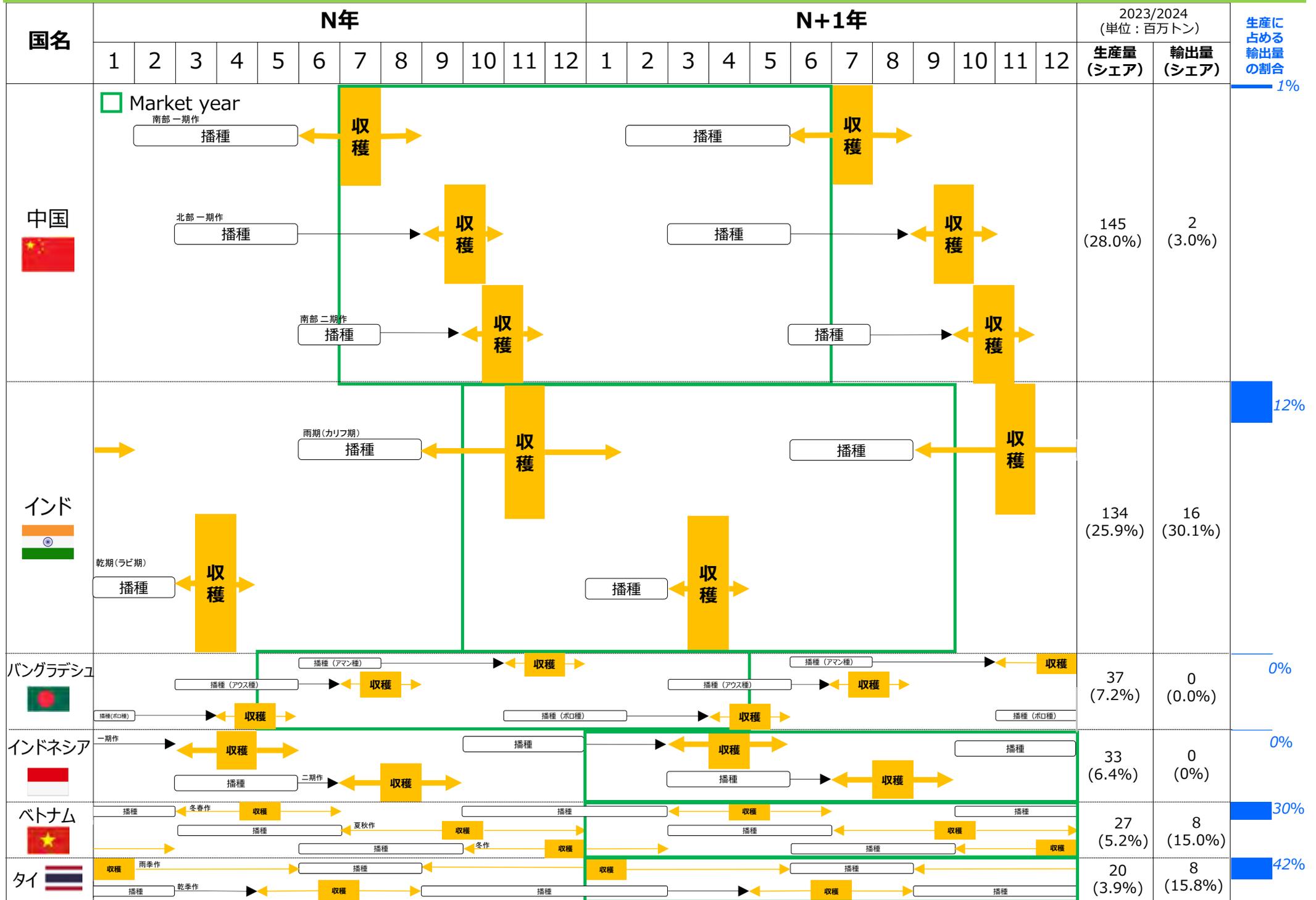
資料: AMIS [Supply and demand balances manual]、USDA [Crop Calendars]、[PS&D] (2024.5)

注: シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。  
冬小麦と春小麦の収穫量の割合は便宜的にデュラム小麦は全て春小麦としている。

その他: 生産に占める輸出量の割合

# 主要生産国のクロープカレンダー(米)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料: AMIS 「Supply and demand balances manual」、USDA 「Crop Calendar」、「PS&D」 (2024.5)

注: シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。 その他: 122 (23.5%) 19 (36.1%)

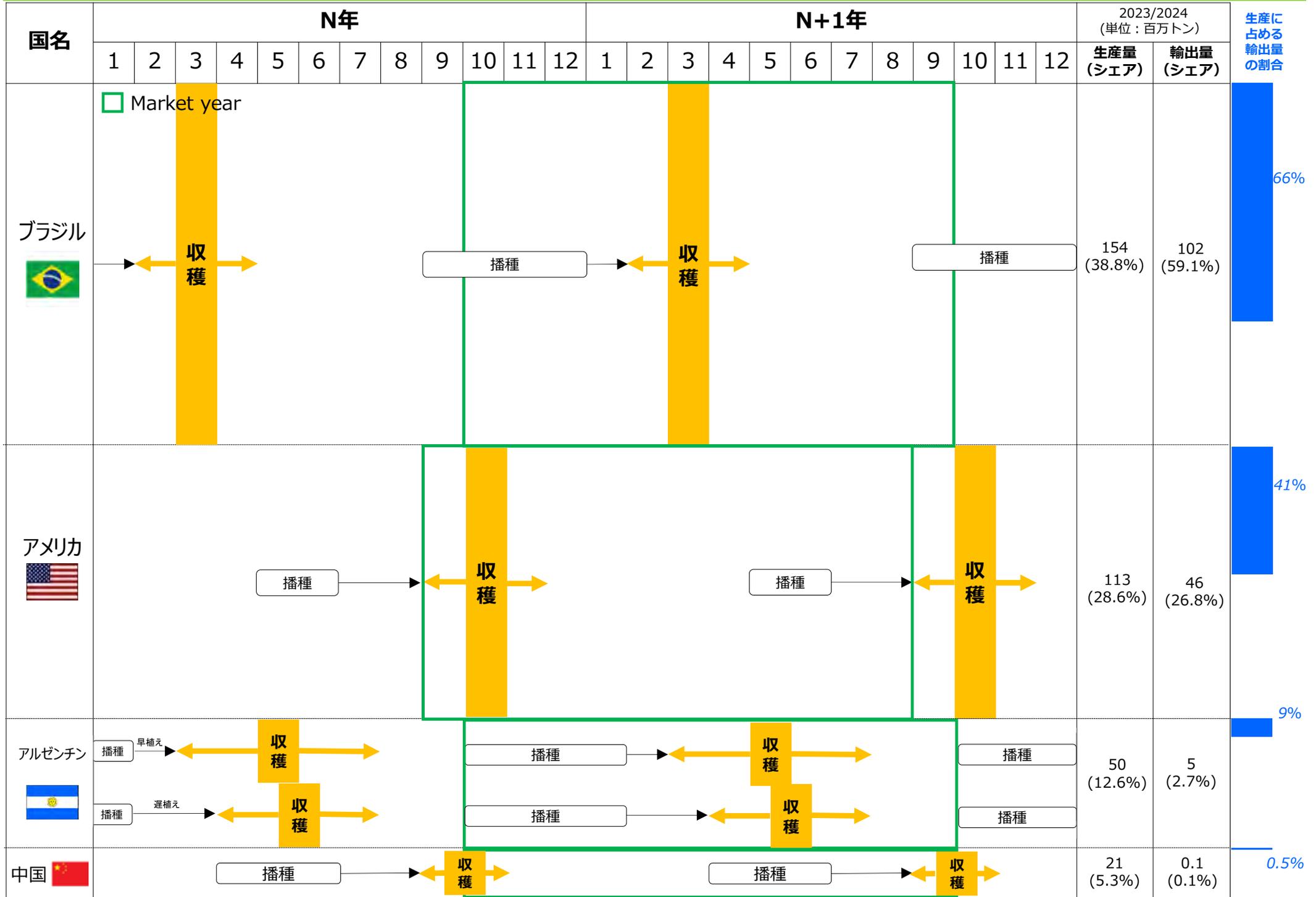
# 主要生産国のクロープカレンダー(とうもろこし)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

| 国名  | N年   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | N+1年           |               |     |   |   |   |   |   |   |    |                |               | 2023/2024<br>(単位:百万トン) |              | 生産に<br>占める<br>輸出量<br>の割合 |
|---|--|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----------------|---------------|-----|---|---|---|---|---|---|----|----------------|---------------|------------------------|--------------|--------------------------|
|   | 1  | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1              | 2             | 3   | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11             | 12            | 生産量<br>(シェア)           | 輸出量<br>(シェア) |                          |
| アメリカ<br>           | <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <span style="border: 1px solid green; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; margin-right: 5px;"></span> Market year                 </div><br>播種 → 収穫 (9-10月) |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | 390<br>(31.7%) | 55<br>(27.7%) | 14% |   |   |   |   |   |   |    |                |               |                        |              |                          |
| 中国<br>            | 播種 (春作) → 収穫 (8-9月)<br>播種 (夏作) → 収穫 (5-6月)   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | 289<br>(23.5%) | 0<br>(0.0%)   | 0%  |   |   |   |   |   |   |    |                |               |                        |              |                          |
| ブラジル<br>         | 夏とうもろこし 播種 → 収穫 (10-11月)<br>冬とうもろこし 播種 → 収穫 (5-6月)   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | 122<br>(9.9%)  | 50<br>(25.3%) | 41% |   |   |   |   |   |   |    |                |               |                        |              |                          |
| EU<br>           | 播種 → 収穫 (9-10月)  |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | 61<br>(5.0%)   | 4<br>(2.1%)   | 7%  |   |   |   |   |   |   |    |                |               |                        |              |                          |
| アルゼンチン<br>       | 播種 → 収穫 (11-12月)   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | 53<br>(4.3%)   | 38<br>(19.3%) | 72% |   |   |   |   |   |   |    |                |               |                        |              |                          |
| インド<br>          | 乾期(ラビ期) 播種 → 収穫 (1-2月)<br>雨期(カリフ期) 播種 → 収穫 (7-8月)  |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | 38<br>(3.1%)   | 0.8<br>(0.4%) | 2%  |   |   |   |   |   |   |    |                |               |                        |              |                          |
| 資料 : AMIS 「Supply and demand balances manual」、USDA 「PS&D」 (2024.5) 注 : シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。 |  |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |                |               |     |   |   |   |   |   |   |    | 276<br>(22.5%) | 50<br>(25.2%) | その他 :                  |              |                          |

# 主要生産国のクロープカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料 : AMIS 「Supply and demand balances manual」、USDA 「PS&D」 (2024.5) 注 : シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。 その他 :

59  
(14.8%)

20  
(11.3%)

# 主要生産国のクロープカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

| 国名   | N年          |   |   |   |        |    |        |    |   |    |        |        | N+1年 |    |        |   |        |        |    |    |   |             |               |               | 2023/2024<br>(単位：百万トン) |               | 生産に<br>占める<br>輸出量<br>の割合 |
|--|-------------|---|---|---|--------|----|--------|----|---|----|--------|--------|------|----|--------|---|--------|--------|----|----|---|-------------|---------------|---------------|------------------------|---------------|--------------------------|
|  | 1           | 2 | 3 | 4 | 5      | 6  | 7      | 8  | 9 | 10 | 11     | 12     | 1    | 2  | 3      | 4 | 5      | 6      | 7  | 8  | 9 | 10          | 11            | 12            | 生産量<br>(シェア)           | 輸出量<br>(シェア)  |                          |
| EU<br>        | Market year |   |   |   |        |    | 収穫     | 播種 |   |    |        |        | 播種   | 収穫 |        |   |        |        | 播種 | 収穫 |   |             |               |               | 20<br>(22.6%)          | 0.6<br>(3.3%) | 3%                       |
| カナダ<br>       |             |   |   |   |        | 播種 | ← 収穫 → |    |   |    |        | ← 収穫 → | 播種   |    |        |   |        | ← 収穫 → | 播種 |    |   |             |               | 19<br>(21.3%) | 7<br>(39.3%)           | 35%           |                          |
| 中国<br>       |             |   |   |   | ← 収穫 → |    |        |    |   | 播種 |        |        |      |    | ← 収穫 → |   |        |        |    | 播種 |   |             |               |               | 15<br>(17.4%)          | 0<br>(0%)     | 0%                       |
| インド<br>     |             |   |   |   | ← 収穫 → |    |        |    |   | 播種 |        |        |      |    | ← 収穫 → |   |        |        |    | 播種 |   |             |               |               | 13<br>(14.1%)          | 0<br>(0%)     | 0%                       |
| オーストラリア<br> |             |   |   |   |        | 播種 | ← 収穫 → |    |   |    |        | 播種     |      |    |        |   | ← 収穫 → |        |    |    |   | 6<br>(6.4%) | 5<br>(27.6%)  | 81%           |                        |               |                          |
| ウクライナ<br>   |             |   |   |   | ← 収穫 → | 播種 |        |    |   |    | ← 収穫 → | 播種     |      |    |        |   | ← 収穫 → | 播種     |    |    |   |             | 4<br>(5.0%)   | 3<br>(20.5%)  | 78%                    |               |                          |
| ロシア<br>     |             |   |   |   |        | 播種 | ← 収穫 → |    |   |    |        | 播種     |      |    |        |   | ← 収穫 → |        |    |    |   | 4<br>(4.8%) | 0.8<br>(4.8%) | 19%           |                        |               |                          |

資料：USDA「Crop Calendar」、「PS&D」(2024.5)

注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している

その他：7 (8.4%) 0.7 (4.5%)

## 【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

### ○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

#### (1) 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

#### (2) 農林水産関係機関の情報（ALICの情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

#### (3) その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

### ○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が2024年12月中旬までに発表した情報を引用しています。（最新年度2024/25年度です）

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

[http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY\\_REPORTS](http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS)

## 主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。  
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。  
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>  
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

ロシアが占領しているウクライナのクリミアの生産量については、米国農務省はウクライナとして集計しています。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

[http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j\\_rep/index.html](http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html)

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

|  |
|--|
| <p><b>連絡先</b>      <b>農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室</b><br/><b>TEL : 03-6744-2368 (直通)</b></p> |
|--|

## 「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。  
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

- 1 あなたの所属を教えてください。（選択式）  
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大  
学生・高校生、その他
- 2 あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）  
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外  
その他
- 3 月報をどこで知りましたか。（選択式）  
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、  
書籍、その他
- 4 月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。
- 5 月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）  
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、今月のコラム、  
その他）  
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））  
特別分析トピック
- 6 今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）  
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響  
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）  
ウクライナ情勢の生産・貿易への影響  
中国の需要・輸入動向  
世界的な人口増加による食料需要・貿易への影響  
中長期（10年先）、超長期（30年先）的な食料需給見通し
- 7 今後月報に期待することはありますか。（自由記載）

ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。

[https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo\\_geppou\\_ankeeto.html](https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html)

